

20 / 500 173
25 JUL 2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

PCT/JP02/13781

27.12.02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2001年12月28日

出 願 番 号
Application Number:

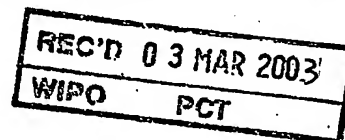
特願2001-403260

[ST.10/C]:

[JP2001-403260]

出 願 人
Applicant(s):

武田薬品工業株式会社

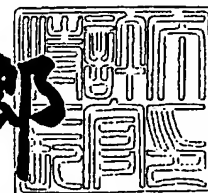


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 2月12日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3006526

BEST AVAILABLE COPY

特 2001-403260

【書類名】 特許願
【整理番号】 B01515
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 C12N 15/00
【発明者】

【住所又は居所】 茨城県つくば市春日 1 丁目 7 番地 9 武田春日ハイツ 1
204 号

【氏名】 松本 寛和

【発明者】

【住所又は居所】 茨城県つくば市二の宮 1 丁目 10 番地 19 ファンタブル
二の宮 I 棟 205 号

【氏名】 野口 次郎

【発明者】

【住所又は居所】 茨城県つくば市春日 3 丁目 8 番地 5

【氏名】 森 正明

【特許出願人】

【識別番号】 000002934

【氏名又は名称】 武田薬品工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100114041

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 秀一

【選任した代理人】

【識別番号】 100110456

【弁理士】

【氏名又は名称】 内山 務

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 005142

【納付金額】 21,000円

特2001-403260

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9909276

【包括委任状番号】 9721047

【ブルーフの要否】 要

【書類名】明細書

【発明の名称】体重増加抑制剤

【特許請求の範囲】

【請求項 1】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる体重増加抑制剤。

【請求項 2】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる体重減少剤。

【請求項 3】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる脂肪量増加抑制剤。

【請求項 4】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる摂食抑制剤。

【請求項 5】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング方法。

【請求項 6】配列番号：16 で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有することを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング用キット。

【請求項 7】請求項 5 記載のスクリーニング方法または請求項 6 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬。

【請求項 8】請求項 5 記載のスクリーニング方法または請求項 6 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬を含有してなる医薬。

【請求項 9】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有してなる体重増加抑制剤。

【請求項 10】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有してなる体重減少剤。

【請求項 11】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有してなる脂肪量増加抑制剤。

【請求項 12】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有してなる摂食抑制剤。

【請求項 13】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を用いることを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング方法。

【請求項 14】配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有することを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング用キット。

【請求項 15】請求項 13 記載のスクリーニング方法または請求項 14 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬。

【請求項 16】請求項 13 記載のスクリーニング方法または請求項 14 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬を含有してなる医薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は体重増加抑制剤、体重減少剤などに関する。

【0002】

【従来の技術】

糖尿病をはじめとする生活習慣病の増加は、PPAR γ などのいわゆる俊約遺伝子に代表される飢餓状態に備えて脂肪を蓄積する方向性をもった生体機能が、現代の高脂肪食を中心とした食生活または運動不足といった生活環境に適応でき

なくなっていることが主な原因されている。その結果としての肥満は、糖尿病の原因となるだけでなく、高血圧などのリスクファクターともなるため、副作用の少ない安全な抗肥満薬の開発は、多くの生活習慣病の発症を防ぐことに繋がり、医療経済的に最も要求度の高いものの一つである。こうした抗肥満薬として、現在、カテコラミン・セロトニン再取り込み阻害剤である *sibutramine* および脂肪吸収阻害剤である *orlistat* が使用されている。その他、熱産生促進薬の $\beta 3$ アゴニスト、中枢性摂食抑制薬ニューロペプチドYアンタゴニスト、メラノコルチン受容体サブタイプ4アゴニストなどが開発あるいは研究途上にある (J. C. Claphamら、*Pharmacol. Ther.*、89巻、81-121頁、2001年、M. Chiesiら、*Trends Pharmacol. Sci.*、22巻、247-54頁、2001年)。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、さらに新たなメカニズムに基づく作用の強力で副作用の少ない安全な体重増加抑制剤、体重減少剤の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明者たちは上記の課題を解決するために鋭意研究を重ねた結果、GPR8と結合する内因性リガンドが体重増加抑制活性を有することを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】

すなわち、本発明は、

- (1) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる体重増加抑制剤、
- (2) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる体重減少剤、
- (3) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のア

ミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる脂肪量増加抑制剤、

(4) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有してなる摂食抑制剤、

(5) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を用いることを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング方法、

(6) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有するポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩を含有することを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング用キット、

(7) 上記(5)記載のスクリーニング方法または上記(6)記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬、

(8) 上記(5)記載のスクリーニング方法または上記(6)記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬を含有してなる医薬、

(9) 配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAを含有してなる体重増加抑制剤、

(10) 配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAを含有してなる体重減少剤、

(11) 配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAを含有してなる脂肪量増加抑制剤、

(12) 配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAを含有してなる摂食抑制剤、

(13) 配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAを用いることを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬の

スクリーニング方法、

(14) 配列番号：18 で表わされる塩基配列を含有する DNA を含有することを特徴とする体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬のスクリーニング用キット、

(15) 上記 (13) 記載のスクリーニング方法または上記 (14) 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬、

(16) 上記 (13) 記載のスクリーニング方法または上記 (14) 記載のスクリーニング用キットを用いて得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬または摂食抑制薬を含有してなる医薬などを提供する。

【0006】

【発明の実施の形態】

本発明で用いられる配列番号：16 で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有するポリペプチド（以下、本発明のポリペプチドと称する場合がある）は、ヒトや温血動物（例えば、モルモット、ラット、マウス、ニワトリ、ウサギ、ブタ、ヒツジ、ウシ、サルなど）の細胞（例えば、網膜細胞、肝細胞、脾細胞、神経細胞、グリア細胞、膵臓β細胞、骨髄細胞、メサングウム細胞、ランゲルハンス細胞、表皮細胞、上皮細胞、内皮細胞、繊維芽細胞、繊維細胞、筋細胞、脂肪細胞、免疫細胞（例、マクロファージ、T細胞、B細胞、ナチュラルキラー細胞、肥満細胞、好中球、好塩基球、好酸球、単球）、巨核球、滑膜細胞、軟骨細胞、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、乳腺細胞、肝細胞もしくは間質細胞、またはこれら細胞の前駆細胞、幹細胞もしくは癌細胞など）もしくはそれらの細胞が存在するあらゆる組織、例えば、脳、脳の各部位（例、網膜、嗅球、扁桃核、大脳基底核、海馬、視床、視床下部、大脳皮質、延髄、小脳）、脊髄、下垂体、胃、膵臓、腎臓、肝臓、生殖腺、甲状腺、胆のう、骨髄、副腎、皮膚、筋肉、肺、消化管（例、大腸、小腸）、血管、心臓、胸腺、脾臓、顎下腺、末梢血、前立腺、睾丸、卵巣、胎盤、子宮、骨、関節、骨格筋など、または血球系の細胞もしくはその培養細胞（例えば、MEL, M1, CTLL-2, HT-2, WEHI-3, HL-60, JOSK-1, K562, ML-1,

MOLT-3, MOLT-4, MOLT-10, CCRF-CEM, TALL-1, Jurkat, CCRT-HSB-2, KE-37, SKW-3, HUT-78, HUT-102, H9, U937, THP-1, HEL, JK-1, CMK, KO-812, MEG-0.1など)に由来するポリペプチドであってもよく、合成ポリペプチドであってもよい。

【0007】

配列番号：16で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、配列番号：16で表わされるアミノ酸配列と約90%以上、好ましくは約95%以上、より好ましくは約98%以上の相同性を有するアミノ酸配列などがあげられる。

特に、配列番号：16で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、上記のアミノ酸配列の他、

(i) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列中の1～5個（好ましくは1～3個、さらに好ましくは1～2個、より好ましくは、1個）のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、

(ii) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列に1～5個（好ましくは1～3個、さらに好ましくは1～2個、より好ましくは、1個）のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、

(iii) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列に1～5個（好ましくは1～3個、さらに好ましくは1～2個、より好ましくは、1個）のアミノ酸が挿入されたアミノ酸配列、

(iv) 配列番号：16で表されるアミノ酸配列中の1～5個（好ましくは1～3個、さらに好ましくは1～2個、より好ましくは、1個）のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、

(v) 上記(i)～(iv)を組み合わせたアミノ酸配列などがあげられる。

【0008】

配列番号：16で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を有するポリペプチドとしては、例えば、前記の配列番号：16で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を有し、配列番号：16で表わされるアミ

ノ酸配列を有するポリペプチドと実質的に同質の活性を有するポリペプチドなどが好ましい。

実質的に同質の活性としては、例えば、本発明のポリペプチドの有する活性（例、体重増加抑制作用、体重減少作用、脂肪量増加抑制作用、摂食抑制作用）などがあげられる。

実質的に同質の活性とは、それらの活性が性質的に（例、生理化学的に、または薬理学的に）同質であることを示す。

配列番号：16で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列の具体例としては、例えば、配列番号：6、配列番号：17、配列番号：20、配列番号：21、配列番号：22、配列番号：23、配列番号：24、配列番号：25、配列番号：56、配列番号：57、配列番号：73、配列番号：74、配列番号：91、配列番号：92、配列番号：95、配列番号：96、配列番号：97、配列番号：98、配列番号：99、配列番号：100、配列番号：101、配列番号：102、配列番号：103、配列番号：104、配列番号：105、配列番号：106、配列番号：107、配列番号：108、配列番号：109、配列番号：110、配列番号：111、配列番号：112または配列番号：113で表されるアミノ酸配列などがあげられる。

【0009】

本発明のポリペプチドの具体例としては、例えば、配列番号：16で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：6で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：17で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：20で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：21で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：22で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：23で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：24で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：25で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：56で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：57で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：73で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：74で表されるアミノ酸配列を有するポリ

ペプチド、配列番号：91で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：92で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：95で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：96で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：97で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：98で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：99で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：100で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：101で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：102で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：103で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：104で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：105で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：106で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：107で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：108で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：109で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：110で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：111で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：112で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチドおよび配列番号：113で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチドなどのGPR8と特異的に結合する能力を有するポリペプチドがあげられる。

また、本発明のポリペプチドは、本発明のポリペプチドの前駆体ポリペプチドをも包含する意味で用いられる。

該前駆体ポリペプチドの具体例としては、例えば、配列番号：15で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有することを特徴とするポリペプチド等があげられる。

より、具体的には、

配列番号：15で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、配列番号：15で表わされるアミノ酸配列と約80%以上、好ましくは約90%以上、より好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列などがあげられる。

特に、配列番号：15で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、上記のアミノ酸配列の他、

(i) 配列番号：15で表されるアミノ酸配列中の1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、

(i i) 配列番号：15で表されるアミノ酸配列に1～100個（好ましくは1～50個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、

(i i i) 配列番号：15で表されるアミノ酸配列に1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が挿入されたアミノ酸配列、

(i v) 配列番号：15で表されるアミノ酸配列中の1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、

(v) 上記(i)～(i v)を組み合わせたアミノ酸配列などがあげられる。

配列番号：15で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列の具体例としては、例えば、配列番号：42、配列番号：55、配列番号：72または配列番号：90で表されるアミノ酸配列などがあげられる。

上記前駆体ポリペプチドの具体例としては、例えば、配列番号：15で表わされるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：42で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：55で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチド、配列番号：72で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチドおよび配列番号：90で表されるアミノ酸配列を有するポリペプチドなどがあげられる。

【0010】

本発明のポリペプチドに対する受容体としては、種々の受容体のうち、本発明のポリペプチドと結合活性を有し、本発明のポリペプチドにより該受容体発現細胞の細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内Ca²⁺遊離、細胞内cAMP生成／抑制、細胞内cGMP生成、イノシトールリン

酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下、GTPγS結合活性などを促進する活性等）が観察されるものなどがあげられる。

具体的には、（１）GPR8（配列番号：4；Genomics、28巻、84-91頁、1995年）、またはGPR8と実質的に同一のアミノ酸配列（配列番号：4で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質）、（２）配列番号：126で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する受容体、（３）配列番号：138で表されるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を含有する受容体、（４）GPR7（配列番号：144；Genomics、28巻、84-91頁、1995年）などがあげられる。

配列番号：4で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有する蛋白質、配列番号：126で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有する蛋白質、配列番号：138で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有する蛋白質、配列番号：144で表わされるアミノ酸配列と同一もしくは実質的に同一のアミノ酸配列を有する蛋白質（以下、本発明の受容体と称する場合がある）は、ヒトや温血動物（例えば、モルモット、ラット、マウス、ニワトリ、ウサギ、ブタ、ヒツジ、ウシ、サルなど）の細胞（例えば、網膜細胞、肝細胞、脾細胞、神経細胞、グリア細胞、脾臓β細胞、骨髓細胞、メサングウム細胞、ランゲルハンス細胞、表皮細胞、上皮細胞、内皮細胞、繊維芽細胞、繊維細胞、筋細胞、脂肪細胞、免疫細胞（例、マクロファージ、T細胞、B細胞、ナチュラルキラー細胞、肥満細胞、好中球、好塩基球、好酸球、単球）、巨核球、滑膜細胞、軟骨細胞、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、乳腺細胞、肝細胞もしくは間質細胞、またはこれら細胞の前駆細胞、幹細胞もしくは癌細胞など）もしくはそれらの細胞が存在するあらゆる組織、例えば、脳、脳の各部位（例、網膜、嗅球、扁桃核、大脳基底核、海馬、視床、視床下部、大脳皮質、延髄、小脳）、脊髄、下垂体、胃、脾臓、腎臓、肝臓、生殖腺、甲状腺、胆のう、骨髓、副腎、皮膚、筋肉、肺、消化管（例、大腸、小腸）、血管、心臓、胸腺、脾臓、顎下腺、末梢血、前立腺、睾丸、卵

巢、胎盤、子宮、骨、関節、骨格筋など、または血球系の細胞もしくはその培養細胞（例えば、MEL, M1, CTLL-2, HT-2, WEHI-3, HL-60, JOSK-1, K562, ML-1, MOLT-3, MOLT-4, MOLT-10, CCRF-CEM, TALL-1, Jurkat, CCRT-HSB-2, KE-37, SKW-3, HUT-78, HUT-102, H9, U937, THP-1, HEL, JK-1, CMK, KO-812, MEG-01など）に由来する蛋白質であってもよく、合成蛋白質であってもよい。

【0011】

配列番号：4で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、配列番号：4で表わされるアミノ酸配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上の相同性を有するアミノ酸配列などがあげられる。

配列番号：126で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、例えば、配列番号：126で表されるアミノ酸配列と85%以上、好ましくは約90%以上、より好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列などが挙げられる。

配列番号：138で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、例えば、配列番号：138で表されるアミノ酸配列と86%以上、好ましくは約90%以上、より好ましくは約95%以上の相同性を有するアミノ酸配列などが挙げられる。

配列番号：144で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、配列番号：144で表わされるアミノ酸配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上の相同性を有するアミノ酸配列などがあげられる。

配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を含有する蛋白質としては、例えば、配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列を含有し、配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表

されるアミノ酸配列を有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質などが好ましい。

配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表わされるアミノ酸配列と実質的に同一のアミノ酸配列としては、(i) 配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列中の1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が欠失したアミノ酸配列、(ii) 配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列に1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が付加したアミノ酸配列、(iii) 配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列に1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が挿入されたアミノ酸配列、(iv) 配列番号：4、配列番号：126、配列番号：138または配列番号：144で表されるアミノ酸配列中の1～15個（好ましくは1～10個、さらに好ましくは1～5個、より好ましくは、1～3個）のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されたアミノ酸配列、(v) 上記(i)～(iv)を組み合わせたアミノ酸配列などがあげられる。

本発明の受容体の具体例としては、例えば、配列番号：4で表されるアミノ酸配列を含有する蛋白質、配列番号：126で表されるアミノ酸配列を含有する蛋白質、配列番号：138で表されるアミノ酸配列を含有する蛋白質、配列番号：144で表されるアミノ酸配列を含有する蛋白質などが用いられる。

【0012】

本発明のポリペプチドに対する受容体の部分ペプチド（以下、本発明の部分ペプチドと称する場合がある）としては、後述の医薬等のスクリーニング方法に用いることのできる部分ペプチドであれば、いかなるものであってもよいが、好ましくは、本発明のポリペプチドに対する結合能を有する部分ペプチド、細胞膜外領域に相当するアミノ酸配列を含有する部分ペプチド等が用いられる。本発明の受容体の構成アミノ酸配列のうち20個以上、好ましくは50個以上、より

好ましくは100個以上のアミノ酸配列を有するペプチドなどが好ましい。(i) 上記アミノ酸配列中の1または2個以上(好ましくは、1~10個程度、さらに好ましくは数個(1~5個))のアミノ酸が欠失し、(ii) 上記アミノ酸配列に1または2個以上(好ましくは、1~20個程度、より好ましくは1~10個程度、さらに好ましくは数個(1~5個))のアミノ酸が付加し、または(iii) 上記アミノ酸配列中の1または2個以上(好ましくは、1~10個程度、より好ましくは数個、さらに好ましくは1~5個程度)のアミノ酸が他のアミノ酸で置換されていてもよい。

具体例としては、(a) 配列番号: 4で表されるアミノ酸配列中、1番目(Met)~123番目(Phe)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部、301番目(Asn)~358番目(Lys)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部、548番目(Tyr)~593番目(Arg)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部、および843番目(Ala)~895番目(Ile)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部から選択される1または2以上の部分アミノ酸配列を含有する部分ペプチド、(b) 配列番号: 126で表されるアミノ酸配列中、1番目(Met)~85番目(Asp)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部、または222番目(Cys)~329番目(Ala)のアミノ酸残基からなる部分アミノ酸配列もしくはその一部を含有するペプチドなどがあげられる。

【0013】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドは、ペプチド標記の慣例に従って左端がN末端(アミノ末端)、右端がC末端(カルボキシル末端)である。本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドは、C末端がカルボキシル基($-\text{COOH}$)、カルボキシレート($-\text{COO}^-$)、アミド($-\text{CONH}_2$)またはエステル($-\text{COOR}$)の何れであってもよい。

ここでエステルにおけるRとしては、例えば、メチル、エチル、n-プロピル、イソプロピルもしくはn-ブチルなどの C_{1-6} アルキル基、例えば、シクロペンチル、シクロヘキシルなどの C_{3-8} シクロアルキル基、例えば、フェニル

、 α -ナフチルなどの C_{6-12} アリール基、例えば、ベンジル、フェネチルなどのフェニル- C_{1-2} アルキル基もしくは α -ナフチルメチルなどの α -ナフチル- C_{1-2} アルキル基などの C_{7-14} アラルキル基のほか、経口用エステルとして汎用されるピバロイルオキシメチル基などが用いられる。

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドがC末端以外にカルボキシル基（またはカルボキシレート）を有している場合、カルボキシル基がアミド化またはエステル化されているものも本発明のポリペプチドに含まれる。この場合のエステルとしては、例えば上記したC末端のエステルなどが用いられる。

さらに、本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドには、N末端のアミノ酸残基（例、メチオニン残基）のアミノ基が保護基（例えば、ホルミル基、アセチル基などの C_{1-6} アルカノイルなどの C_{1-6} アシル基など）で保護されているもの、生体内で切断されて生成するN末端のグルタミン残基がピログルタミン酸化したもの、分子内のアミノ酸の側鎖上の置換基（例えば-OH、-SH、アミノ基、イミダゾール基、インドール基、グアニジノ基など）が適当な保護基（例えば、ホルミル基、アセチル基などの C_{1-6} アルカノイル基などの C_{1-6} アシル基など）で保護されているもの、あるいは糖鎖が結合したいわゆる糖蛋白質などの複合蛋白質なども含まれる。

【0014】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドの塩としては、生理学的に許容される酸（例、無機酸、有機酸）や塩基（例、アルカリ金属塩）などとの塩が用いられ、とりわけ生理学的に許容される酸付加塩が好ましい。このような塩としては、例えば、無機酸（例えば、塩酸、リン酸、臭化水素酸、硫酸）などの塩、あるいは有機酸（例えば、酢酸、ギ酸、プロピオン酸、フマル酸、マレイン酸、コハク酸、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸、蔞酸、安息香酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸）との塩などが用いられる。

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドは、前述したヒトや温血動物の細胞または組織から公知のポリペプチドの精製方法によって製造することもできるし、後述するポリペプチドをコードするDNAで形質転換された形質転換体を培養することによっても製造することができる。また、後述のペプチド

合成法に準じて製造することもできる。

ヒトや哺乳動物の組織または細胞から製造する場合、ヒトや哺乳動物の組織または細胞をホモジナイズした後、酸などで抽出を行ない、該抽出液を逆相クロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを組み合わせるにより精製単離することができる。

【0015】

本発明のポリペプチド、受容体、その部分ペプチド、もしくはそれらの塩、またはそれらのアミド体の合成には、通常市販のポリペプチド合成用樹脂を用いることができる。そのような樹脂としては、例えば、クロロメチル樹脂、ヒドロキシメチル樹脂、ベンズヒドリルアミン樹脂、アミノメチル樹脂、4-ベンジルオキシベンジルアルコール樹脂、4-メチルベンズヒドリルアミン樹脂、PAM樹脂、4-ヒドロキシメチルメチルフェニルアセトアミドメチル樹脂、ポリアクリルアミド樹脂、4-(2', 4'-ジメトキシフェニル-ヒドロキシメチル)フェノキシ樹脂、4-(2', 4'-ジメトキシフェニル-Fmocアミノエチル)フェノキシ樹脂などをあげることができる。このような樹脂を用い、 α -アミノ基と側鎖官能基を適当に保護したアミノ酸を、目的とするポリペプチドの配列通りに、公知の各種縮合方法に従い、樹脂上で縮合させる。反応の最後に樹脂からポリペプチドを切り出すと同時に各種保護基を除去し、さらに高希釈溶液中で分子内ジスルフィド結合形成反応を実施し、目的のポリペプチド、受容体、部分ペプチドまたはそれらのアミド体を取得する。

上記した保護アミノ酸の縮合に関しては、ポリペプチド合成に使用できる各種活性化試薬を用いることができるが、特に、カルボジイミド類がよい。カルボジイミド類としては、DCC、N, N'-ジイソプロピルカルボジイミド、N-エチル-N'-(3-ジメチルアミノプロリル)カルボジイミドなどが用いられる。これらによる活性化にはラセミ化抑制添加剤（例えば、HOBt、HOObt）とともに保護アミノ酸を直接樹脂に添加するかまたは、対称酸無水物またはHOBtエステルあるいはHOObtエステルとしてあらかじめ保護アミノ酸の活性化を行なった後に樹脂に添加することができる。

保護アミノ酸の活性化や樹脂との縮合に用いられる溶媒としては、ポリペプチ

ド縮合反応に使用しうることが知られている溶媒から適宜選択されうる。例えば、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド、N-メチルピロリドンなどの酸アミド類、塩化メチレン、クロロホルムなどのハロゲン化炭化水素類、トリフルオロエタノールなどのアルコール類、ジメチルスルホキシドなどのスルホキシド類、ピリジン、ジオキサン、テトラヒドロフランなどのエーテル類、アセトニトリル、プロピオニトリルなどのニトリル類、酢酸メチル、酢酸エチルなどのエステル類あるいはこれらの適宜の混合物などが用いられる。反応温度はポリペプチド結合形成反応に使用され得ることが知られている範囲から適宜選択され、通常約-20℃～50℃の範囲から適宜選択される。活性化されたアミノ酸誘導体は通常1.5～4倍過剰で用いられる。ニンヒドリン反応を用いたテストの結果、縮合が不十分な場合には保護基の脱離を行なうことなく縮合反応を繰り返すことにより十分な縮合を行なうことができる。反応を繰り返しても十分な縮合が得られないときには、無水酢酸またはアセチルイミダゾールを用いて未反応アミノ酸をアセチル化することによって、後の反応に影響を与えないようにすることができる。

【0016】

原料のアミノ基の保護基としては、例えば、Z、Boc、t-ベンチルオキシカルボニル、イソボルニルオキシカルボニル、4-メトキシベンジルオキシカルボニル、Cl-Z、Br-Z、アダマンチルオキシカルボニル、トリフルオロアセチル、フタロイル、ホルミル、2-ニトロフェニルスルフェニル、ジフェニルホスフィノチオイル、Fmocなどが用いられる。

カルボキシル基は、例えば、アルキルエステル化（例えば、メチル、エチル、プロピル、ブチル、t-ブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル、シクロオクチル、2-アダマンチルなどの直鎖状、分枝状もしくは環状アルキルエステル化）、アラルキルエステル化（例えば、ベンジルエステル、4-ニトロベンジルエステル、4-メトキシベンジルエステル、4-クロロベンジルエステル、ベンズヒドリルエステル化）、フェナシルエステル化、ベンジルオキシカルボニルヒドラジド化、t-ブトキシカルボニルヒドラジド化、トリチルヒドラジド化などによって保護することができる。

セリンの水酸基は、例えば、エステル化またはエーテル化によって保護することができる。このエステル化に適する基としては、例えば、アセチル基などの低級 (C_{1-6}) アルカノイル基、ベンゾイル基などのアロイル基、ベンジルオキシカルボニル基、エトキシカルボニル基などの炭酸から誘導される基などが用いられる。また、エーテル化に適する基としては、例えば、ベンジル基、テトラヒドロピラニル基、*t*-ブチル基などである。

チロシンのフェノール性水酸基の保護基としては、例えば、*Bz*1、*Cl*2-*Bz*1、2-ニトロベンジル、*Br*-*Z*、*t*-ブチルなどが用いられる。

ヒスチジンのイミダゾールの保護基としては、例えば、*Tos*、4-メトキシ-2, 3, 6-トリメチルベンゼンスルホニル、*DNP*、ベンジルオキシメチル、*Bum*、*Boc*、*Trt*、*Fmoc*などが用いられる。

【0017】

原料のカルボキシル基の活性化されたものとしては、例えば、対応する酸無水物、アジド、活性エステル〔アルコール（例えば、ペンタクロロフェノール、2, 4, 5-トリクロロフェノール、2, 4-ジニトロフェノール、シアノメチルアルコール、パラニトロフェノール、*HONB*、*N*-ヒドロキシスクシミド、*N*-ヒドロキシフタルイミド、*HOBT*）とのエステル〕などが用いられる。原料のアミノ基の活性化されたものとしては、例えば、対応するリン酸アミドが用いられる。

保護基の除去（脱離）方法としては、例えば、*Pd*-黒あるいは*Pd*-炭素などの触媒の存在下での水素気流中での接触還元や、また、無水フッ化水素、メタンスルホン酸、トリフルオロメタンスルホン酸、トリフルオロ酢酸あるいはこれらの混合液などによる酸処理や、ジイソプロピルエチルアミン、トリエチルアミン、ピペリジン、ピペラジンなどによる塩基処理、また液体アンモニア中ナトリウムによる還元なども用いられる。上記酸処理による脱離反応は、一般に約-20℃～40℃の温度で行なわれるが、酸処理においては、例えば、アニソール、フェノール、チオアニソール、メタクレゾール、パラクレゾール、ジメチルスルフィド、1, 4-ブタンジチオール、1, 2-エタンジチオールなどのようなカチオン捕捉剤の添加が有効である。また、ヒスチジンのイミダゾール保護基とし

て用いられる 2, 4-ジニトロフェニル基はチオフェノール処理により除去され、トリプトファンのインドール保護基として用いられるホルミル基は上記の 1, 2-エタンジチオール、1, 4-ブタンジチオールなどの存在下の酸処理による脱保護以外に、希水酸化ナトリウム溶液、希アンモニアなどによるアルカリ処理によっても除去される。

原料の反応に関与すべきでない官能基の保護ならびに保護基、およびその保護基の脱離、反応に関与する官能基の活性化などは公知の基または公知の手段から適宜選択しうる。

【0018】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドのアミド体を得る別の方法としては、例えば、まず、カルボキシ末端アミノ酸の α -カルボキシル基をアミド化して保護した後、アミノ基側にペプチド（ポリペプチド）鎖を所望の鎖長まで延ばした後、該ペプチド鎖のN末端の α -アミノ基の保護基のみを除いたポリペプチドとC末端のカルボキシル基の保護基のみを除去したポリペプチドとを製造し、この両ポリペプチドを上記したような混合溶媒中で縮合させる。縮合反応の詳細については上記と同様である。縮合により得られた保護ポリペプチドを精製した後、上記方法によりすべての保護基を除去し、所望の粗ポリペプチドを得ることができる。この粗ポリペプチドは既知の各種精製手段を駆使して精製し、主要画分を凍結乾燥することで所望のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドのアミド体を得ることができる。

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドのエステル体を得るには、例えば、カルボキシ末端アミノ酸の α -カルボキシル基を所望のアルコール類と縮合しアミノ酸エステルとした後、ポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドのアミド体と同様にして、所望のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドのエステル体を得ることができる。

【0019】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドは、公知のペプチドの合成法に従って、あるいは受容体の部分ペプチドについては、受容体を適当なペプチダーゼで切断することによって製造することができる。ペプチドの合成法と

しては、例えば、固相合成法、液相合成法のいずれによっても良い。すなわち、本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドを構成し得る部分ペプチドもしくはアミノ酸と残余部分とを縮合させ、生成物が保護基を有する場合は保護基を脱離することにより目的のペプチドを製造することができる。公知の縮合方法や保護基の脱離としては、例えば、以下の(a)～(e)に記載された方法があげられる。

(a) M. BodanszkyおよびM. A. Ondetti、ペプチド・シンセシス (Peptide Synthesis), Interscience Publishers, New York (1966年)

(b) SchroederおよびLuebke、ザ・ペプチド (The Peptide), Academic Press, New York (1965年)

(c) 泉屋信夫他、ペプチド合成の基礎と実験、丸善(株) (1975年)

(d) 矢島治明および榊原俊平、生化学実験講座1、タンパク質の化学IV、205、(1977年)

(e) 矢島治明監修、続医薬品の開発、第14巻、ペプチド合成、広川書店

また、反応後は通常の精製法、例えば、溶媒抽出・蒸留・カラムクロマトグラフィー・液体クロマトグラフィー・再結晶などを組み合わせて本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドを精製単離することができる。上記方法で得られるポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドが遊離体である場合は、公知の方法あるいはそれに準じる方法によって適当な塩に変換することができるし、逆に塩で得られた場合は、公知の方法あるいはそれに準じる方法によって遊離体または他の塩に変換することができる。

【0020】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドをコードするDNAとしては、前述した本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドをコードする塩基配列を含有するものであればいかなるものであってもよい。また、ゲノムDNA、ゲノムDNAライブラリー、前記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラリー、合成DNAのいずれでもよい。

ライブラリーに使用するベクターは、バクテリオファージ、プラスミド、コスミド、ファージミドなどいずれであってもよい。また、前記した細胞・組織より total RNA または mRNA 画分を調製したものをを用いて直接 Reverse Transcriptase Polymerase Chain Reaction (以下、RT-PCR法と略称する) によって増幅することもできる。

【0021】

本発明のポリペプチドをコードするDNAとしては、例えば (a) 配列番号：18、配列番号：19、配列番号：26、配列番号：27、配列番号：28、配列番号：29、配列番号：30、配列番号：31、配列番号：58、配列番号：59、配列番号：75、配列番号：76、配列番号：93、配列番号：94、配列番号：114、配列番号：115、配列番号：116、配列番号：117、配列番号：118、配列番号：119、配列番号：120、配列番号：121、配列番号：122、配列番号：123、配列番号：124 または配列番号：125 で表わされる塩基配列を含有するDNA、(b) 配列番号：18、配列番号：19、配列番号：26、配列番号：27、配列番号：28、配列番号：29、配列番号：30、配列番号：31、配列番号：58、配列番号：59、配列番号：75、配列番号：76、配列番号：93、配列番号：94、配列番号：114、配列番号：115、配列番号：116、配列番号：117、配列番号：118、配列番号：119、配列番号：120、配列番号：121、配列番号：122、配列番号：123、配列番号：124 または配列番号：125 で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、本発明のポリペプチドと実質的に同質の活性を有するポリペプチドをコードするDNA、(c) 配列番号：14、配列番号：41、配列番号：54、配列番号：71 または配列番号：89 で表わされる塩基配列を含有するDNA、または (d) 配列番号：14、配列番号：41、配列番号：54、配列番号：71 または配列番号：89 で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有するDNA などであれば何れのものでもよい。

配列番号：18、配列番号：19、配列番号：26、配列番号：27、配列番号

号：28、配列番号：29、配列番号：30、配列番号：31、配列番号：58、配列番号：59、配列番号：75、配列番号：76、配列番号：93、配列番号：94、配列番号：114、配列番号：115、配列番号：116、配列番号：117、配列番号：118、配列番号：119、配列番号：120、配列番号：121、配列番号：122、配列番号：123、配列番号：124または配列番号：125、または配列番号：14、配列番号：41、配列番号：54、配列番号：71または配列番号：89で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズできるDNAとしては、例えば、それぞれ配列番号：18、配列番号：19、配列番号：26、配列番号：27、配列番号：28、配列番号：29、配列番号：30、配列番号：31、配列番号：58、配列番号：59、配列番号：75、配列番号：76、配列番号：93、配列番号：94、配列番号：114、配列番号：115、配列番号：116、配列番号：117、配列番号：118、配列番号：119、配列番号：120、配列番号：121、配列番号：122、配列番号：123、配列番号：124または配列番号：125、または配列番号：14、配列番号：41、配列番号：54、配列番号：71または配列番号：89で表わされる塩基配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、さらに好ましくは約95%以上の相同性を有する塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

【0022】

ハイブリダイゼーションは、公知の方法あるいはそれに準じる方法、例えば、モレキュラー・クローニング (Molecular Cloning) 2nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989) に記載の方法などに従って行なうことができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。より好ましくは、ハイストリンジェントな条件に従って行なうことができる。

ハイストリンジェントな条件とは、例えば、ナトリウム濃度が約19~40 mM、好ましくは約19~20 mMで、温度が約50~70℃、好ましくは約60~65℃の条件を示す。特に、ナトリウム濃度が約19 mMで温度が約65℃の

場合が最も好ましい。

より具体的には、

(i) 配列番号：16で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(ii) 配列番号：17で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：19で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(iii) 配列番号：20で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：26で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(iv) 配列番号：21で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：27で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(v) 配列番号：22で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：28で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(vi) 配列番号：23で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：29で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(vii) 配列番号：24で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：30で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(viii) 配列番号：25で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：31で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(ix) 配列番号：56で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：58で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(x) 配列番号：57で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：59で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xi) 配列番号：73で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：75で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xii) 配列番号：74で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：76で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xiii) 配列番号：91で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：93で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xiv) 配列番号：92で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：94で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xv) 配列番号：95で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xvi) 配列番号：96で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：114で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xvii) 配列番号：97で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：115で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xviii) 配列番号：98で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：116で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xix) 配列番号：99で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：117で表わされる塩基配列を含有する

DNAなどが用いられ、

(xx) 配列番号：100で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：118で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx i) 配列番号：101で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：119で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx i i) 配列番号：102で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：120で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx i i i)、配列番号：103で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：58で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx i v) 配列番号：104で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：75で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx v) 配列番号：105で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx v i) 配列番号：106で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx v i i) 配列番号：107で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：121で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx v i i i) 配列番号：108で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：122で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xx i x) 配列番号：109で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチ

ドをコードするDNAとしては、配列番号：123で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xxx) 配列番号：110で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：124で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xxxi) 配列番号：6で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：125で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xxxxii) 配列番号：111で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：121で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xxxxiii) 配列番号：112で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：18で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられ、

(xxxxiv) 配列番号：113で表わされるアミノ酸配列を含有するポリペプチドをコードするDNAとしては、配列番号：121で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

【0023】

本発明の受容体をコードするDNAとしては、例えば、(1) 配列番号：32で表される塩基配列を含有するDNA、または配列番号：32で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：4で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNA、(2) 配列番号：127で表される塩基配列を含有するDNA、または配列番号：32で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：126で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNA、(3) 配列番号：139で表される塩基配列を含有するDNA、または配列番号：139で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：138で表されるアミノ酸を含有する

蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNA、(4) 配列番号：143で表される塩基配列を含有するDNA、または配列番号：143で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：143で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNAなどであれば何れのものでもよい。

配列番号：32、配列番号：127、配列番号：139または配列番号：143で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズできるDNAとしては、例えば、それぞれ配列番号：32、配列番号：127、配列番号：139または配列番号：143で表わされる塩基配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、さらに好ましくは約95%以上の相同性を有する塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

【0024】

ハイブリダイゼーションは、公知の方法あるいはそれに準じる方法、例えば、モレキュラー・クローニング (Molecular Cloning) 2nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989) に記載の方法などに従って行なうことができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。より好ましくは、ハイストリンジェントな条件に従って行なうことができる。

ハイストリンジェントな条件とは、例えば、ナトリウム濃度が約19~40 mM、好ましくは約19~20 mMで、温度が約50~70℃、好ましくは約60~65℃の条件を示す。特に、ナトリウム濃度が約19 mMで温度が約65℃の場合が最も好ましい。

より具体的には、配列番号：4で表わされるアミノ酸配列を含有する蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：32で表わされる塩基配列を含有するDNA、配列番号：126で表わされるアミノ酸配列を含有する蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：127で表わされる塩基配列を含有するDNA、配列番号：138で表わされるアミノ酸配列を含有する蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：139で表わされる塩基配列を含有するDNA、配列番

号：144で表わされるアミノ酸配列を含有する蛋白質をコードするDNAとしては、配列番号：143で表わされる塩基配列を含有するDNAなどが用いられる。

【0025】

本発明の受容体の部分ペプチドをコードするDNAとしては、前述した本発明の受容体の部分ペプチドをコードする塩基配列を含有するものであればいかなるものであってもよい。また、ゲノムDNA、ゲノムDNAライブラリー、前記した細胞・組織由来のcDNA、前記した細胞・組織由来のcDNAライブラリー、合成DNAのいずれでもよい。

本発明の受容体の部分ペプチドをコードするDNAとしては、例えば、(1) 配列番号：32で表わされる塩基配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または配列番号：32で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：4で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNAの部分塩基配列を有するDNA、(2) 配列番号：127で表わされる塩基配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または配列番号：127で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：126で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNAの部分塩基配列を有するDNA、(3) 配列番号：139で表わされる塩基配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または配列番号：138で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：126で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNAの部分塩基配列を有するDNA、(4) 配列番号：143で表わされる塩基配列を有するDNAの部分塩基配列を有するDNA、または配列番号：143で表わされる塩基配列とハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有し、配列番号：144で表されるアミノ酸を含有する蛋白質と実質的に同質の活性を有する蛋白質をコードするDNAの部分塩基配列を有するDNAなどが用いられる。

配列番号：32、配列番号：127、配列番号：139または配列番号：143で表わされる塩基配列とハイブリダイズできるDNAは、前記と同意義を示す。

ハイブリダイゼーションの方法およびハイストリンジェントな条件は前記と同様のものが用いられる。

また、本発明の受容体の部分ペプチドをコードするDNAとしてより具体的には、配列番号：4で表されるアミノ酸配列中、1番目(Met)～123番目(Phe)、301番目(Asn)～358番目(Lys)、548番目(Tyr)～593番目(Arg)および843番目(Ala)～895番目(Ile)で表される部分アミノ酸配列から選択される1または2以上の部分アミノ酸配列を含有する部分ペプチドをコードする塩基配列を有するDNAを含有するDNA、またはこれらとハイストリンジェントな条件下でハイブリダイズする塩基配列を有するDNAを含有するDNAなどがあげられる。

【0026】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドをコードするDNAは、公知の方法で標識化されていてもよく、具体的にはアイソトープラベル化されたもの、蛍光標識されたもの(例えば、フルオレセインなどによる蛍光標識)、ビオチン化されたものまたは酵素標識されたものなどがあげられる。

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチド(以下、これらポリペプチド等をコードするDNAのクローニングおよび発現の説明においては、これらポリペプチド等を単に本発明のポリペプチドと略記する場合がある)を完全にコードするDNAのクローニングの手段としては、本発明のポリペプチドの部分塩基配列を有する合成DNAプライマーを用いて公知のPCR法によって増幅するか、または適当なベクターに組み込んだDNAを本発明のポリペプチドの一部あるいは全領域をコードするDNA断片もしくは合成DNAを用いて標識したもののとのハイブリダイゼーションによって選別することができる。ハイブリダイゼーションの方法は、例えば、モレキュラー・クローニング(Molecular Cloning) 2nd (J. Sambrook et al., Cold Spring Harbor Lab. Press, 1989)に記載の方法な

どに従って行なうことができる。また、市販のライブラリーを使用する場合、添付の使用説明書に記載の方法に従って行なうことができる。

【0027】

DNAの塩基配列の変換は、公知のキット、例えば、MutanTM-super Express Km（宝酒造（株））、MutanTM-K（宝酒造（株））等を用いて、ODA-LA PCR法、Gapped duplex法、Kunkel法等の公知の方法あるいはそれらに準じる方法に従って行なうことができる。

クローン化されたポリペプチドをコードするDNAは目的によりそのまま、または所望により制限酵素で消化したり、リンカーを付加したりして使用することができる。該DNAはその5'末端側に翻訳開始コドンとしてのATGを有し、また3'末端側には翻訳終止コドンとしてのTAA、TGAまたはTAGを有していてもよい。これらの翻訳開始コドンや翻訳終止コドンは、適当な合成DNAアダプターを用いて付加することもできる。

【0028】

本発明のポリペプチドの発現ベクターは、例えば、（イ）本発明のポリペプチドをコードするDNAから目的とするDNA断片を切り出し、（ロ）該DNA断片を適当な発現ベクター中のプロモーターの下流に連結することにより製造することができる。

ベクターとしては、大腸菌由来のプラスミド（例、pBR322、pBR325、pUC12、pUC13）、枯草菌由来のプラスミド（例、pUB110、pTP5、pC194）、酵母由来プラスミド（例、pSH19、pSH15）、λファージなどのバクテリオファージ、レトロウイルス、ワクシニアウイルス、バキュロウイルスなどの動物ウイルスなどの他、pA1-11、pXT1、pRc/CMV、pRc/RSV、pcDNA1/Neoなどが用いられる。

本発明で用いられるプロモーターとしては、遺伝子の発現に用いる宿主に対応して適切なプロモーターであればいかなるものでもよい。例えば、動物細胞を宿主として用いる場合は、SRαプロモーター、SV40プロモーター、HIV-LTRプロモーター、CMVプロモーター、HSV-TKプロモーターなどがあ

げられる。

これらのうち、CMV（サイトメガロウイルス）プロモーター、SR α プロモーターなどを用いるのが好ましい。宿主がエシェリヒア属菌である場合は、trpプロモーター、lacプロモーター、recAプロモーター、 λ PLプロモーター、lppプロモーター、T7プロモーターなどが、宿主がバチルス属菌である場合は、SPO1プロモーター、SPO2プロモーター、penPプロモーターなど、宿主が酵母である場合は、PHO5プロモーター、PGKプロモーター、GAPプロモーター、ADHプロモーターなどが好ましい。宿主が昆虫細胞である場合は、ポリヘドリンプロモーター、P10プロモーターなどが好ましい。

発現ベクターには、以上の他に、所望によりエンハンサー、スプライシングシグナル、ポリA付加シグナル、選択マーカー、SV40複製オリジン（以下、SV40oriと略称する場合がある）などを含有しているものを用いることができる。選択マーカーとしては、例えば、ジヒドロ葉酸還元酵素（以下、dhfrと略称する場合がある）遺伝子〔メソトレキセート（MTX）耐性〕、アンピシリン耐性遺伝子（以下、Amp^rと略称する場合がある）、ネオマイシン耐性遺伝子（以下、Neorと略称する場合がある、G418耐性）等があげられる。特に、dhfr遺伝子欠損チャイニーズハムスター細胞を用いてdhfr遺伝子を選択マーカーとして使用する場合、目的遺伝子をチミジンを含まない培地によっても選択できる。

また、必要に応じて、宿主に合ったシグナル配列を、本発明のポリペプチドのN端末側に付加する。宿主がエシェリヒア属菌である場合は、PhoA・シグナル配列、OmpA・シグナル配列などが、宿主がバチルス属菌である場合は、 α -アミラーゼ・シグナル配列、サブチリシン・シグナル配列などが、宿主が酵母である場合は、MF α ・シグナル配列、SUC2・シグナル配列など、宿主が動物細胞である場合には、インシュリン・シグナル配列、 α -インターフェロン・シグナル配列、抗体分子・シグナル配列などがそれぞれ利用できる。

このようにして構築された本発明のポリペプチドをコードするDNAを含有するベクターを用いて、形質転換体を製造することができる。

宿主としては、例えば、エシェリヒア属菌、バチルス属菌、酵母、昆虫細胞、

昆虫、動物細胞などが用いられる。

【0029】

エシェリヒア属菌の具体例としては、例えば、エシェリヒア・コリ (*Escherichia coli*) K12・DH1 [プロシーディングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 60巻, 160 (1968)], JM103 [ヌクイレック・アシッズ・リサーチ, (Nucleic Acids Research), 9巻, 309 (1981)], JA221 [ジャーナル・オブ・モレキュラー・バイオロジー (Journal of Molecular Biology)], 120巻, 517 (1978)], HB101 [ジャーナル・オブ・モレキュラー・バイオロジー, 41巻, 459 (1969)], C600 [ジェネティックス (Genetics), 39巻, 440 (1954)] などが用いられる。

バチルス属菌としては、例えば、バチルス・サブチルス (*Bacillus subtilis*) MI114 [ジーン, 24巻, 255 (1983)], 207-21 [ジャーナル・オブ・バイオケミストリー (Journal of Biochemistry), 95巻, 87 (1984)] などが用いられる。

酵母としては、例えば、サッカロマイセス セレビスエ (*Saccharomyces cerevisiae*) AH22, AH22R⁻, NA87-11A, DKD-5D, 20B-12、シゾサッカロマイセス ポンベ (*Schizosaccharomyces pombe*) NCYC1913, NCYC2036、ピキア パストリス (*Pichia pastoris*) KM71などが用いられる。

【0030】

昆虫細胞としては、例えば、ウイルスがAcNPVの場合は、夜盗蛾の幼虫由来株化細胞 (*Spodoptera frugiperda* cell; Sf細胞)、*Trichoplusia ni*の中腸由来のMG1細胞、*Trichoplusia ni*の卵由来のHigh FiveTM細胞、*Mamestra brassicae*由来の細胞または*Estigmena acrea*由来の

細胞などが用いられる。ウイルスがBmNPVの場合は、蚕由来株化細胞 (Bombyx mori N 細胞; BmN細胞) などが用いられる。該Sf細胞としては、例えば、Sf9細胞 (ATCC CRL1711)、Sf21細胞 (以上、Vaughn, J. L. ら、イン・ヴィボ (In Vivo), 13, 213-217, (1977)) などが用いられる。

昆虫としては、例えば、カイコの幼虫などが用いられる [前田ら、ネイチャー (Nature), 315巻, 592 (1985)]。

動物細胞としては、例えば、サル細胞COS-7, Vero, チャイニーズハムスター細胞CHO (以下、CHO細胞と略記), dhfr 遺伝子欠損チャイニーズハムスター細胞CHO (以下、CHO (dhfr⁻) 細胞と略記), マウスL細胞, マウスAtT-20, マウスミエローマ細胞, ラットGH3, ヒトFL細胞などが用いられる。

エシェリヒア属菌を形質転換するには、例えば、プロシーディングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 69巻, 2110 (1972) やジーン (Gene), 17巻, 107 (1982) などに記載の方法に従って行なうことができる。

バチルス属菌を形質転換するには、例えば、モレキュラー・アンド・ジェネラル・ジェネティクス (Molecular & General Genetics), 168巻, 111 (1979) などに記載の方法に従って行なうことができる。

酵母を形質転換するには、例えば、メソッズ・イン・エンザイモロジー (Methods in Enzymology), 194巻, 182-187 (1991)、プロシーディングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 75巻, 1929 (1978) などに記載の方法に従って行なうことができる。

【0031】

昆虫細胞または昆虫を形質転換するには、例えば、バイオテクノロジー (B

io/Technology, 6, 47-55 (1988)) などに記載の方法に従って行なうことができる。

動物細胞を形質転換するには、例えば、細胞工学別冊8 新細胞工学実験プロトコル、263-267 (1995) (秀潤社発行)、ヴィロロジー (Virology), 52巻, 456 (1973) に記載の方法に従って行なうことができる。

このようにして、ポリペプチドをコードするDNAを含有する発現ベクターで形質転換された形質転換体を得ることができる。

宿主がエシェリヒア属菌、バチルス属菌である形質転換体を培養する際、培養に使用される培地としては液体培地が適当であり、その中には該形質転換体の生育に必要な炭素源、窒素源、無機物その他が含有せしめられる。炭素源としては、例えば、グルコース、デキストリン、可溶性澱粉、ショ糖など、窒素源としては、例えば、アンモニウム塩類、硝酸塩類、コーンスチープ・リカー、ペプトン、カゼイン、肉エキス、大豆粕、パレイショ抽出液などの無機または有機物質、無機物としては、例えば、塩化カルシウム、リン酸二水素ナトリウム、塩化マグネシウムなどがあげられる。また、酵母エキス、ビタミン類、生長促進因子などを添加してもよい。培地のpHは約5~8が望ましい。

エシェリヒア属菌を培養する際の培地としては、例えば、グルコース、カザミノ酸を含むM9培地 [ミラー (Miller), ジャーナル・オブ・エクスperiments in Molecular Genetics), 431-433, Cold Spring Harbor Laboratory, New York 1972] が好ましい。ここに必要によりプロモーターを効率よく働かせるために、例えば、3 β -インドリルアクリル酸のような薬剤を加えることができる。

【0032】

宿主がエシェリヒア属菌の場合、培養は通常約15~43℃で約3~24時間行ない、必要により、通気や攪拌を加えることもできる。

宿主がバチルス属菌の場合、培養は通常約30~40℃で約6~24時間行な

い、必要により通気や攪拌を加えることもできる。

宿主が酵母である形質転換体を培養する際、培地としては、例えば、バークホルダー (Burkholder) 最小培地 [Bostian, K. L. ら、プロシーディングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 77巻, 4505 (1980)] や0.5%カザミノ酸を含有するSD培地 [Bitter, G. A. ら、プロシーディングズ・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ザ・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. USA), 81巻, 5330 (1984)] があげられる。培地のpHは約5~8に調整するのが好ましい。培養は通常約20℃~35℃で約24~72時間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

宿主が昆虫細胞または昆虫である形質転換体を培養する際、培地としては、Grace's Insect Medium (Grace, T. C. C., ネイチャー (Nature), 195, 788 (1962)) に非動化した10%ウシ血清等の添加物を適宜加えたものなどが用いられる。培地のpHは約6.2~6.4に調整するのが好ましい。培養は通常約27℃で約3~5日間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

宿主が動物細胞である形質転換体を培養する際、培地としては、例えば、約5~20%の胎児牛血清を含むMEM培地 [サイエンス (Science), 122巻, 501 (1952)], DMEM培地 [ヴィロロジー (Virology), 8巻, 396 (1959)], RPMI 1640培地 [ジャーナル・オブ・ザ・アメリカン・メディカル・アソシエーション (The Journal of the American Medical Association), 199巻, 519 (1967)], 199培地 [プロシーディング・オブ・ザ・ソサイエティ・フォー・ザ・バイオロジカル・メディスン (Proceeding of the Society for the Biological Medicine), 73巻, 1 (1950)] などが用いられる。pHは約6~8であるのが好ましい。培養は通常約30℃~40℃で約15~60時間行ない、必要に応じて通気や攪拌を加える。

以上のようにして、形質転換体の細胞内、細胞膜または細胞外などに本発明のポリペプチドを生成せしめることができる。

上記培養物から本発明のポリペプチドを分離精製するには、例えば、下記の方法により行なうことができる。

【 0 0 3 3 】

本発明のポリペプチドを培養菌体あるいは細胞から抽出するに際しては、培養後、公知の方法で菌体あるいは細胞を集め、これを適当な緩衝液に懸濁し、超音波、リゾチームおよび／または凍結融解などによって菌体あるいは細胞を破壊したのち、遠心分離やろ過によりポリペプチドの粗抽出液を得る方法などが適宜用いられる。緩衝液の中に尿素や塩酸グアニジンなどの蛋白質変性剤や、トリトン X-100TMなどの界面活性剤が含まれていてもよい。培養液中にポリペプチドが分泌される場合には、培養終了後、公知の方法で菌体あるいは細胞と上清とを分離し、上清を集める。

このようにして得られた培養上清、あるいは抽出液中に含まれるポリペプチドの精製は、公知の分離・精製法を適宜組み合わせて行なうことができる。これらの公知の分離、精製法としては、塩析や溶媒沈殿法などの溶解度を利用する方法、透析法、限外ろ過法、ゲルろ過法、および SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動法などの主として分子量の差を利用する方法、イオン交換クロマトグラフィーなどの荷電の差を利用する方法、アフィニティークロマトグラフィーなどの特異的親和性を利用する方法、逆相高速液体クロマトグラフィーなどの疎水性の差を利用する方法、等電点電気泳動法などの等電点の差を利用する方法などが用いられる。

かくして得られるポリペプチドが遊離体で得られた場合には、公知の方法あるいはそれに準じる方法によって塩に変換することができ、逆に塩で得られた場合には公知の方法あるいはそれに準じる方法により、遊離体または他の塩に変換することができる。

なお、組換え体が産生するポリペプチドを、精製前または精製後に適当な蛋白修飾酵素を作用させることにより、任意に修飾を加えたり、ポリペプチドを部分的に除去することもできる。蛋白修飾酵素としては、例えば、トリプシン、キモ

トリプシン、アルギニルエンドペプチダーゼ、プロテインキナーゼ、グリコシダーゼなどが用いられる。

【 0 0 3 4 】

本発明のポリペプチドに対する抗体（以下、単に本発明の抗体と称する場合がある）は、本発明のポリペプチドもしくはそのアミドもしくはそのエステルまたはその塩に対する抗体を認識し得る抗体であれば、ポリクローナル抗体、モノクローナル抗体の何れであってもよい。

本発明のポリペプチドに対する抗体は、本発明のポリペプチドを抗原として用い、公知の抗体または抗血清の製造法に従って製造することができる。

〔モノクローナル抗体の作製〕

（a）モノクローナル抗体産生細胞の作製

本発明のポリペプチドは、温血動物に対して投与により抗体産生が可能な部位にそれ自体あるいは担体、希釈剤とともに投与される。投与に際して抗体産生能を高めるため、完全フロイントアジュバントや不完全フロイントアジュバントを投与してもよい。投与は通常2～6週毎に1回ずつ、計2～10回程度行われる。用いられる温血動物としては、例えば、サル、ウサギ、イヌ、モルモット、マウス、ラット、ヒツジ、ヤギ、ニワトリがあげられるが、マウスおよびラットが好ましく用いられる。

モノクローナル抗体産生細胞の作製に際しては、抗原で免疫された温血動物、例えばマウスから抗体価の認められた個体を選択し最終免疫の2～5日後に脾臓またはリンパ節を採取し、それらに含まれる抗体産生細胞を同種または異種動物の骨髓腫細胞と融合させることにより、モノクローナル抗体産生ハイブリドーマを調製することができる。抗血清中の抗体価の測定は、例えば、後記の標識化ポリペプチドと抗血清とを反応させたのち、抗体に結合した標識剤の活性を測定することにより行なうことができる。融合操作は既知の方法、例えば、ケーラーとミルスタインの方法〔ネイチャー（Nature）、256、495（1975）〕に従い実施することができる。融合促進剤としては、例えば、ポリエチレングリコール（PEG）やセンダイウィルスなどがあげられるが、好ましくはPEGが用いられる。

骨髓腫細胞としては、例えば、NS-1、P3U1、SP2/0、AP-1などの温血動物の骨髓腫細胞があげられるが、P3U1が好ましく用いられる。用いられる抗体産生細胞（脾臓細胞）数と骨髓腫細胞数との好ましい比率は1:1～20:1程度であり、PEG（好ましくはPEG1000～PEG6000）が10～80%程度の濃度で添加され、20～40℃、好ましくは30～37℃で1～10分間インキュベートすることにより効率よく細胞融合を実施できる。

モノクローナル抗体産生ハイブリドーマのスクリーニングには種々の方法が使用できるが、例えば、ポリペプチド（蛋白質）抗原を直接あるいは担体とともに吸着させた固相（例、マイクロプレート）にハイブリドーマ培養上清を添加し、次に放射性物質や酵素などで標識した抗免疫グロブリン抗体（細胞融合に用いられる細胞がマウスの場合、抗マウス免疫グロブリン抗体が用いられる）またはプロテインAを加え、固相に結合したモノクローナル抗体を検出する方法、抗免疫グロブリン抗体またはプロテインAを吸着させた固相にハイブリドーマ培養上清を添加し、放射性物質や酵素などで標識したポリペプチドを加え、固相に結合したモノクローナル抗体を検出する方法などがあげられる。

モノクローナル抗体の選別は、公知あるいはそれに準じる方法に従って行なうことができる。通常HAT（ヒポキサンチン、アミノプテリン、チミジン）を添加した動物細胞用培地で行なうことができる。選別および育種用培地としては、ハイブリドーマが生育できるものならばどのような培地を用いても良い。例えば、1～20%、好ましくは10～20%の牛胎児血清を含むRPMI 1640培地、1～10%の牛胎児血清を含むGIT培地（和光純薬工業（株））あるいはハイブリドーマ培養用無血清培地（SFM-101、日水製薬（株））などを用いることができる。培養温度は、通常20～40℃、好ましくは約37℃である。培養時間は、通常5日～3週間、好ましくは1週間～2週間である。培養は、通常5%炭酸ガス下で行なうことができる。ハイブリドーマ培養上清の抗体価は、上記の抗血清中の抗体価の測定と同様にして測定できる。

（b）モノクローナル抗体の精製

モノクローナル抗体の分離精製は、公知の方法、例えば、免疫グロブリンの分離精製法〔例、塩析法、アルコール沈殿法、等電点沈殿法、電気泳動法、イオン

交換体（例、DEAE）による吸脱着法、超遠心法、ゲルろ過法、抗原結合固相あるいはプロテインAあるいはプロテインGなどの活性吸着剤により抗体のみを採取し、結合を解離させて抗体を得る特異的精製法〕に従って行なうことができる。

【0035】

〔ポリクローナル抗体の作製〕

本発明のポリクローナル抗体は、公知あるいはそれに準じる方法に従って製造することができる。例えば、免疫抗原（ポリペプチド抗原）自体、あるいはそれとキャリアー蛋白質との複合体をつくり、上記のモノクローナル抗体の製造法と同様に温血動物に免疫を行ない、該免疫動物から本発明のポリペプチドに対する抗体含有物を採取して、抗体の分離精製を行なうことにより製造することができる。

温血動物を免疫するために用いられる免疫抗原とキャリアー蛋白質との複合体に関し、キャリアー蛋白質の種類およびキャリアーとハプテンとの混合比は、キャリアーに架橋させて免疫したハプテンに対して抗体が効率良くできれば、どのようなものをどのような比率で架橋させてもよいが、例えば、ウシ血清アルブミンやウシサイログロブリン、ヘモシアニン等を重量比でハプテン1に対し、約0.1～20、好ましくは約1～5の割合でカプルさせる方法が用いられる。

また、ハプテンとキャリアーのカプリングには、種々の縮合剤を用いることができるが、グルタルアルデヒドやカルボジイミド、マレイミド活性エステル、チオール基、ジチオピリジル基を含有する活性エステル試薬等が用いられる。

縮合生成物は、温血動物に対して、抗体産生が可能な部位にそれ自体あるいは担体、希釈剤とともに投与される。投与に際して抗体産生能を高めるため、完全フロイントアジュバントや不完全フロイントアジュバントを投与してもよい。投与は、通常約2～6週毎に1回ずつ、計約3～10回程度行なわれる。

ポリクローナル抗体は、上記の方法で免疫された温血動物の血液、腹水など、好ましくは血液から採取することができる。

抗血清中のポリクローナル抗体価の測定は、上記の抗血清中の抗体価の測定と同様にして測定できる。ポリクローナル抗体の分離精製は、上記のモノクローナ

ル抗体の分離精製と同様の免疫グロブリンの分離精製法に従って行なうことができる。

【0036】

本発明のポリペプチド、受容体またはその部分ペプチドをコードするDNA（以下、これらのDNAを本発明のDNAと略記する場合がある）に相補的な、または実質的に相補的な塩基配列を有するアンチセンスDNA（以下、これらのDNAをアンチセンスDNAと略記する場合がある）としては、本発明のDNAに相補的な、または実質的に相補的な塩基配列を有し、該DNAの発現を抑制し得る作用を有するものであれば、いずれのアンチセンスDNAであってもよい。

本発明のDNAに実質的に相補的な塩基配列とは、例えば、本発明のDNAに相補的な塩基配列（すなわち、本発明のDNAの相補鎖）の全塩基配列あるいは部分塩基配列と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同性を有する塩基配列などがあげられる。特に、本発明のDNAの相補鎖の全塩基配列うち、本発明のポリペプチドのN末端部位をコードする部分の塩基配列（例えば、開始コドン付近の塩基配列など）の相補鎖と約70%以上、好ましくは約80%以上、より好ましくは約90%以上、最も好ましくは約95%以上の相同性を有するアンチセンスDNAが好適である。これらのアンチセンスDNAは、公知のDNA合成装置などを用いて製造することができる。

以下に、（a）本発明のポリペプチド、（b）本発明のDNA、（c）本発明の抗体、および（d）アンチセンスDNAの用途を説明する。

【0037】

（1）本発明のポリペプチドが関与する各種疾病の治療・予防剤

本発明のポリペプチドは、GPR8、GPR7、ラットTGR26またはマウスTGR26などの本発明の受容体発現細胞の細胞刺激活性を有し、GPR8、ヒトGPR7、ラットTGR26またはマウスTGR26などの本発明の受容体）の内因性リガンドである。

従って本発明のポリペプチドまたは本発明のDNAに異常があったり、欠損している場合、または本発明の受容体または該受容体をコードするDNAに異常が

あったり、欠損している場合には、例えば、体重増加となる可能性が高い。従って、本発明のポリペプチドおよび本発明のDNAは、例えば、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤として使用することができる。また、例えば肥満症〔例、悪性肥満細胞症 (malignant mastocytosis)、外因性肥満 (exogenous obesity)、過インシュリン性肥満症 (hyperinsular obesity)、過血漿性肥満 (hyperplasmic obesity)、下垂体性肥満 (hypophyseal adiposity)、減血漿性肥満症 (hypoplastic obesity)、甲状腺機能低下肥満症 (hypothyroid obesity)、視床下部性肥満 (hypothalamic obesity)、症候性肥満症 (symptomatic obesity)、小児肥満 (infantile obesity)、上半身肥満 (upper body obesity)、食事性肥満症 (alimentary obesity)、性機能低下性肥満 (hypogonadal obesity)、全身性肥満細胞症 (systemic mastocytosis)、単純性肥満 (simple obesity)、中心性肥満 (central obesity) など〕の予防治療剤として使用することができる。

【0038】

本発明のポリペプチドおよび本発明のDNAは、例えば、生体内において本発明のポリペプチドが減少あるいは欠損している患者がいる場合に、(イ) 本発明のDNAを該患者に投与し、生体内で本発明のポリペプチドを発現させることによって、(ロ) 細胞に本発明のDNAを挿入し、本発明のポリペプチドを発現させた後に、該細胞を患者に移植することによって、または(ハ) 本発明のポリペプチドを該患者に投与することなどによって、該患者における本発明のポリペプチドの役割を十分に、あるいは正常に発揮させることができる。

本発明のDNAを上記の治療・予防剤として使用する場合は、該DNAを単独あるいはレトロウイルスベクター、アデノウイルスベクター、アデノウイルスアソシエーテッドウイルスベクターなどの適当なベクターに挿入した後、常套手段に従って、ヒトまたは温血動物に投与することができる。本発明のDNAは、そ

のままで、あるいは摂取促進のための補助剤などの生理学的に認められる担体とともに製剤化し、遺伝子銃やハイドロゲルカテーテルのようなカテーテルによって投与できる。

本発明のポリペプチドを上記の治療・予防剤として使用する場合は、少なくとも90%、好ましくは95%以上、より好ましくは98%以上、さらに好ましくは99%以上に精製されたものを使用するのが好ましい。

本発明のポリペプチドは、例えば、必要に応じて糖衣を施した錠剤、カプセル剤、エリキシル剤、マイクロカプセル剤などとして経口的に、あるいは水もしくはそれ以外の薬学的に許容し得る液との無菌性溶液、または懸濁液剤などの注射剤の形で非経口的（好ましくは皮下投与）に使用できる。例えば、本発明のポリペプチドを生理学的に認められる担体、香味剤、賦形剤、ベヒクル、防腐剤、安定剤、結合剤などとともに一般に認められた製剤実施に要求される単位用量形態で混和することによって製造することができる。これら製剤における有効成分量は指示された範囲の適当な用量が得られるようにするものである。

【0039】

錠剤、カプセル剤などに混和することができる添加剤としては、例えば、ゼラチン、コーンスターチ、トラガント、アラビアゴムのような結合剤、結晶性セルロースのような賦形剤、コーンスターチ、ゼラチン、アルギン酸などのような膨化剤、ステアリン酸マグネシウムのような潤滑剤、ショ糖、乳糖またはサッカリンのような甘味剤、ペパーミント、アカモノ油またはチェリーのような香味剤などが用いられる。調剤単位形態がカプセルである場合には、前記タイプの材料にさらに油脂のような液状担体を含有することができる。注射のための無菌組成物は注射用水のようなベヒクル中の活性物質、胡麻油、椰子油などのような天然産出植物油などを溶解または懸濁させるなどの通常の製剤実施に従って処方することができる。

注射用の水性液としては、例えば、生理食塩水、ブドウ糖やその他の補助薬を含む等張液（例えば、D-ソルビトール、D-マンニトール、塩化ナトリウムなど）などがあげられ、適当な溶解補助剤、例えば、アルコール（例えば、エタノールなど）、ポリアルコール（例えば、プロピレングリコール、ポリエチレング

リコールなど)、非イオン性界面活性剤(例えば、ポリソルベート80TM、HCO-50など)などと併用してもよい。油性液としては、例えば、ゴマ油、大豆油などがあげられ、溶解補助剤として安息香酸ベンジル、ベンジルアルコールなどと併用してもよい。また、緩衝剤(例えば、リン酸塩緩衝液、酢酸ナトリウム緩衝液など)、無痛化剤(例えば、塩化ベンザルコニウム、塩酸プロカインなど)、安定剤(例えば、ヒト血清アルブミン、ポリエチレングリコールなど)、保存剤(例えば、ベンジルアルコール、フェノールなど)、酸化防止剤などと配合してもよい。調製された注射液は、通常、適当なアンプルに充填される。

本発明のDNAが挿入されたベクターも上記と同様に製剤化され、通常、非経口的に使用される。

このようにして得られる製剤は、安全で低毒性であるので、例えば、ヒトまたは温血動物(例えば、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、トリ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ウマ、ネコ、イヌ、サル、など)に対して投与することができる。

【0040】

本発明のポリペプチドの投与量は、対象疾患、投与対象、投与ルートなどにより差異はあるが、例えば、体重増加抑制の目的で本発明のポリペプチドを皮下投与する場合、一般的に成人(60kgとして)においては、一日につき該ポリペプチドを約0.1mg~100mg、好ましくは約1.0~50mg、より好ましくは約1.0~20mg投与する。他の動物の場合も、60kg当りに換算した量を投与することができる。

【0041】

(2) 疾病に対する医薬候補化合物のスクリーニング

本発明のポリペプチドは本発明の受容体のリガンドとしての機能などを有するため、本発明のポリペプチドの機能を促進する化合物またはその塩は、例えば、体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬、摂食抑制薬などとして有用であり、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤などとして使用できる。

一方、本発明のポリペプチドの機能を阻害する化合物またはその塩は、例えば体重増加薬として有用であり、体重増加剤などとして有用である。

該スクリーニングは、本発明のポリペプチドを用いるか、または組換え型本発明のポリペプチドの発現系を構築し、該発現系を用いたレセプター結合アッセイ系を用いることによって、本発明のポリペプチドとその受容体との結合性を変化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）（例えば、ペプチド、蛋白質、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物など）またはその塩をスクリーニングすることができる。このような化合物には、本発明の受容体を介して細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内、 Ca^{2+} 遊離、細胞内cAMP生成／抑制、細胞内cGMP生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下、GTP γ S結合活性などを促進する活性など）を有する化合物（即ち本発明のポリペプチドの受容体アゴニスト）と該細胞刺激活性を有しない化合物（即ち本発明のポリペプチドの受容体アンタゴニスト）などが含まれる。「本発明のポリペプチドとの結合性を変化させる」とは、本発明のポリペプチドとの結合を阻害する場合と本発明のポリペプチドとの結合を促進する場合の両方を包含するものである。

【0042】

本発明のポリペプチドを用いることを特徴とする本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方法の具体例としては、(i) 本発明の受容体またはその部分ペプチド（以下、これらを単に本発明の受容体と略称する場合がある）に、本発明のポリペプチドを接触させた場合と (ii) 上記した本発明の受容体に、本発明のポリペプチドおよび試験化合物を接触させた場合との比較を行なうことを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体の結合性を変化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法が挙げられる。

上記スクリーニング方法においては、(i) 上記した本発明の受容体に、本発明のポリペプチドを接触させた場合と (ii) 上記した本発明の受容体に、本発明のポリペプチドおよび試験化合物を接触させた場合における、例えば該本発明の受容体に対するリガンドの結合量、細胞刺激活性などを測定して、比較する。

【0043】

上記スクリーニング方法のさらなる具体例としては、

(a) 標識した本発明のポリペプチドを、上記した本発明の受容体に接触させた場合と、標識した本発明のポリペプチドおよび試験化合物を本発明の受容体に接触させた場合における、標識した本発明のポリペプチドの本発明の受容体に対する結合量を測定し、比較することを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を变化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法、

(b) 標識した本発明のポリペプチドを、本発明の受容体を含有する細胞または、該細胞の膜面分に接触させた場合と、標識した本発明のポリペプチドおよび試験化合物を本発明の受容体を含有する細胞または該細胞の膜面分に接触させた場合における、標識した本発明のポリペプチドの該細胞または該膜面分に対する結合量を測定し、比較することを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を变化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法、

(c) 標識した本発明のポリペプチドを、本発明の受容体をコードするDNAを含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現した本発明の受容体に接触させた場合と、標識した本発明のポリペプチドおよび試験化合物を本発明の受容体をコードするDNAを含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現した本発明のポリペプチドの受容体に接触させた場合における、標識した本発明のポリペプチドの本発明の受容体に対する結合量を測定し、比較することを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を变化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法、

【0044】

(d) 本発明の受容体を活性化する化合物（例えば、本発明のポリペプチド）を本発明の受容体を含有する細胞に接触させた場合と、本発明の受容体を活性化する化合物および試験化合物を本発明の受容体を含有する細胞に接触させた場合における、本発明の受容体を介した細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内 Ca^{2+} 遊離、細胞内cAMP生成/抑制、細胞内c

GMP生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下、GTP γ S結合活性などを促進する活性または抑制する活性など）を測定し、比較することを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を变化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法、および

(e) 本発明の受容体を活性化する化合物（例えば、本発明のポリペプチドなど）を本発明の受容体をコードするDNAを含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現した本発明の受容体に接触させた場合と、本発明の受容体を活性化する化合物および試験化合物を、本発明の受容体をコードするDNAを含有する形質転換体を培養することによって細胞膜上に発現した本発明の受容体に接触させた場合における、本発明の受容体を介する細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内Ca²⁺遊離、細胞内cAMP生成/抑制、細胞内cGMP生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下、GTP γ S結合活性などを促進する活性または抑制する活性など）を測定し、比較することを特徴とする本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を变化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング方法などである。

【0045】

上記スクリーニング方法の具体的な説明を以下にする。

まず、本発明のスクリーニング方法に用いる本発明の受容体としては、本発明のポリペプチドをリガンドとして認識するものであれば何れのものであってもよいが、ヒトや温血動物の臓器の膜面分などが好適である。しかし、特にヒト由来の臓器は入手が極めて困難なことから、スクリーニングに用いられるものとしては、組換え体を用いて大量発現させた本発明の受容体などが適している。

本発明の受容体を製造するには、前述の本発明のポリペプチドの製造方法などが用いられる。

本発明のスクリーニング方法において、本発明の受容体を含有する細胞あるい

は該細胞膜面分などを用いる場合、後述の調製法に従えばよい。

本発明の受容体を含有する細胞を用いる場合、該細胞をグルタルアルデヒド、ホルマリンなどで固定化してもよい。固定化方法は公知の方法に従って行うことができる。

本発明の受容体を含有する細胞としては、本発明の受容体を発現した宿主細胞をいうが、該宿主細胞としては、前述の大腸菌、枯草菌、酵母、昆虫細胞、動物細胞などが挙げられる。また、本発明の受容体を発現した宿主細胞は、前述の本発明のポリペプチドを含有する発現ベクターで形質転換された形質転換体の製造方法と同様の方法などがあげられる。

膜面分としては、細胞を破碎した後、公知の方法で得られる細胞膜が多く含まれる画分のことをいう。細胞の破碎方法としては、Potter-Elvehjem型ホモジナイザーで細胞を押し潰す方法、ワーリングブレンダーやポリトロン(Kinematica社製)による破碎、超音波による破碎、フレンチプレスなどで加圧しながら細胞を細いノズルから噴出させることによる破碎などがあげられる。細胞膜の分画には、分画遠心分離法や密度勾配遠心分離法などの遠心力による分画法が主として用いられる。例えば、細胞破碎液を低速(500rpm~3000rpm)で短時間(通常、約1分~10分)遠心し、上清をさらに高速(15000rpm~30000rpm)で通常30分~2時間遠心し、得られる沈澱を膜面分とする。該膜面分中には、発現した本発明の受容体と細胞由来のリン脂質や膜蛋白質などの膜成分が多く含まれる。

該本発明の受容体を含有する細胞や膜面分中の本発明の受容体の量は、1細胞当たり $10^3 \sim 10^8$ 分子であるのが好ましく、 $10^5 \sim 10^7$ 分子であるのが好適である。なお、発現量が多いほど膜面分当たりのリガンド結合活性(比活性)が高くなり、高感度なスクリーニング系の構築が可能になるばかりでなく、同一ロットで大量の試料を測定できるようになる。

【0046】

本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を変化させる化合物(本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物)をスクリーニングする前記の(a)~(c)を実施するためには、適当な本発明の受容体画分と、標識し

た本発明のポリペプチドなどが用いられる。本発明の受容体画分としては、天然型の本発明の受容体画分か、またはそれと同等の活性を有する組換え型本発明の受容体画分などが望ましい。ここで、同等の活性とは、同等のリガンド結合活性などを示す。標識したリガンドとしては、標識したリガンド、標識したリガンドアナログ化合物などが用いられる。例えば $[^3\text{H}]$ 、 $[^{125}\text{I}]$ 、 $[^{14}\text{C}]$ 、 $[^{35}\text{S}]$ などで標識されたりガンドなどを利用することができる。このうち好ましくは、 $[^{125}\text{I}]$ で標識されたりガンドである。

具体的には、本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を変化させる化合物のスクリーニングを行うには、まず本発明の受容体を含有する細胞または細胞の膜面分を、スクリーニングに適したバッファーに懸濁することによりレセプター標品を調製する。バッファーには、 $\text{pH}4\sim10$ （望ましくは $\text{pH}6\sim8$ ）のリン酸バッファー、トリス塩酸バッファーなどのリガンドとレセプターとの結合を阻害しないバッファーであればいずれでもよい。また、非特異的結合を低減させる目的で、CHAPS、Tween-80TM（花王アトラス社）、ジギトニン、デオキシコレートなどの界面活性剤をバッファーに加えることもできる。さらに、プロテアーゼによる本発明の受容体や本発明のポリペプチドの分解を抑える目的でPMSF、ロイペプチン、E-64（ペプチド研究所製）、ペプスタチンなどのプロテアーゼ阻害剤を添加することもできる。0.01ml～10mlの該レセプター溶液に、一定量（5000cpm～500000cpm）の標識した本発明のポリペプチドを添加し、同時に $10^{-10}\sim10^{-7}\text{M}$ の試験化合物を共存させる。非特異的結合量（NSB）を知るために大過剰の未標識の本発明のポリペプチドを加えた反応チューブも用意する。反応は0℃から50℃、望ましくは4℃から37℃で20分から24時間、望ましくは30分から3時間行う。反応後、ガラス繊維濾紙等で濾過し、適量の同バッファーで洗浄した後、ガラス繊維濾紙に残存する放射活性を液体シンチレーションカウンターまたはγ-カウンターで計測する。拮抗する物質がない場合のカウント（ B_0 ）から非特異的結合量（NSB）を引いたカウント（ $B_0 - \text{NSB}$ ）を100%とした時、特異的結合量（ $B - \text{NSB}$ ）が例えば50%以下になる試験化合物を拮抗阻害能力のある候補物質として選択することができる。

【0047】

本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を変化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）をスクリーニングする前記の（d）～（e）の方法を実施するためには、本発明の受容体を介する細胞刺激活性（例えば、アラキドン酸遊離、アセチルコリン遊離、細胞内 Ca^{2+} 遊離、細胞内cAMP生成／抑制、細胞内cGMP生成、イノシトールリン酸産生、細胞膜電位変動、細胞内蛋白質のリン酸化、c-fosの活性化、pHの低下、GTPγS結合活性などを促進する活性または抑制する活性など）を公知の方法または市販の測定用キットを用いて測定することができる。具体的には、まず、本発明の受容体を含む細胞をマルチウェルプレート等に培養する。スクリーニングを行うにあたっては前もって新鮮な培地あるいは細胞に毒性を示さない適当なバッファーに交換し、試験化合物などを添加して一定時間インキュベートした後、細胞を抽出あるいは上清液を回収して、生成した産物をそれぞれの方法に従って定量する。細胞刺激活性の指標とする物質（例えば、アラキドン酸など）の生成が、細胞が含有する分解酵素によって検定困難な場合は、該分解酵素に対する阻害剤を添加してアッセイを行なってもよい。また、cAMP産生抑制などの活性については、フォルスコリンなどで細胞の基礎的産生量を増大させておいた細胞に対する産生抑制作用として検出することができる。

細胞刺激活性を測定してスクリーニングを行なうには、適当な本発明の受容体を発現した細胞が必要である。本発明の受容体を発現した細胞としては、前述の本発明の受容体発現細胞株などが望ましい。

試験化合物としては、例えばペプチド、タンパク、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物、細胞抽出液、植物抽出液、動物組織抽出液などがあげられる。

【0048】

本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を変化させる化合物（本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物）またはその塩のスクリーニング用キットは、本発明の受容体またはその塩、本発明の受容体の部分ペプチドまたはその塩、本発明の受容体を含む細胞、あるいは本発明の受容体を含

有する細胞の膜面分、および本発明のポリペプチドを含有するものである。

本発明のスクリーニング用キットの例としては、次のものが挙げられる。

1. スクリーニング用試薬

(a) 測定用緩衝液および洗浄用緩衝液

Hanks' Balanced Salt Solution (ギブコ社製) に、0.05%のウシ血清アルブミン (シグマ社製) を加えたもの。

孔径0.45 μm のフィルターで濾過滅菌し、4℃で保存するか、あるいは用時調製しても良い。

(b) 本発明の受容体標品

本発明の受容体を発現させたCHO細胞を、12穴プレートに 5×10^5 個/穴で継代し、37℃、5%CO₂、95%airで2日間培養したもの。

(c) 標識リガンド

[³H]、[¹²⁵I]、[¹⁴C]、[³⁵S]などで標識した本発明のポリペプチドを適当な溶媒または緩衝液に溶解したものを4℃あるいは-20℃にて保存し、用時に測定用緩衝液にて1 μM に希釈する。

(d) リガンド標準液

本発明のポリペプチドを0.1%ウシ血清アルブミン (シグマ社製) を含むPBSで1mMとなるように溶解し、-20℃で保存する。

【0049】

2. 測定法

(a) 12穴組織培養用プレートにて培養した本発明の受容体を発現させた細胞を、測定用緩衝液1mlで2回洗浄した後、490 μl の測定用緩衝液を各穴に加える。

(b) $10^{-3} \sim 10^{-10}$ Mの試験化合物溶液を5 μl 加えた後、標識した本発明のペプチドを5 μl 加え、室温にて1時間反応させる。非特異的結合量を知るためには試験化合物の代わりに 10^{-3} Mの本発明のポリペプチドを5 μl 加えておく。

(c) 反応液を除去し、1mlの洗浄用緩衝液で3回洗浄する。細胞に結合した標識された本発明のポリペプチドを0.2N NaOH-1%SDSで溶解し、

4 ml の液体シンチレーター A (和光純薬製) と混合する。

(d) 液体シンチレーションカウンター (ベックマン社製) を用いて放射活性を測定し、Percent Maximum Binding (PMB) を次の式〔数 1〕で求める。

〔数 1〕

$$\text{PMB} = [(B - \text{NSB}) / (B_0 - \text{NSB})] \times 100$$

PMB: Percent Maximum Binding

B : 検体を加えた時の値

NSB: Non-specific Binding (非特異的結合量)

B₀ : 最大結合量

〔0050〕

上記スクリーニング方法またはスクリーニング用キットを用いて得られる化合物またはその塩は、本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合を変化させる (結合を阻害あるいは促進する) 化合物 (本発明のポリペプチドの活性を促進または阻害する化合物) であり、具体的には本発明の受容体を介して細胞刺激活性を有する化合物またはその塩 (いわゆる本発明の受容体アゴニスト)、あるいは該刺激活性を有しない化合物 (いわゆる本発明の受容体アンタゴニスト) である。該化合物としては、ペプチド、タンパク、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物などが挙げられ、これら化合物は新規な化合物であってもよいし、公知の化合物であってもよい。

上記本発明の受容体アゴニストであるかアンタゴニストであるかの具体的な評価方法は以下の (i) または (ii) に従えばよい。

(i) 前記 (a) ~ (c) のスクリーニング方法で示されるバインディング・アッセイを行い、本発明のポリペプチドと本発明の受容体との結合性を変化させる (特に、結合を阻害する) 化合物を得た後、該化合物が上記した本発明の受容体を介する細胞刺激活性を有しているか否かを測定する。細胞刺激活性を有する化合物またはその塩は本発明の受容体アゴニストであり、該活性を有しない化合物またはその塩は本発明の受容体アンタゴニストである。

(ii) (a) 試験化合物を本発明の受容体を含有する細胞に接触させ、上記本

発明の受容体を介した細胞刺激活性を測定する。細胞刺激活性を有する化合物またはその塩は本発明の受容体アゴニストである。

(b) 本発明の受容体を活性化する化合物（例えば、本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体アゴニストなど）を本発明の受容体を含有する細胞に接触させた場合と、本発明の受容体を活性化する化合物および試験化合物を本発明の受容体を含有する細胞に接触させた場合における、本発明の受容体を介した細胞刺激活性を測定し、比較する。本発明の受容体を活性化する化合物による細胞刺激活性を減少させ得る化合物またはその塩は本発明の受容体アンタゴニストである。

上記本発明の受容体アゴニストは、本発明の受容体に対する本発明のポリペプチドが有する生理活性と同様の作用を有しているため、本発明のポリペプチドと同様に体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬、摂食抑制薬として有用であり、安全で低毒性な体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤などとして使用することができる。

上記本発明の受容体アンタゴニストは、本発明の受容体に対する本発明のポリペプチドが有する生理活性を抑制することができるため、体重増加薬として有用であり、安全で低毒性な体重増加剤などとして使用することができる。

【0051】

本発明のスクリーニング方法またはスクリーニング用キットを用いて得られる化合物またはその塩は、例えば、ペプチド、タンパク、非ペプチド性化合物、合成化合物、発酵生産物、細胞抽出液、植物抽出液、動物組織抽出液、血漿などから選ばれた化合物であり、本発明のポリペプチドの機能を促進または阻害する化合物である。

該化合物の塩としては、前記した本発明のポリペプチドの塩と同様のものが用いられる。

本発明のスクリーニング方法またはスクリーニング用キットを用いて得られる化合物を上述の治療・予防剤として使用する場合、常套手段に従って実施することができる。例えば、前記した本発明のポリペプチドを含有する医薬と同様にし、錠剤、カプセル剤、エリキシル剤、マイクロカプセル剤、無菌性溶液、懸濁液剤などとして使用することができる。

このようにして得られる製剤は安全で低毒性であるので、例えば、ヒトまたは温血動物（例えば、マウス、ラット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ウマ、トリ、ネコ、イヌ、サル、チンパンジーなど）に対して投与することができる。

該化合物またはその塩の投与量は、その作用、対象疾患、投与対象、投与ルートなどにより差異はあるが、例えば、体重増加抑制の目的で本発明のポリペプチドの機能を促進する化合物を皮下投与する場合、一般的に成人（体重60kg当たり）においては、一日につき該化合物を約0.1～100mg、好ましくは約1.0～50mg、より好ましくは約1.0～20mg投与する。他の動物の場合も、60kg当りに換算した量を投与することができる。

また、例えば、体重増加の目的で本発明のポリペプチドの機能を阻害する化合物を皮下投与する場合、一般的に成人（体重60kg当たり）においては、一日につき該化合物を約0.1～100mg、好ましくは約1.0～50mg、より好ましくは約1.0～20mg投与する。他の動物の場合も、60kg当りに換算した量を投与することができる。

【0052】

（3）本発明のポリペプチドの定量

本発明のポリペプチドに対する抗体（以下、本発明の抗体と略記する場合がある）は、本発明のポリペプチドを特異的に認識することができるので、被検液中の本発明のポリペプチドの定量、特にサンドイッチ免疫測定法による定量などに使用することができる。

すなわち、本発明は、

（i）本発明の抗体と、被検液および標識化された本発明のポリペプチドとを競争的に反応させ、該抗体に結合した標識化された本発明のポリペプチドの割合を測定することを特徴とする被検液中の本発明のポリペプチドの定量法、および

（ii）被検液と担体上に不溶化した本発明の抗体および標識化された本発明の別の抗体とを同時あるいは連続的に反応させたのち、不溶化担体上の標識剤の活性を測定することを特徴とする被検液中の本発明のポリペプチドの定量法を提供する。

上記（ii）の定量法においては、一方の抗体が本発明のポリペプチドのN端

部を認識する抗体で、他方の抗体が本発明のポリペプチドのC端部に反応する抗体であることが望ましい。

また、本発明のポリペプチドに対するモノクローナル抗体を用いて本発明のポリペプチドの定量を行うことができるほか、組織染色等による検出を行なうこともできる。これらの目的には、抗体分子そのものを用いてもよく、また、抗体分子の $F(ab')_2$ 、 Fab' 、あるいは Fab 画分を用いてもよい。

本発明の抗体を用いる本発明のポリペプチドの定量法は、特に制限されるべきものではなく、被測定液中の抗原量（例えば、ポリペプチド量）に対応した抗体、抗原もしくは抗体-抗原複合体の量を化学的または物理的手段により検出し、これを既知量の抗原を含む標準液を用いて作製した標準曲線より算出する測定法であれば、いずれの測定法を用いてもよい。例えば、ネフロメトリー、競合法、イムノメトリック法およびサンドイッチ法が好適に用いられるが、感度、特異性の点で、後述するサンドイッチ法を用いるのが特に好ましい。

【0053】

標識物質を用いる測定法に用いられる標識剤としては、例えば、放射性同位元素、酵素、蛍光物質、発光物質などが用いられる。放射性同位元素としては、例えば、 $[^{125}I]$ 、 $[^{131}I]$ 、 $[^3H]$ 、 $[^{14}C]$ などが用いられる。上記酵素としては、安定で比活性の大きなものが好ましく、例えば、 β -ガラクトシダーゼ、 β -グルコシダーゼ、アルカリフォスファターゼ、パーオキシダーゼ、リンゴ酸脱水素酵素などが用いられる。蛍光物質としては、例えば、フルオレスカミン、フルオレッセンイソチオシアネートなどが用いられる。発光物質としては、例えば、ルミノール、ルミノール誘導体、ルシフェリン、ルシゲニンなどが用いられる。さらに、抗体あるいは抗原と標識剤との結合にビオチン-アビジン系を用いることもできる。

抗原あるいは抗体の不溶化に当っては、物理吸着を用いてもよく、また通常ポリペプチドあるいは酵素等を不溶化、固定化するのに用いられる化学結合を用いる方法でもよい。担体としては、アガロース、デキストラン、セルロースなどの不溶性多糖類、ポリスチレン、ポリアクリルアミド、シリコン等の合成樹脂、あるいはガラス等があげられる。

サンドイッチ法においては不溶化した本発明のモノクローナル抗体に被検液を反応させ（１次反応）、さらに標識化した別の本発明のモノクローナル抗体を反応させ（２次反応）たのち、不溶化担体上の標識剤の活性を測定することにより被検液中の本発明のポリペプチド量を定量することができる。１次反応と２次反応は逆の順序に行っても、また、同時に行なってもよいし時間をずらして行なってもよい。標識化剤および不溶化の方法は前記のそれらに準じることができる。また、サンドイッチ法による免疫測定法において、固相用抗体あるいは標識用抗体に用いられる抗体は必ずしも１種類である必要はなく、測定感度を向上させる等の目的で２種類以上の抗体の混合物を用いてもよい。

【0054】

本発明のサンドイッチ法による本発明のポリペプチドの測定法においては、１次反応と２次反応に用いられる本発明のモノクローナル抗体は、本発明のポリペプチドの結合する部位が相異なる抗体が好ましく用いられる。すなわち、１次反応および２次反応に用いられる抗体は、例えば、２次反応で用いられる抗体が、本発明のポリペプチドのＣ端部を認識する場合、１次反応で用いられる抗体は、好ましくはＣ端部以外、例えばＮ端部を認識する抗体が用いられる。

本発明のモノクローナル抗体をサンドイッチ法以外の測定システム、例えば、競合法、イムノメトリック法あるいはネフロメトリーなどに用いることができる。

競合法では、被検液中の抗原と標識抗原とを抗体に対して競合的に反応させたのち、未反応の標識抗原（Ｆ）と、抗体と結合した標識抗原（Ｂ）とを分離し（Ｂ／Ｆ分離）、Ｂ、Ｆいずれかの標識量を測定し、被検液中の抗原量を定量する。本反応法には、抗体として可溶性抗体を用い、Ｂ／Ｆ分離をポリエチレングリコール、前記抗体に対する第２抗体などを用いる液相法、および、第１抗体として固相化抗体を用いるか、あるいは、第１抗体は可溶性のものを用地第２抗体として固相化抗体を用いる固相化法とが用いられる。

イムノメトリック法では、被検液中の抗原と固相化抗原とを一定量の標識化抗体に対して競合反応させた後固相と液相を分離するか、あるいは、被検液中の抗原と過剰量の標識化抗体とを反応させ、次に固相化抗原を加え未反応の標識化抗

体を固相に結合させたのち、固相と液相を分離する。次に、いずれかの相の標識量を測定し被検液中の抗原量を定量する。

また、ネフロメトリーでは、ゲル内あるいは溶液中で抗原抗体反応の結果生じた不溶性の沈降物の量を測定する。被検液中の抗原量が僅かであり、少量の沈降物しか得られない場合にもレーザーの散乱を利用するレーザーネフロメトリーなどが好適に用いられる。

これら個々の免疫学的測定法を本発明の定量方法に適用するにあたっては、特別の条件、操作等の設定は必要とされない。それぞれの方法における通常の条件、操作法に当業者の通常の技術的配慮を加えて本発明のポリペプチドの測定系を構築すればよい。これらの一般的な技術手段の詳細については、総説、成書などを参照することができる。

例えば、入江 寛編「ラジオイムノアッセイ」(講談社、昭和49年発行)、入江 寛編「続ラジオイムノアッセイ」(講談社、昭和54年発行)、石川栄治ら編「酵素免疫測定法」(医学書院、昭和53年発行)、石川栄治ら編「酵素免疫測定法」(第2版)(医学書院、昭和57年発行)、石川栄治ら編「酵素免疫測定法」(第3版)(医学書院、昭和62年発行)、「Methods in ENZYMOLOGY」Vol. 70 (Immunochemical Techniques (Part A))、同書Vol. 73 (Immunochemical Techniques (Part B))、同書Vol. 74 (Immunochemical Techniques (Part C))、同書Vol. 84 (Immunochemical Techniques (Part D: Selected Immunoassays))、同書Vol. 92 (Immunochemical Techniques (Part E: Monoclonal Antibodies and General Immunoassay Methods))、同書Vol. 121 (Immunochemical Techniques (Part I: Hybridoma Technology and Monoclonal Antibodies)) (以上、アカデミックプレス社発行)などを参照することができる。

以上のようにして、本発明の抗体を用いることによって、本発明のポリペプチ

ドを感度良く定量することができる。

【0055】

さらには、本発明の抗体を用いて本発明のポリペプチドの濃度を定量することによって、本発明のポリペプチドの濃度の減少が検出された場合、例えば、体重増加または脂肪量増加である、または将来体重が増加または脂肪量が増加する可能性が高いと診断することができる。

また、本発明のポリペプチドの濃度の増加が検出された場合には、例えば、体重減少などの疾病である、または将来罹患する可能性が高いと診断することができる。

また、本発明の抗体は、体液や組織などの被検体中に存在する本発明のポリペプチドを検出するために使用することができる。また、本発明のポリペプチドを精製するために使用する抗体カラムの作製、精製時の各分画中の本発明のポリペプチドの検出、被検細胞内における本発明のポリペプチドの挙動の分析などのために使用することができる。

【0056】

(4) 遺伝子診断剤

本発明のDNAは、例えば、プローブとして使用することにより、ヒトまたは温血動物（例えば、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、トリ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ウマ、ネコ、イヌ、サル、など）における本発明のポリペプチドをコードするDNAまたはmRNAの異常（遺伝子異常）を検出することができるので、例えば、該DNAまたはmRNAの損傷、突然変異あるいは発現低下や、該DNAまたはmRNAの増加あるいは発現過多などの遺伝子診断剤として有用である。

本発明のDNAを用いる上記の遺伝子診断は、例えば、公知のノーザンハイブリダイゼーションやPCR-SSCP法（ゲノミックス (Genomics) , 第5巻, 874~879頁 (1989年)、プロシーディングス・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンシズ・オブ・ユーエスエー (Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of Ameri

ca), 第86巻, 2766~2770頁(1989年))などにより実施することができる。

例えば、ノーザンハイブリダイゼーションにより発現低下が検出された場合は、例えば、体重増加または脂肪量増加である可能性が高いまたは将来体重が増加または脂肪量が増加する可能性が高いと診断することができる。

また、ノーザンハイブリダイゼーションにより発現過多が検出された場合は、例えば、体重減少などである可能性が高いまたは将来体重減少する可能性が高いと診断することができる。

【0057】

(5) アンチセンスDNAを含有する医薬

本発明のDNAに相補的に結合し、該DNAの発現を抑制することができるアンチセンスDNAは、例えば、体重増加剤などとして使用することができる。

例えば、該アンチセンスDNAを用いる場合、該アンチセンスDNAを単独あるいはレトロウイルスベクター、アデノウイルスベクター、アデノウイルスアソシエテッドウイルスベクターなどの適当なベクターに挿入した後、常套手段に従って実施することができる。該アンチセンスDNAは、そのまま、あるいは撮取促進のために補助剤などの生理学的に認められる担体とともに製剤化し、遺伝子銃やハイドロゲルカテーテルのようなカテーテルによって投与できる。

さらに、該アンチセンスDNAは、組織や細胞における本発明のDNAの存在やその発現状況を調べるための診断用オリゴヌクレオチドプローブとして使用することもできる。

【0058】

(6) 本発明の抗体を含有する医薬

本発明のポリペプチドを中和する作用を有する本発明の抗体は、例えば、体重増加剤などとして使用することができる。

本発明の抗体を含有する上記疾患の剤は、そのまま液剤として、または適当な剤型の医薬組成物として、ヒトまたは哺乳動物(例、ラット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ネコ、イヌ、サルなど)に対して経口的または非経口的に投与することができる。投与量は、投与対象、対象疾患、症状、投与ルートなどによって

も異なるが、例えば、成人の体重増加抑制のために使用する場合には、本発明の抗体を1回量として、通常0.01~20mg/kg体重程度、好ましくは0.1~10mg/kg体重程度、さらに好ましくは0.1~5mg/kg体重程度を、1日1~5回程度、好ましくは1日1~3回程度、静脈注射により投与するのが好都合である。他の非経口投与および経口投与の場合もこれに準ずる量を投与することができる。症状が特に重い場合には、その症状に応じて増量してもよい。

本発明の抗体は、それ自体または適当な医薬組成物として投与することができる。上記投与に用いられる医薬組成物は、上記またはその塩と薬理学的に許容され得る担体、希釈剤もしくは賦形剤とを含むものである。かかる組成物は、経口または非経口投与に適する剤形として提供される。

すなわち、例えば、経口投与のための組成物としては、固体または液体の剤形、具体的には錠剤（糖衣錠、フィルムコーティング錠を含む）、丸剤、顆粒剤、散剤、カプセル剤（ソフトカプセル剤を含む）、シロップ剤、乳剤、懸濁剤などがあげられる。かかる組成物は公知の方法によって製造され、製剤分野において通常用いられる担体、希釈剤もしくは賦形剤を含有するものである。例えば、錠剤用の担体、賦形剤としては、乳糖、でんぶん、蔗糖、ステアリン酸マグネシウムなどが用いられる。

【0059】

非経口投与のための組成物としては、例えば、注射剤、坐剤などが用いられ、注射剤は静脈注射剤、皮下注射剤、皮内注射剤、筋肉注射剤、点滴注射剤などの剤形を包含する。かかる注射剤は、公知の方法に従って、例えば、上記抗体またはその塩を通常注射剤に用いられる無菌の水性もしくは油性液に溶解、懸濁または乳化することによって調製する。注射用の水性液としては、例えば、生理食塩水、ブドウ糖やその他の補助薬を含む等張液などが用いられ、適当な溶解補助剤、例えば、アルコール（例、エタノール）、ポリアルコール（例、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール）、非イオン界面活性剤〔例、ポリソルベート80、HCO-50（polyoxyethylene（50mol）adduct of hydrogenated castor oil）〕などと併

用してもよい。油性液としては、例えば、ゴマ油、大豆油などが用いられ、溶解補助剤として安息香酸ベンジル、ベンジルアルコールなどを併用してもよい。調製された注射液は、通常、適当なアンプルに充填される。直腸投与に用いられる坐剤は、上記抗体またはその塩を通常の坐薬用基剤に混合することによって調製される。

上記の経口用または非経口用医薬組成物は、活性成分の投与量に適合するような投薬単位の剤形に調製されることが好都合である。かかる投薬単位の剤形としては、錠剤、丸剤、カプセル剤、注射剤（アンプル）、坐剤などが例示され、それぞれの投薬単位剤形当たり通常5～500mg、とりわけ注射剤では5～100mg、その他の剤形では10～250mgの上記抗体が含有されていることが好ましい。

なお前記した各組成物は、上記抗体との配合により好ましくない相互作用を生じない限り他の活性成分を含有してもよい。

【0060】

(7) DNA転移動物

外来性の本発明のポリペプチドをコードするDNA（以下、本発明の外来性DNAと略記する）またはその変異DNA（本発明の外来性変異DNAと略記する場合がある）を有する非ヒト哺乳動物も、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤などをスクリーニングするために用いられる。

本発明の外来性DNAまたはその変異DNAを有する非ヒト哺乳動物（以下、本発明のDNA転移動物と略記する）は、未受精卵、受精卵、精子およびその始原細胞を含む胚芽細胞などに対して、好ましくは、非ヒト哺乳動物の発生における胚発生の段階（さらに好ましくは、単細胞または受精卵細胞の段階でかつ一般に8細胞期以前）に、リン酸カルシウム法、電気パルス法、リポフェクション法、凝集法、マイクロインジェクション法、パーティクルガン法、DEAE-デキストラン法などにより目的とするDNAを転移することによって作出することができる。また、該DNA転移方法により、体細胞、生体の臓器、組織細胞などに目的とする本発明の外来性DNAを転移し、細胞培養、組織培養などに利用することもでき、さらに、これら細胞を上述の胚芽細胞と公知の細胞融合法により融

合させることにより本発明のDNA転移動物を作出することもできる。

非ヒト哺乳動物としては、例えば、ウシ、ブタ、ヒツジ、ヤギ、ウサギ、イヌ、ネコ、モルモット、ハムスター、マウス、ラットなどが用いられる。なかでも、病体動物モデル系の作成の面から個体発生および生物サイクルが比較的短く、また、繁殖が容易なゲッ歯動物、とりわけマウス（例えば、純系として、C57BL/6系統、DBA2系統など、交雑系として、B6C3F₁系統、BDF₁系統、B6D2F₁系統、BALB/c系統、ICR系統など）またはラット（例えば、Wistar, SDなど）などが好ましい。

哺乳動物において発現しうる組換えベクターにおける「哺乳動物」としては、上記の非ヒト哺乳動物の他にヒトなどがあげられる。

【0061】

本発明の外来性DNAとは、非ヒト哺乳動物が本来有している本発明のDNAではなく、いったん哺乳動物から単離・抽出された本発明のDNAをいう。

本発明の変異DNAとしては、元の本発明のDNAの塩基配列に変異（例えば、突然変異など）が生じたもの、具体的には、塩基の付加、欠損、他の塩基への置換などが生じたDNAなどが用いられ、また、異常DNAも含まれる。

該異常DNAとしては、異常な本発明のポリペプチドを発現させるDNAを意味し、例えば、正常な本発明のポリペプチドの機能を抑制するポリペプチドを発現させるDNAなどが用いられる。

本発明の外来性DNAは、対象とする動物と同種あるいは異種のどちらの哺乳動物由来のものであってもよい。本発明のDNAを対象動物に転移させるにあたっては、該DNAを動物細胞で発現させうるプロモーターの下流に結合したDNAコンストラクトとして用いるのが一般に有利である。例えば、本発明のヒトDNAを転移させる場合、これと相溶性が高い本発明のDNAを有する各種哺乳動物（例えば、ウサギ、イヌ、ネコ、モルモット、ハムスター、ラット、マウスなど）由来のDNAを発現させうる各種プロモーターの下流に、本発明のヒトDNAを結合したDNAコンストラクト（例、ベクターなど）を対象哺乳動物の受精卵、例えば、マウス受精卵へマイクロインジェクションすることによって本発明のDNAを高発現するDNA転移哺乳動物を作出することができる。

【0062】

本発明のポリペプチドの発現ベクターとしては、大腸菌由来のプラスミド、枯草菌由来のプラスミド、酵母由来のプラスミド、 λ ファージなどのバクテリオファージ、モロニー白血病ウイルスなどのレトロウイルス、ワクシニアウイルスまたはバキュロウイルスなどの動物ウイルスなどが用いられる。なかでも、大腸菌由来のプラスミド、枯草菌由来のプラスミドまたは酵母由来のプラスミドなどが好ましく用いられる。

上記のDNA発現調節を行なうプロモーターとしては、例えば、(a) ウイルス（例、シミアンウイルス、サイトメガロウイルス、モロニー白血病ウイルス、JCウイルス、乳癌ウイルス、ポリオウイルスなど）に由来するDNAのプロモーター、(b) 各種哺乳動物（ヒト、ウサギ、イヌ、ネコ、モルモット、ハムスター、ラット、マウスなど）由来のプロモーター、例えば、アルブミン、インスリンII、ウロプラキンII、エラスターゼ、エリスロポエチン、エンドセリン、筋クレアチンキナーゼ、グリア線維性酸性蛋白質、グルタチオンS-トランスフェラーゼ、血小板由来成長因子 β 、ケラチンK1、K10およびK14、コラーゲンI型およびII型、サイクリックAMP依存蛋白質キナーゼ β Iサブユニット、ジストロフィン、酒石酸抵抗性アルカリフォスファターゼ、心房ナトリウム利尿性因子、内皮レセプターチロシンキナーゼ（一般にTie2と略される）、ナトリウムカリウムアデノシン3リン酸化酵素（Na, K-ATPase）、ニューロフィラメント軽鎖、メタロチオネインIおよびIIA、メタロプロテインナーゼ1組織インヒビター、MHCクラスI抗原（H-2L）、H-ras、レニン、ドーパミン β -水酸化酵素、甲状腺ペルオキシダーゼ（TPO）、ポリペプチド鎖延長因子1 α （EF-1 α ）、 β アクチン、 α および β ミオシン重鎖、ミオシン軽鎖1および2、ミエリン基礎蛋白質、チログロブリン、Thy-1、免疫グロブリン、H鎖可変部（VNP）、血清アミロイドPコンポーネント、ミオグロビン、トロポニンC、平滑筋 α アクチン、プレプロエンケファリンA、バソプレシンなどのプロモーターなどが用いられる。なかでも、全身で高発現することが可能なサイトメガロウイルスプロモーター、ヒトポリペプチド鎖延長因子1 α （EF-1 α ）のプロモーター、ヒトおよびニワトリ β アクチンプロモータ

ーなどが好適である。

上記ベクターは、DNA転移哺乳動物において目的とするメッセンジャーRNAの転写を終結する配列（一般にターミネターと呼ばれる）を有していることが好ましく、例えば、ウイルス由来および各種哺乳動物由来の各DNAの配列を用いることができ、好ましくは、シミアンウイルスのSV40ターミネターなどが用いられる。

【0063】

その他、目的とする外来性DNAをさらに高発現させる目的で各DNAのスプライシングシグナル、エンハンサー領域、真核DNAのイントロンの一部などをプロモーター領域の5'上流、プロモーター領域と翻訳領域間あるいは翻訳領域の3'下流に連結することも目的により可能である。

正常な本発明のポリペプチドの翻訳領域は、ヒトまたは各種哺乳動物（例えば、ウサギ、イヌ、ネコ、モルモット、ハムスター、ラット、マウスなど）由来の肝臓、腎臓、甲状腺細胞、線維芽細胞由来DNAおよび市販の各種ゲノムDNAライブラリーよりゲノムDNAの全てあるいは一部として、または肝臓、腎臓、甲状腺細胞、線維芽細胞由来RNAより公知の方法により調製された相補DNAを原料として取得することが出来る。また、外来性の異常DNAは、上記の細胞または組織より得られた正常なポリペプチドの翻訳領域を点突然変異誘発法により変異した翻訳領域を作製することができる。

該翻訳領域は転移動物において発現しうるDNAコンストラクトとして、前記のプロモーターの下流および所望により転写終結部位の上流に連結させる通常のDNA工学的手法により作製することができる。

受精卵細胞段階における本発明の外来性DNAの転移は、対象哺乳動物の胚芽細胞および体細胞のすべてに存在するように確保される。DNA転移後の作出動物の胚芽細胞において、本発明の外来性DNAが存在することは、作出動物の後代がすべて、その胚芽細胞および体細胞のすべてに本発明の外来性DNAを保持することを意味する。本発明の外来性DNAを受け継いだこの種の動物の子孫はその胚芽細胞および体細胞のすべてに本発明の外来性DNAを有する。

本発明の外来性正常DNAを転移させた非ヒト哺乳動物は、交配により外来性

DNAを安定に保持することを確認して、該DNA保有動物として通常の飼育環境で継代飼育することが出来る。

受精卵細胞段階における本発明の外来性DNAの転移は、対象哺乳動物の胚芽細胞および体細胞の全てに過剰に存在するように確保される。DNA転移後の作出動物の胚芽細胞において本発明の外来性DNAが過剰に存在することは、作出動物の子孫が全てその胚芽細胞および体細胞の全てに本発明の外来性DNAを過剰に有することを意味する。本発明の外来性DNAを受け継いだこの種の動物の子孫はその胚芽細胞および体細胞の全てに本発明の外来性DNAを過剰に有する。

導入DNAを相同染色体の両方に持つホモザイゴート動物を取得し、この雌雄の動物を交配することによりすべての子孫が該DNAを過剰に有するように繁殖継代することができる。

【0064】

本発明の正常DNAを有する非ヒト哺乳動物は、本発明の正常DNAが高発現させられており、内在性の正常DNAの機能を促進することにより最終的に本発明のポリペプチドの機能亢進症を発症することがあり、その病態モデル動物として利用することができる。例えば、本発明の正常DNA転移動物を用いて、本発明のポリペプチドの機能亢進症や、本発明のポリペプチドに関連する疾患の病態機序の解明およびこれらの疾患の治療方法の検討を行なうことが可能である。

また、本発明の外来性正常DNAを転移させた哺乳動物は、遊離した本発明のポリペプチドの増加症状を有することから、本発明のポリペプチドに関連する疾患に対する治療薬のスクリーニング試験にも利用可能である。

一方、本発明の外来性異常DNAを有する非ヒト哺乳動物は、交配により外来性DNAを安定に保持することを確認して該DNA保有動物として通常の飼育環境で継代飼育することが出来る。さらに、目的とする外来DNAを前述のプラスミドに組み込んで原料として用いることができる。プロモーターとのDNAコンストラクトは、通常のDNA工学的手法によって作製することができる。受精卵細胞段階における本発明の異常DNAの転移は、対象哺乳動物の胚芽細胞および体細胞の全てに存在するように確保される。DNA転移後の作出動物の胚芽細胞

において本発明の異常DNAが存在することは、作出動物の子孫が全てその胚芽細胞および体細胞の全てに本発明の異常DNAを有することを意味する。本発明の外来性DNAを受け継いだこの種の動物の子孫は、その胚芽細胞および体細胞の全てに本発明の異常DNAを有する。導入DNAを相同染色体の両方に持つホモザイゴート動物を取得し、この雌雄の動物を交配することによりすべての子孫が該DNAを有するように繁殖継代することができる。

【0065】

本発明の異常DNAを有する非ヒト哺乳動物は、本発明の異常DNAが高発現させられており、内在性の正常DNAの機能を阻害することにより最終的に本発明のポリペプチドの機能不活性型不応症となることがあり、その病態モデル動物として利用することができる。例えば、本発明の異常DNA転移動物を用いて、本発明のポリペプチドの機能不活性型不応症の病態機序の解明およびこの疾患を治療方法の検討を行なうことが可能である。

また、具体的な利用可能性としては、本発明の異常DNA高発現動物は、本発明のポリペプチドの機能不活性型不応症における本発明の異常ポリペプチドによる正常ポリペプチドの機能阻害 (dominant negative作用) を解明するモデルとなる。

また、本発明の外来異常DNAを転移させた哺乳動物は、遊離した本発明のポリペプチドの増加症状を有することから、本発明のポリペプチドまたはの機能不活性型不応症に対する治療薬スクリーニング試験にも利用可能である。

また、上記2種類の本発明のDNA転移動物のその他の利用可能性として、例えば、

- (a) 組織培養のための細胞源としての使用、
- (b) 本発明のDNA転移動物の組織中のDNAもしくはRNAを直接分析するか、またはDNAにより発現されたポリペプチド組織を分析することによる、本発明のポリペプチドにより特異的に発現あるいは活性化するポリペプチドとの関連性についての解析、
- (c) DNAを有する組織の細胞を標準組織培養技術により培養し、これらを使用して、一般に培養困難な組織からの細胞の機能の研究、

(d) 上記(c)記載の細胞を用いることによる細胞の機能を高めるような薬剤のスクリーニング、および

(e) 本発明の変異ポリペプチドを単離精製およびその抗体作製などが考えられる。

さらに、本発明のDNA転移動物を用いて、本発明のポリペプチドの機能不活性型不応症などを含む、本発明のポリペプチドに関連する疾患の臨床症状を調べることができ、また、本発明のポリペプチドに関連する疾患モデルの各臓器におけるより詳細な病理学的所見が得られ、新しい治療方法の開発、さらには、該疾患による二次的疾患の研究および治療に貢献することができる。

また、本発明のDNA転移動物から各臓器を取り出し、細切後、トリプシンなどの蛋白質分解酵素により、遊離したDNA転移細胞の取得、その培養またはその培養細胞の系統化を行なうことが可能である。さらに、本発明のポリペプチド産生細胞の特定化、アポトーシス、分化あるいは増殖との関連性、またはそれらにおけるシグナル伝達機構を調べ、それらの異常を調べることなどができ、本発明のポリペプチドおよびその作用解明のための有効な研究材料となる。

さらに、本発明のDNA転移動物を用いて、本発明のポリペプチドの機能不活性型不応症を含む、本発明のポリペプチドに関連する疾患の治療薬の開発を行なうために、上述の検査法および定量法などを用いて、有効で迅速な該疾患治療薬のスクリーニング法を提供することが可能となる。また、本発明のDNA転移動物または本発明の外来性DNA発現ベクターを用いて、本発明のポリペプチドが関連する疾患のDNA治療法を検討、開発することが可能である。

【0066】

(8) ソックアウト動物

本発明のDNAが不活性化された非ヒト哺乳動物胚幹細胞および本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物も、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤をスクリーニングするために用いられる。

本発明のDNAが不活性化された非ヒト哺乳動物胚幹細胞とは、該非ヒト哺乳動物が有する本発明のDNAに人為的に変異を加えることにより、DNAの発現能を抑制するか、もしくは該DNAがコードしている本発明のポリペプチドの活

性を実質的に喪失させることにより、DNAが実質的に本発明のポリペプチドの発現能を有さない（以下、本発明のノックアウトDNAと称することがある）非ヒト哺乳動物の胚幹細胞（以下、ES細胞と略記する）をいう。

非ヒト哺乳動物としては、前記と同様のものが用いられる。

本発明のDNAに人為的に変異を加える方法としては、例えば、遺伝子工学的手法により該DNA配列の一部又は全部の削除、他DNAを挿入または置換させることによって行なうことができる。これらの変異により、例えば、コドンの読み取り枠をずらしたり、プロモーターあるいはエキソンの機能を破壊することにより本発明のノックアウトDNAを作製すればよい。

【0067】

本発明のDNAが不活性化された非ヒト哺乳動物胚幹細胞（以下、本発明のDNA不活性化ES細胞または本発明のノックアウトES細胞と略記する）の具体例としては、例えば、目的とする非ヒト哺乳動物が有する本発明のDNAを単離し、そのエキソン部分にネオマイシン耐性遺伝子、ハイグロマイシン耐性遺伝子を代表とする薬剤耐性遺伝子、あるいはlacZ（ β -ガラクトシダーゼ遺伝子）、cat（クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ遺伝子）を代表とするレポーター遺伝子等を挿入することによりエキソンの機能を破壊するか、あるいはエキソン間のイントロン部分に遺伝子の転写を終結させるDNA配列（例えば、polyA付加シグナルなど）を挿入し、完全なメッセンジャーRNAを合成できなくすることによって、結果的に遺伝子を破壊するように構築したDNA配列を有するDNA鎖（以下、ターゲッティングベクターと略記する）を、例えば相同組換え法により該動物の染色体に導入し、得られたES細胞について本発明のDNA上あるいはその近傍のDNA配列をプローブとしたサザンハイブリダイゼーション解析あるいはターゲッティングベクター上のDNA配列とターゲッティングベクター作製に使用した本発明のDNA以外の近傍領域のDNA配列をプライマーとしたPCR法により解析し、本発明のノックアウトES細胞を選別することにより得ることができる。

また、相同組換え法等により本発明のDNAを不活化させる元のES細胞としては、例えば、前述のような既に樹立されたものを用いてもよく、また公知ES

ansとKaufmaの方法に準じて新しく樹立したものでよい。例えば、マウスのES細胞の場合、現在、一般的には129系のES細胞が使用されているが、免疫学的背景がはっきりしていないので、これに代わる純系で免疫学的に遺伝的背景が明らかなES細胞を取得するなどの目的で例えば、C57BL/6マウスやC57BL/6の採卵数の少なさをDBA/2との交雑により改善したBDF₁マウス(C57BL/6とDBA/2とのF₁)を用いて樹立したものなども良好に用いる。BDF₁マウスは、採卵数が多く、かつ、卵が丈夫であるという利点に加えて、C57BL/6マウスを背景に持つので、これを用いて得られたES細胞は病態モデルマウスを作出したとき、C57BL/6マウスとバッククロスすることでその遺伝的背景をC57BL/6マウスに代えることが可能である点で有利に用い得る。

また、ES細胞を樹立する場合、一般には受精後3.5日目の胚盤胞を使用するが、これ以外に8細胞期胚を採卵し胚盤胞まで培養して用いることにより効率よく多数の初期胚を取得することができる。

また、雌雄いずれのES細胞を用いてもよいが、通常雄のES細胞の方が生殖系列キメラを作出するのに都合が良い。また、煩雑な培養の手間を削減するためにもできるだけ早く雌雄の判別を行なうことが望ましい。

【0068】

ES細胞の雌雄の判定方法としては、例えば、PCR法によりY染色体上の性決定領域の遺伝子を増幅、検出する方法が、その1例としてあげることができる。この方法を使用すれば、従来、核型分析をするのに約 10^6 個の細胞数を要していたのに対して、1コロニー程度のES細胞数(約50個)で済むので、培養初期におけるES細胞の第一次セレクションを雌雄の判別で行なうことが可能であり、早期に雄細胞の選定を可能にしたことにより培養初期の手間は大幅に削減できる。

また、第二次セレクションとしては、例えば、G-バンディング法による染色体数の確認等により行うことができる。得られるES細胞の染色体数は正常数の100%が望ましいが、樹立の際の物理的操作等の関係上困難な場合は、ES細胞の遺伝子をノックアウトした後、正常細胞(例えば、マウスでは染色体数が2

n = 40である細胞) に再びクローニングすることが望ましい。

このようにして得られた胚幹細胞株は、通常その増殖性は大変良いが、個体発生できる能力を失いやすいので、注意深く継代培養することが必要である。例えば、STO繊維芽細胞のような適当なフィーダー細胞上でLIF (1-10000 U/ml) 存在下に炭酸ガス培養器内 (好ましくは、5%炭酸ガス、95%空気または5%酸素、5%炭酸ガス、90%空気) で約37℃で培養するなどの方法で培養し、継代時には、例えば、トリプシン/EDTA溶液 (通常0.001-0.5%トリプシン/0.1-5 mM EDTA、好ましくは約0.1%トリプシン/1 mM EDTA) 処理により単細胞化し、新たに用意したフィーダー細胞上に播種する方法などがとられる。このような継代は、通常1-3日毎に行なうが、この際に細胞の観察を行い、形態的に異常な細胞が見受けられた場合はその培養細胞は放棄することが望まれる。

ES細胞は、適当な条件により、高密度に至るまで単層培養するか、または細胞集塊を形成するまで浮遊培養することにより、頭頂筋、内臓筋、心筋などの種々のタイプの細胞に分化させることが可能であり [M. J. Evans 及び M. H. Kaufman, ネイチャー (Nature) 第292巻、154頁、1981年; G. R. Martin プロシーディングス・オブ・ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンス・ユーエスエー (Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.) 第78巻、7634頁、1981年; T. C. Doetschmanら、ジャーナル・オブ・エンブリオロジー・アンド・エクスペリメンタル・モルフォロジー、第87巻、27頁、1985年]、本発明のES細胞を分化させて得られる本発明のDNA発現不全細胞は、インビトロにおける本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体の細胞生物学的検討において有用である。

【0069】

本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物は、該動物のmRNA量を公知方法を用いて測定して間接的にその発現量を比較することにより、正常動物と区別することが可能である。

該非ヒト哺乳動物としては、前記と同様のものが用いられる。

本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物は、例えば、前述のようにして作製し

たターゲッティングベクターをマウス胚幹細胞またはマウス卵細胞に導入し、導入によりターゲッティングベクターの本発明のDNAが不活性化されたDNA配列が遺伝子相同組換えにより、マウス胚幹細胞またはマウス卵細胞の染色体上の本発明のDNAと入れ換わる相同組換えをさせることにより、本発明のDNAをノックアウトさせることができる。

本発明のDNAがノックアウトされた細胞は、本発明のDNA上またはその近傍のDNA配列をプローブとしたサザンハイブリダイゼーション解析またはターゲッティングベクター上のDNA配列と、ターゲッティングベクターに使用したマウス由来の本発明のDNA以外の近傍領域のDNA配列とをプライマーとしたPCR法による解析で判定することができる。非ヒト哺乳動物胚幹細胞を用いた場合は、遺伝子相同組換えにより、本発明のDNAが不活性化された細胞株をクローニングし、その細胞を適当な時期、例えば、8細胞期の非ヒト哺乳動物胚または胚盤胞に注入し、作製したキメラ胚を偽妊娠させた該非ヒト哺乳動物の子宮に移植する。作出された動物は正常な本発明のDNA座をもつ細胞と人為的に変異した本発明のDNA座をもつ細胞との両者から構成されるキメラ動物である。

該キメラ動物の生殖細胞の一部が変異した本発明のDNA座をもつ場合、このようなキメラ個体と正常個体を交配することにより得られた個体群より、全ての組織が人為的に変異を加えた本発明のDNA座をもつ細胞で構成された個体を、例えば、コートカラーの判定等により選別することにより得られる。このようにして得られた個体は、通常、本発明のポリペプチドのヘテロ発現不全個体であり、本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体のヘテロ発現不全個体同志を交配し、それらの産仔から本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体のホモ発現不全個体を得ることができる。

【0070】

卵細胞を使用する場合は、例えば、卵細胞核内にマイクロインジェクション法でDNA溶液を注入することによりターゲッティングベクターを染色体内に導入したトランスジェニック非ヒト哺乳動物を得ることができ、これらのトランスジェニック非ヒト哺乳動物に比べて、遺伝子相同組換えにより本発明のDNA座に変異のあるものを選択することにより得られる。

このようにして本発明のDNAがロックアウトされている個体は、交配により得られた動物個体も該DNAがロックアウトされていることを確認して通常の飼育環境で飼育継代を行なうことができる。

さらに、生殖系列の取得および保持についても常法に従えばよい。すなわち、該不活化DNAの保有する雌雄の動物を交配することにより、該不活化DNAを相同染色体の両方に持つホモザイゴート動物を取得しうる。得られたホモザイゴート動物は、母親動物に対して、正常個体1、ホモザイゴート複数になるような状態で飼育することにより効率的に得ることができる。ヘテロザイゴート動物の雌雄を交配することにより、該不活化DNAを有するホモザイゴートおよびヘテロザイゴート動物を繁殖継代する。

本発明のDNAが不活性化された非ヒト哺乳動物胚幹細胞は、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物を作出する上で、非常に有用である。

また、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物は、本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体により誘導され得る種々の生物活性を欠失するため、本発明のポリペプチドまたは本発明の受容体の生物活性の不活性化を原因とする疾病のモデルとなり得るので、これらの疾病の原因究明及び治療法の検討に有用である。

【0071】

(8a) 本発明のDNAの欠損や損傷などに起因する疾病に対して治療・予防効果を有する化合物のスクリーニング方法

本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物は、本発明のDNAの欠損や損傷などに起因する疾病に対して治療・予防効果を有する化合物のスクリーニングに用いることができる。

すなわち、本発明は、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物に試験化合物を投与し、該動物の変化を観察・測定することを特徴とする、本発明のDNAの欠損や損傷などに起因する疾病に対して治療・予防効果を有する化合物またはその塩のスクリーニング方法を提供する。

該スクリーニング方法において用いられる本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物としては、前記と同様のものがあげられる。

試験化合物としては、例えば、ペプチド、タンパク、非ペプチド性化合物、合

成化合物、発酵生産物、細胞抽出液、植物抽出液、動物組織抽出液、血漿などがあげられ、これら化合物は新規な化合物であってもよいし、公知の化合物であってもよい。

具体的には、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物を、試験化合物で処理し、無処理の対照動物と比較し、該動物の各器官、組織、疾病の症状などの変化を指標として試験化合物の治療・予防効果を試験することができる。

試験動物を試験化合物で処理する方法としては、例えば、経口投与、静脈注射などが用いられ、試験動物の症状、試験化合物の性質などにあわせて適宜選択することができる。また、試験化合物の投与量は、投与方法、試験化合物の性質などにあわせて適宜選択することができる。

【0072】

例えば、体重増加抑制薬をスクリーニングする場合、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物に糖負荷処置を行ない、糖負荷処置前または処置後に試験化合物を投与し、該動物の血糖値および体重変化などを経時的に測定する。

【0073】

該スクリーニング方法において、試験動物に試験化合物を投与した場合、該試験動物の血糖値が約10%以上、好ましくは約30%以上、より好ましくは約50%以上低下した場合、該試験化合物を上記の疾患に対して治療・予防効果を有する化合物として選択することができる。

該スクリーニング方法を用いて得られる化合物は、上記した試験化合物から選ばれた化合物であり、本発明のポリペプチドの欠損や損傷などによって引き起こされる疾患に対して治療・予防効果を有するので、該疾患に対する安全で低毒性な治療・予防剤などの医薬として使用することができる。さらに、上記スクリーニングで得られた化合物から誘導される化合物も同様に用いることができる。

該スクリーニング方法で得られた化合物は塩を形成していてもよく、該化合物の塩としては、生理学的に許容される酸（例、無機酸、有機酸など）や塩基（例、アルカリ金属など）などとの塩が用いられ、とりわけ生理学的に許容される酸付加塩が好ましい。この様な塩としては、例えば、無機酸（例えば、塩酸、リン酸、臭化水素酸、硫酸など）との塩、あるいは有機酸（例えば、酢酸、ギ酸、ブ

ロピオン酸、フマル酸、マレイン酸、コハク酸、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸、
 蔞酸、安息香酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸など）との塩などが用
 いられる。

該スクリーニング方法で得られた化合物またはその塩を含有する医薬は、前記
 した本発明のポリペプチドを含有する医薬と同様にして製造することができる。

このようにして得られる製剤は、安全で低毒性であるので、例えば、ヒトまた
 は哺乳動物（例えば、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウ
 シ、ウマ、ネコ、イヌ、サルなど）に対して投与することができる。

該化合物またはその塩の投与量は、対象疾患、投与対象、投与ルートなどによ
 り差異はあるが、例えば、該化合物を皮下投与する場合、一般的に成人（体重6
 0kgとして）の患者においては、一日につき該化合物を約0.1～100mg
 、好ましくは約1.0～50mg、より好ましくは約1.0～20mg投与する
 。非経口的に投与する場合は、該化合物の1回投与量は投与対象、対象疾患など
 によっても異なるが、例えば、本発明のDNAに対するプロモーター活性を促進
 する化合物を注射剤の形で通常成人（60kgとして）の拒食症患者に投与する
 場合、一日につき該化合物を約0.01～30mg程度、好ましくは約0.1～
 20mg程度、より好ましくは約0.1～10mg程度を静脈注射により投与す
 るのが好都合である。他の動物の場合も、60kg当りに換算した量を投与す
 ることができる。

【0074】

（8b）本発明のDNAに対するプロモーターの活性を促進または阻害する化合
 物をスクリーニング方法

本発明は、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物に、試験化合物を投与し、
 レポーター遺伝子の発現を検出することを特徴とする本発明のDNAに対するプ
 ロモーターの活性を促進または阻害する化合物またはその塩のスクリーニング方
 法を提供する。

上記スクリーニング方法において、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物と
 しては、前記した本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物の中でも、本発明のD
 NAがレポーター遺伝子を導入することにより不活性化され、該レポーター遺伝

子が本発明のDNAに対するプロモーターの制御下で発現しうるものが用いられる。

試験化合物としては、前記と同様のものがあげられる。

レポーター遺伝子としては、前記と同様のものが用いられ、 β -ガラクトシダーゼ遺伝子 (lacZ)、可溶性アルカリフォスファターゼ遺伝子またはルシフェラーゼ遺伝子などが好適である。

本発明のDNAをレポーター遺伝子で置換された本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物では、レポーター遺伝子が本発明のDNAに対するプロモーターの支配下に存在するので、レポーター遺伝子がコードする物質の発現をトレースすることにより、プロモーターの活性を検出することができる。

例えば、本発明のポリペプチドをコードするDNA領域の一部を大腸菌由来の β -ガラクトシダーゼ遺伝子 (lacZ) で置換している場合、本来、本発明のポリペプチドの発現する組織で、本発明のポリペプチドの代わりに β -ガラクトシダーゼが発現する。従って、例えば、5-プロモ-4-クロロ-3-インドリル- β -ガラクトピラノシド (X-gal) のような β -ガラクトシダーゼの基質となる試薬を用いて染色することにより、簡便に本発明のポリペプチドの動物生体内における発現状態を観察することができる。具体的には、本発明のポリペプチド欠損マウスまたはその組織切片をグルタルアルデヒドなどで固定し、リン酸緩衝生理食塩液 (PBS) で洗浄後、X-galを含む染色液で、室温または37℃付近で、約30分ないし1時間反応させた後、組織標本を1mM EDTA/PBS溶液で洗浄することによって、 β -ガラクトシダーゼ反応を停止させ、呈色を観察すればよい。また、常法に従い、lacZをコードするmRNAを検出してもよい。

上記スクリーニング方法を用いて得られる化合物またはその塩は、上記した試験化合物から選ばれた化合物であり、本発明のDNAに対するプロモーター活性を促進または阻害する化合物である。

該スクリーニング方法で得られた化合物は塩を形成していてもよく、該化合物の塩としては、生理学的に許容される酸 (例、無機酸など) や塩基 (例、有機酸など) などとの塩が用いられ、とりわけ生理学的に許容される酸付加塩が好まし

い。この様な塩としては、例えば、無機酸（例えば、塩酸、リン酸、臭化水素酸、硫酸など）との塩、あるいは有機酸（例えば、酢酸、ギ酸、プロピオン酸、フマル酸、マレイン酸、コハク酸、酒石酸、クエン酸、リンゴ酸、蔞酸、安息香酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸など）との塩などが用いられる。

【0075】

本発明のDNAに対するプロモーター活性を促進する化合物またはその塩は、本発明のポリペプチドの発現を促進し、該ポリペプチドの機能を促進することができるので、例えば、体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬、摂食抑制薬などとして有用であり、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤などとして使用することができる。

また、本発明のDNAに対するプロモーター活性を阻害する化合物またはその塩は、本発明のポリペプチドの発現を阻害し、該ポリペプチドの機能を阻害することができるので、例えば体重増加薬などとして有用であり、体重増加剤などとして使用することができる。

さらに、上記スクリーニングで得られた化合物から誘導される化合物も同様に用いることができる。

【0076】

該スクリーニング方法で得られた化合物またはその塩を含有する医薬は、前記した本発明のポリペプチドまたはその塩を含有する医薬と同様にして製造することができる。

このようにして得られる製剤は、安全で低毒性であるので、例えば、ヒトまたは哺乳動物（例えば、ラット、マウス、モルモット、ウサギ、ヒツジ、ブタ、ウシ、ウマ、ネコ、イヌ、サルなど）に対して投与することができる。

該化合物またはその塩の投与量は、対象疾患、投与対象、投与ルートなどにより差異はあるが、例えば、本発明のDNAに対するプロモーター活性を促進する化合物を経口投与する場合、一般的に成人（体重60kgとして）の患者においては、一日につき該化合物を約0.1～100mg、好ましくは約1.0～50mg、より好ましくは約1.0～20mg投与する。非経口的に投与する場合は、該化合物の1回投与量は投与対象、対象疾患などによっても異なるが、例えば

、本発明のDNAに対するプロモーター活性を促進する化合物を注射剤の形で通常成人（60kgとして）の患者に投与する場合、一日につき該化合物を約0.01～30mg程度、好ましくは約0.1～20mg程度、より好ましくは約0.1～10mg程度を静脈注射により投与するのが好都合である。他の動物の場合も、60kgあたりに換算した量を投与することができる。

一方、例えば、本発明のDNAに対するプロモーター活性を阻害する化合物を経口投与する場合、一般的に成人（体重60kgとして）の患者においては、一日につき該化合物を約0.1～100mg、好ましくは約1.0～50mg、より好ましくは約1.0～20mg投与する。非経口的に投与する場合は、該化合物の1回投与量は投与対象、対象疾患などによっても異なるが、例えば、本発明のDNAに対するプロモーター活性を阻害する化合物を注射剤の形で通常成人（60kgとして）の患者に投与する場合、一日につき該化合物を約0.01～30mg程度、好ましくは約0.1～20mg程度、より好ましくは約0.1～10mg程度を静脈注射により投与するのが好都合である。他の動物の場合も、60kgあたりに換算した量を投与することができる。

このように、本発明のDNA発現不全非ヒト哺乳動物は、本発明のDNAに対するプロモーターの活性を促進または阻害する化合物またはその塩をスクリーニングする上で極めて有用であり、本発明のDNA発現不全に起因する各種疾患の原因究明または予防・治療薬の開発に大きく貢献することができる。

また、本発明のポリペプチドのプロモーター領域を含有するDNAを使って、その下流に種々のタンパクをコードする遺伝子を連結し、これを動物の卵細胞に注入していわゆるトランスジェニック動物（遺伝子移入動物）を作成すれば、特異的にそのポリペプチドを合成させ、その生体での作用を検討することも可能となる。さらに上記プロモーター部分に適当なレポーター遺伝子を結合させ、これが発現するような細胞株を樹立すれば、本発明のポリペプチドそのものの体内での産生能力を特異的に促進もしくは抑制する作用を持つ低分子化合物の探索系として使用できる。

【0077】

本明細書および図面において、塩基やアミノ酸などを略号で表示する場合、I

UPAC-IUB Commission on Biochemical Nomenclatureによる略号あるいは当該分野における慣用略号に基づくものであり、その例を下記する。またアミノ酸に関し光学異性体があり得る場合は、特に明示しなければL体を示すものとする。

DNA	: デオキシリボ核酸
cDNA	: 相補的デオキシリボ核酸
A	: アデニン
T	: チミン
G	: グアニン
C	: シトシン
I	: イノシン
R	: アデニン (A) または グアニン (G)
Y	: チミン (T) または シトシン (C)
M	: アデニン (A) または シトシン (C)
K	: グアニン (G) または チミン (T)
S	: グアニン (G) または シトシン (C)
W	: アデニン (A) または チミン (T)
B	: グアニン (G)、グアニン (G) または チミン (T)
D	: アデニン (A)、グアニン (G) または チミン (T)
V	: アデニン (A)、グアニン (G) または シトシン (C)
N	: アデニン (A)、グアニン (G)、シトシン (C) もしくは チミン (T) または 不明もしくは他の塩基
RNA	: リボ核酸
mRNA	: メッセンジャーリボ核酸
dATP	: デオキシアデノシン三リン酸
dTTP	: デオキシチミジン三リン酸
dGTP	: デオキシグアノシン三リン酸
dCTP	: デオキシシチジン三リン酸
ATP	: アデノシン三リン酸

EDTA	: エチレンジアミン四酢酸
SDS	: ドデシル硫酸ナトリウム
BHA	: ベンズヒドリルアミン
pMBHA	: p-メチルベンズヒドリルアミン
Tos	: p-トルエンスルフォニル
Bzl	: ベンジル
Bom	: ベンジルオキシメチル
Boc	: t-ブチルオキシカルボニル
DCM	: ジクロロメタン
HOBT	: 1-ヒドロキシベンズトリアゾール
DCC	: N, N'-ジシクロヘキシルカルボジイミド
TFA	: トリフルオロ酢酸
DIEA	: ジイソプロピルエチルアミン
Gly又はG	: グリシン
Ala又はA	: アラニン
Val又はV	: バリン
Leu又はL	: ロイシン
Ile又はI	: イソロイシン
Ser又はS	: セリン
Thr又はT	: スレオニン
Cys又はC	: システイン
Met又はM	: メチオニン
Glu又はE	: グルタミン酸
Asp又はD	: アスパラギン酸
Lys又はK	: リジン
Arg又はR	: アルギニン
His又はH	: ヒスチジン
Phe又はF	: フェニルアラニン
Tyr又はY	: チロシン

Trp又はW	: トリプトファン
Pro又はP	: プロリン
Asn又はN	: アスパラギン
Gln又はQ	: グルタミン
pGlu	: ピログルタミン酸
Tyr (I)	: 3-ヨードチロシン
DMF	: N、N-ジメチルホルムアミド
Fmoc	: N-9-フルオレニルメトキシカルボニル
Trt	: トリチル
Pbf	: 2, 2, 4, 6, 7-ペンタメチルジヒドロベンゾフラン
-5-スルホニル	
Clt	: 2-クロロトリチル
Bu ^t	: t-ブチル
Met (O)	: メチオニンスルフォキシド

【0078】

本願明細書の配列表の配列番号は、以下の配列を示す。

〔配列番号：1〕

ヒトGPR8蛋白質をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：2〕

ヒトGPR8蛋白質をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：3〕

5'側に制限酵素ClaIの認識する塩基配列が付加され、また3'側に制限酵素SpeIの認識する塩基配列が付加されたヒトGPR8蛋白質cDNAの全塩基配列を示す。

〔配列番号：4〕

ヒトGPR8蛋白の全アミノ酸配列を示す。

〔配列番号：5〕

GPR8発現CHO細胞株の各クローンにおけるGPR8受容体蛋白質mRNAの発現量を測定するために使用したriboprobeの配列を示す。

〔配列番号：6〕

ブタ視床下部から精製されたGPR8に対するリガンドペプチドのアミノ末端アミノ酸配列解析の結果から得られたアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：7〕

相補鎖がGPR8リガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列（アクセッション番号：AW007531）を示す。

〔配列番号：8〕

相補鎖がGPR8リガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列（アクセッション番号：AI500303）を示す。

〔配列番号：9〕

相補鎖がGPR8リガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列（アクセッション番号：AI990964）を示す。

〔配列番号：10〕

相補鎖がGPR8リガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列（アクセッション番号：AA744804）を示す。

〔配列番号：11〕

GPR8リガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列（アクセッション番号：H31598）を示す。

〔配列番号：12〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：13〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコード

する cDNA のスクリーニングに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：14〕

ヒト脳由来 cDNA から増幅された GPR8 に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードする DNA 配列を示す。

〔配列番号：15〕

GPR8 に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：16〕

配列番号：15 から推定された GPR8 に対するリガンドペプチドのヒトホモログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：17〕

配列番号：15 から推定された GPR8 に対するリガンドペプチドのヒトホモログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：18〕

配列番号：16 で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：19〕

配列番号：17 で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：20〕

後述の参考例 14 で合成されたヒト GPR リガンド (1-29) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：21〕

後述の参考例 15 で合成されたヒト GPR リガンド (1-28) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：22〕

後述の参考例 16 で合成されたヒト GPR リガンド (1-27) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：23〕

後述の参考例 17 で合成されたヒト GPR リガンド (1-26) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：24〕

後述の参考例18で合成されたヒトGPRリガンド(1-25)のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：25〕

後述の参考例19で合成されたヒトGPRリガンド(1-24)のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：26〕

配列番号：20で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：27〕

配列番号：21で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：28〕

配列番号：22で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：29〕

配列番号：23で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：30〕

配列番号：24で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：31〕

配列番号：25で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：32〕

配列番号：4で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：33〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：34〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：35〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側DNA配列を示す。

〔配列番号：36〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の 3' 下流側配列を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：37〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の 3' 下流側配列を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：38〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の 3' 下流側 DNA 配列を示す。

〔配列番号：39〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：40〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：41〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の配列を示す。

〔配列番号：42〕

GPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：43〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の 5' 上流側配列を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：44〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードする cDNA の 5' 上流側配列を得るのに使用した合成 DNA を示す。

〔配列番号：45〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードする c

DNAの5' 上流側DNA配列を示す。

〔配列番号：46〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの5' 上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：47〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの5' 上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：48〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの5' 上流側DNA配列を示す。

〔配列番号：49〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの3' 下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：50〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの3' 下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔0079〕

〔配列番号：51〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの3' 下流側DNA配列を示す。

〔配列番号：52〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：53〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：54〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白をコードするc
DNAの配列を示す。

〔配列番号：55〕

GPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログの前駆体蛋白のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：56〕

配列番号：55から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：57〕

配列番号：55から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのブタホモログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：58〕

配列番号：56で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：59〕

配列番号：57で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：60〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：61〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：62〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAの配列を示す。

〔配列番号：63〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：64〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：65〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの5'上流側DNA配列を示す。

〔配列番号：66〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの3'下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：67〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの3'下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：68〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの3'下流側DNA配列を示す。

〔配列番号：69〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：70〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：71〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの配列を示す。

〔配列番号：72〕

GPR8に対するリガンドペプチドのラットホモログの前駆体蛋白のアミノ酸配
列を示す。

〔配列番号：73〕

配列番号：72から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのラットホモ
ログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：74〕

配列番号：72から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのラットホモ
ログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：75〕

配列番号：73で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：76〕

配列番号：74で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：77〕

ヒトGPR7発現CHO細胞のGPR7遺伝子発現量を測定するのにプローブとして用いた合成DNAの配列を示す。

〔配列番号：78〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：79〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白の一部をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：80〕

マウス精巣由来cDNAから増幅されたGPR8に対するリガンドペプチドのヒトホモログの前駆体蛋白の一部をコードするDNA配列を示す。

〔配列番号：81〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：82〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：83〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流側DNA配列を示す。

〔配列番号：84〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードするcDNAの3'下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：85〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの3'下流側配列を得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：86〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの3'下流側DNA配列を示す。

〔配列番号：87〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：88〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAを得るのに使用した合成DNAを示す。

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白をコードする
cDNAの配列を示す。

〔配列番号：90〕

GPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモログの前駆体蛋白のアミノ酸配
列を示す。

〔配列番号：91〕

配列番号：90から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモ
ログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：92〕

配列番号：90から推定されたGPR8に対するリガンドペプチドのマウスホモ
ログのアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：93〕

配列番号：91で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：94〕

配列番号：92で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：95〕

後述の参考例44で合成されたヒトGPR8リガンド(1-23)酸化体のアミ
ノ酸配列を示す。

〔配列番号：96〕

後述の参考例45で合成されたヒトGPR8リガンド（1-22）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：97〕

後述の参考例46で合成されたヒトGPR8リガンド（1-21）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：98〕

後述の参考例47で合成されたヒトGPR8リガンド（1-20）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：99〕

後述の参考例48で合成されたヒトGPR8リガンド（1-19）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：100〕

後述の参考例49で合成されたヒトGPR8リガンド（1-18）のアミノ酸配列を示す。

〔0080〕

〔配列番号：101〕

後述の参考例50で合成されたヒトGPR8リガンド（1-17）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：102〕

後述の参考例51で合成されたヒトGPR8リガンド（1-16）のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：103〕

後述の参考例54で合成されたブタGPR8リガンド（1-23）酸化体のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：104〕

後述の参考例55で合成されたラットあるいはマウスGPR8リガンド（1-23）酸化体のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：105〕

後述の参考例 12 で合成された Fmoc 化ヒト GPR8 リガンド (1-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：106〕

後述の参考例 56 で合成された [N^α-Acetyl-Trp¹] -ヒト GPR8 リガンド (1-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：107〕

後述の参考例 57 で合成されたヒト GPR8 リガンド (2-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：108〕

後述の参考例 58 で合成されたヒト GPR8 リガンド (4-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：109〕

後述の参考例 59 で合成されたヒト GPR8 リガンド (9-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：110〕

後述の参考例 60 で合成されたヒト GPR8 リガンド (15-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：111〕

後述の参考例 61 で合成された [N-Acetyl-Tyr²] -ヒト GPR8 リガンド (2-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：112〕

後述の参考例 62 で合成された [D-Trp¹] -ヒト GPR8 リガンド (1-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：113〕

後述の参考例 63 で合成された [N-3-Indolepropanoyl-Tyr²] -ヒト GPR8 リガンド (2-23) のアミノ酸配列を示す。

〔配列番号：114〕

配列番号：96 で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：115〕

配列番号：97で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：116〕

配列番号：98で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：117〕

配列番号：99で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：118〕

配列番号：100で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：119〕

配列番号：101で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：120〕

配列番号：102で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：121〕

配列番号：107で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：122〕

配列番号：108で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：123〕

配列番号：109で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：124〕

配列番号：110で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：125〕

配列番号：6で表されるアミノ酸配列をコードする塩基配列を示す。

〔配列番号：126〕

本発明のラット由来新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質TGR26の
アミノ酸配列を示す。

〔配列番号：127〕

本発明のラット由来新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質TGR26を
コードするcDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：128〕

以下の参考例67におけるPCR反応で使用したプライマー1の塩基配列を示す

【配列番号：129】

以下の参考例67におけるPCR反応で使用したプライマー2の塩基配列を示す。

【配列番号：130】

以下の参考例68におけるTGR26発現CHO細胞のTGR26レセプター遺伝子発現量を測定するのに使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：131】

以下の参考例68におけるTGR26発現CHO細胞のTGR26レセプター遺伝子発現量を測定するのに使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：132】

以下の参考例75におけるPCR反応で使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：133】

以下の参考例75におけるPCR反応で使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：134】

以下の参考例75で得られたマウスTGR26をコードするDNAの5'上流端部分の塩基配列を示す。

【配列番号：135】

以下の参考例24におけるPCR反応で使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：136】

以下の参考例24におけるPCR反応で使用したプライマーの塩基配列を示す。

【配列番号：137】

以下の参考例24で得られたマウスTGR26をコードするcDNAの塩基配列を示す。

【配列番号：138】

本発明のマウス由来新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質TGR26のアミノ酸配列を示す。

【配列番号：139】

本発明のマウス由来新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質TGR26を

コードするcDNAの塩基配列を示す。

〔配列番号：140〕

以下の参考例68におけるTGR26発現CHO細胞のTGR26レセプター遺伝子発現量を測定するのに使用したプローブの塩基配列を示す。

〔配列番号：141〕

ヒトGPR7をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：142〕

ヒトGPR7をコードするcDNAのスクリーニングに使用した合成DNAを示す。

〔配列番号：143〕

5'側に制限酵素C1a Iの認識する塩基配列が付加され、また3'側に制限酵素Spe Iの認識する塩基配列が付加されたヒトGPR7蛋白質cDNAの全塩基配列を示す。

〔配列番号：144〕

ヒトGPR7の全アミノ酸配列を示す。

〔配列番号：145〕

標準ヒトGPR7 DNAを増幅するのにプライマーとして使用したDNA塩基配列を示す。

〔配列番号：146〕

標準ヒトGPR7 DNAを増幅するのにプライマーとして使用したDNA塩基配列を示す。

〔配列番号：147〕

ヒトGPR7発現CHO細胞のGPR7遺伝子発現量を測定するのにプライマーとして用いた合成DNAの配列を示す。

〔配列番号：148〕

ヒトGPR7発現CHO細胞のGPR7遺伝子発現量を測定するのにプライマーとして用いた合成DNAの配列を示す。

〔0081〕

後述の参考例3で得られた形質転換体、*Escherichia coli* DH5 α /pAKKO-GPR8は、大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85、財団法人発酵研究所（IFO）に2001年2月27日から寄託番号IFO 16564として、茨城県つくば市東1-1-1 中央第6、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに2001年4月11日から受託番号FERM BP-7540として、それぞれ寄託されている。

後述の参考例28で得られた形質転換体、*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Human GPR8 Ligand Precursorは、大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85、財団法人発酵研究所（IFO）に2001年2月27日から寄託番号IFO 16568として、茨城県つくば市東1-1-1 中央第6、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに2001年4月11日から受託番号FERM BP-7544として、それぞれ寄託されている。

後述の参考例32で得られた形質転換体、*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Porcine GPR8 Ligand Precursorは、大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85、財団法人発酵研究所（IFO）に2001年2月27日から寄託番号IFO 16565として、茨城県つくば市東1-1-1 中央第6、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに2001年4月11日から受託番号FERM BP-7541として、それぞれ寄託されている。

後述の参考例36で得られた形質転換体、*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Rat GPR8 Ligand Precursorは、大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85、財団法人発酵研究所（IFO）に2001年2月27日から寄託番号IFO 16567、茨城県つくば市東1-1-1 中央第6、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに2001年4月11日から受託番号FERM BP-7543として、それぞれ寄託されている。

後述の参考例41で得られた形質転換体、*Escherichia coli*

TOP10/pCR2.1-TOPO Mouse GPR8 Ligand Precursorは、大阪府大阪市淀川区十三本町2-17-85、財団法人発酵研究所（IFO）に2001年2月27日から寄託番号IFO 16566として、茨城県つくば市東1-1-1 中央第6、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに2001年4月11日から受託番号FERM BP-7542として、それぞれ寄託されている。

後述の参考例67で得られた形質転換体 大腸菌（*Escherichia coli*）DH10B/pAK-rGPR7は、2000年10月31日から大阪府大阪市淀川区十三本町2丁目17番85号（郵便番号532-8686）、財団法人・発酵研究所（IFO）に受託番号IFO 16496として、2000年11月13日から茨城県つくば市東1丁目1番地1 中央第6（郵便番号305-8566）、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センター（旧通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所（NIBH））に受託番号FERM BP-7365としてそれぞれ寄託されている。

後述の参考例24で得られた形質転換体 大腸菌（*Escherichia coli*）TOP10/pCR2.1-TOPO Mouse GPR7は、2001年9月20日から大阪府大阪市淀川区十三本町2丁目17番85号（郵便番号532-8686）、財団法人・発酵研究所（IFO）に受託番号IFO 16704として、2001年10月15日から茨城県つくば市東1丁目1番地1 中央第6（郵便番号305-8566）、独立行政法人産業技術総合研究所 特許生物寄託センターに受託番号FERM BP-7775としてそれぞれ寄託されている。

【0082】

【参考例】

以下に参考例および実施例を示して、本発明をより詳細に説明するが、これらは本発明の範囲を限定するものではない。

【0083】

参考例1 ヒト脳由来cDNAを用いたPCR法によるヒトGPR8 cDNAの増幅

ヒト脳由来poly(A)⁺RNA(クローンテック)を鋳型として、ランダムプライマーを用いて逆転写反応を行なった。逆転写は、タカラRNA PCR ver 2.1キット試薬を使用した。次にこの逆転写生成物を鋳型として用い、配列番号:1および配列番号:2で表される合成プライマーを用いてPCR法による増幅を行なった。合成プライマーは受容体蛋白に翻訳される領域の遺伝子が増幅されるように構築したが、その際に遺伝子の5'側に制限酵素C1aIの認識する塩基配列が付加され、3'側に制限酵素SpeIの認識する塩基配列が付加されるように、5'側および3'側にそれぞれの制限酵素の認識配列を付加した。反応液の組成は、cDNA鋳型5 μ l、合成DNAプライマー各0.4 μ M、0.8mM dNTPs、pfuポリメラーゼ(ストラタジーン)0.5 μ lおよび酵素に付属のバッファーで、総反応量は50 μ lとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー(PE Biosystems)を用い、94 $^{\circ}$ C \cdot 60秒の加熱の後、94 $^{\circ}$ C \cdot 60秒、65 $^{\circ}$ C \cdot 60秒、72 $^{\circ}$ C \cdot 150秒のサイクルを35回繰り返した。増幅産物の確認は、0.8%アガロースゲル電気泳動の後、エチジウムブロマイド染色によって行なった。

【0084】

参考例2 PCR産物のプラスミドベクターへのサブクローニングおよび挿入cDNA部分の塩基配列の解読による増幅cDNA配列の確認

参考例1で行なったPCR反応液を0.8%の低融点アガロースゲル電気泳動により分離し、バンドの部分をかみそりで切り出した後、細片化、フェノール抽出、フェノール・クロロホルム抽出、エタノール沈殿の操作を行なってDNAを回収した。PCR-ScriptTMAmp SK(+)クローニングキット(ストラタジーン)の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクターpCR-Script Amp SK(+)へサブクローニングした。これをエシェリヒア コリ(Escherichia coli)DH5 α competent cell(東洋紡)に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体E. coli DH5 α /GPR8を得た。個々のクローンをアンピシリンを含む

LB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調製した。調製したDNAの一部に対して制限酵素Cla IおよびSpe Iによる切断を行ない、挿入されている受容体cDNA断片の大きさを確認した。塩基配列の決定のための反応はDye Deoxy Terminator Cycle Sequence Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読した(配列番号: 3)。ヒトGPR8受容体蛋白質cDNAの全塩基配列が配列番号: 3に、およびそれから翻訳されるヒトGPR8受容体蛋白質の全アミノ酸配列が配列番号: 4に示されている。

【0085】

参考例3 GPR8発現CHO細胞の作製

参考例2で配列が確認されたヒト脳由来のGPR8の全長アミノ酸配列をコードし5'側にCla I認識配列を付加し、また3'側にSpe I認識配列を付加した遺伝子が導入されたプラスミドによって形質転換されたE. coliのクローンからPlasmid Midi Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調製し、これを制限酵素Cla IおよびSpe Iで消化してインサートDNAを切り出した。インサートDNAは電気泳動後、アガロースゲルからカミソリで切り出し、次に細片化、フェノール抽出、フェノール・クロロホルム抽出、エタノール沈殿の操作により回収された。このインサートDNAをCla IおよびSpe Iで切断した動物細胞発現用ベクタープラスミドpAKKO-111H (S. Hinuma et al., Biochim. Biophys. Acta, 1219巻、251-259頁、1994年、記載のpAKKO1.11Hと同一のベクタープラスミド)に加え、T4リガーゼ(宝酒造)を用いてライゲーションを行ない、蛋白発現用プラスミドpAKKO-GPR8を構築した。このプラスミドpAKKO-GPR8で形質転換した大腸菌をDH5 α /pAKKO-GPR8 (Escherichia coli DH5 α /pAKKO-GPR8)と命名した。

pAKKO-GPR8で形質転換したE. coli DH5 α (東洋紡)を培養後、Plasmid Midi Kit (キアゲン)を用いてpAKKO-G

PR8プラスミドDNAを調製した。これをCellPfect Transfection Kit (アマシャムファルマシアバイオテック) を用いて、添付のプロトコールに従ってCHO dhfr⁻細胞に導入した。4.5 μ gのDNAをリン酸カルシウムとの共沈懸濁液とし、24時間前に 5×10^5 または 1×10^6 個のCHO dhfr⁻細胞を播種した直径6cmシャーレに添加した。10%ウシ胎児血清を含むMEM α 培地で1日間培養した後、継代し、選択培地である10%透析ウシ胎児血清を含む核酸不含MEM α 培地で培養した。選択培地中に増殖してくるGPR8発現CHO細胞である形質転換細胞のコロニー47クローンを選択した。

【0086】

参考例4 全長ヒトGPR8蛋白質mRNAの発現量の高いCHO/GPR8細胞株の選択

参考例3で樹立されたCHO/GPR8細胞株47クローンの全長GPR8蛋白質mRNAの発現量をCytostar T Plate (アマシャムファルマシアバイオテック) を用い、添付のプロトコールに従って以下のように測定した。CHO/GPR8細胞株の各クローンをCytostar T Plateに1well当たり 2.5×10^4 個ずつ播種して24時間培養した後、10%ボルマリンによって細胞を固定した。各wellに0.25%Triton X-100を添加して細胞の透過性をあげた後、³⁵Sラベルした配列番号:5のriboprobeを加えてハイブリダイズさせた。20 μ g/mlのRNase Aを各wellに加えて遊離のriboprobeを消化し、プレートをよく洗浄した後、ハイブリダイズしたriboprobeの放射活性をTopcounterで測定した。放射活性の高い細胞株は、mRNA発現量が高い。mRNA発現量の高い3クローン(#17, 41および46)を以下に実験に用いたが、特にクローン番号17を用いた。

【0087】

参考例5 GPR8発現CHO細胞を用いた細胞内cAMP産生量の測定

参考例4で作製したCHO/GPR8細胞およびmock CHO細胞を24穴プレートに 5×10^4 cell/wellで播種し、48時間培養した。細胞

を0.2 mM 3-イソブチル-メチルキサンチンと0.05% BSAと20 mM HEPESを含むハンクスバッファー (pH 7.4) で洗浄した (以下、0.2 mM 3-イソブチル-メチルキサンチンと0.05% BSAと20 mM HEPESを含むハンクスバッファー (pH 7.4) を、反応用バッファーと呼ぶ)。その後0.5 mlの反応用バッファーを加えて30分間培養器で保温した。反応用バッファーを除き、新たに0.25 mlの反応用バッファーを細胞に加えた後、試料と2 μ M フォルスコリンを含む0.25 mlの反応用バッファーを細胞に加え、37℃で24分間反応させた。100 μ lの20%過塩素酸を加えて反応を停止させ、次に氷上で1時間置くことにより細胞内cAMPを抽出した。抽出液中のcAMP量は、cAMP EIAキット (アマシャムファルマシアバイオテク) を用いて測定した。

【0088】

参考例6 GPR8発現CHO細胞の膜画分を用いたGTP γ S結合活性の測定
GPR8発現CHO細胞膜画分に対する [35 S] -Guanosine 5' - (γ -thio) triphosphateの結合促進活性を以下の方法により測定した。最初に膜画分の調整法を記載する。1 \times 10⁸個のCHO/GPR8細胞に10 mlのホモジネートバッファー (10 mM NaHCO₃, 5 mM EDTA, 0.5 mM PMSF, 1 μ g/ml pepstatin, 4 μ g/ml E64, 20 μ g/ml leupeptin) 添加し、ポリトロ (12,000 rpm、1分間) を用いて破碎した。細胞破碎液を遠心 (1,000 g, 15分間) して上清を得た。次にこの上清を超遠心分離 (Beckman type 30ローター、30,000 rpm、1時間) し、得られた沈殿物をGPR8発現CHO細胞膜画分とした。

GTP γ S結合活性の測定は以下の通りである。GPR8発現CHO細胞膜画分を膜希釈緩衝液 (50 mM トリス塩酸緩衝液 (pH 7.4), 5 mM MgCl₂, 150 mM NaCl, 1 μ M GDP) で希釈して、蛋白質濃度30 mg/mlのアッセイ用細胞膜画分溶液を調製した。アッセイ用膜画分溶液200 μ lに、51.5 nM濃度の [35 S] -Guanosine 5' - (γ -thio) triphosphate (NEN社) を2 μ lと試料を添加し、この

混合液を25℃で一時間保温した。混合液をフィルター濾過し、さらにフィルターを洗浄用バッファー（50 mM トリス塩酸緩衝液（pH 7.4）、5 mM $MgCl_2$ 、1 mM EDTA、0.1% BSA）1.5 ml で2回洗浄した後、フィルターの放射活性を液体シンチレーションカウンターで測定した。

【0089】

参考例7 プタ視床下部抽出物に含まれ、CHO/GPR8細胞株に対して特異的にcAMP産生抑制およびGTPγS結合促進を示す活性の検出

プタ視床下部抽出物の高速液体クロマトグラフィー（HPLC）フラクションを以下に述べる方法で調製した。東京芝浦臓器（株）より購入した、処理当日に屠殺して摘出後は氷冷保存したプタ視床下部500 g（30頭分）を細かく切断し、直ぐに沸騰した蒸留水2.0 lに投じて10分間煮沸した。煮沸後、直ちに氷冷し、120 mlの酢酸を加えて終濃度1.0 Mとし、ポリトロン（20,000 rpm、6分間）を用いて破碎した。破碎液を遠心（8,000 rpm、30分）して上清を取り、沈殿には1.0 M酢酸2.0 lを加えて再度ポリトロンによって破碎し、一晚攪拌した後、遠心（8,000 rpm、30分）して上清を得た。上清に2倍量の冷アセトンを4℃でゆっくり滴下した後、1回目の遠心によって得た上清については一晚攪拌し、2回目の遠心によって得た上清については4時間攪拌した。アセトンを加えた抽出液は遠心（8,000 rpm、30分）して沈殿を除き、得られた上清からエバポレーターによって減圧下にアセトンを溜去した。アセトンを除いた抽出液に等量のジエチルエーテルを加え、分液ロートを使って脂質を含むエーテル層を分離して水層を回収した。エーテル脱脂した抽出液はエバポレーターによって減圧下に濃縮してエーテルを完全に除去した。濃縮液をガラス繊維濾紙（アドバンテック、DP70（90 mmφ））で濾過し、濾液をガラス製カラム（30φ×240 mm）に充填したC18（ワイエムシー、YMC gel ODS-AM 120-S50）カラムに添加した。カラムを1.0 M酢酸400 mlで洗浄後、0.1%トリフルオロ酢酸を含む60%アセトニトリル500 mlで溶出した。溶出液を減圧下に濃縮して溶媒を溜去した後、濃縮液を凍結乾燥した。凍結乾燥品約0.5 gを30 mlの0.1%トリフルオロ酢酸を含む10%アセトニトリルに溶解し、10 mlずつをC18カ

ラム (トーソー、TSK gel ODS-80TS (21.5 ϕ x 300 mm)) を用いた 10% から 60% の 0.1% トリフルオロ酢酸を含むアセトニトリルの濃度勾配溶出法による HPLC にかけた。HPLC は 3 回行なった。溶出液は 60 分面に分取し、3 回分の溶出液をまとめた。各分面を減圧下に濃縮・乾固し、残渣を 0.5 ml のジメチルスルフォキシド (DMSO) で溶解した。

上記によって得られた HPLC フラクシヨンの DMSO 溶液を参考例 5 に示した方法によって CHO/GPR8 細胞に投与し、細胞内 cAMP 産生量の測定を行なった結果、分面番号 30 に顕著な cAMP 産生抑制活性が認められた。また同様な試料について GPR8 発現 CHO 細胞用いて GTP γ S 結合促進活性を調べたところ、やはり分面番号 30 付近に顕著な活性が確認された。これらの活性は他の受容体発現細胞では認められなかったことからブタ視床下部抽出物に GPR8 特異的なリガンド活性物質が存在することが示された。

【0090】

参考例 8 ブタ視床下部抽出物中の GPR8 発現 CHO 細胞に対して特異的に細胞内 cAMP 産生抑制活性を示す活性物質のプロナーゼによる失活

参考例 7 で GPR8 発現 CHO 細胞に対して細胞内 cAMP 産生抑制活性を示した HPLC 分面 30 を蛋白分解酵素であるプロナーゼ (Sigma, protease Type XIV (P5147)) で処理し、活性物質が蛋白性であるかを調べた。

上記視床下部抽出物 HPLC 分面 (#30) 2 μ l を 0.2 M 酢酸アンモニウム 200 μ l に加え、これにプロナーゼ 3 μ g を添加して 37°C で 2 時間インキュベートした後、沸騰水中で 10 分間加熱してプロナーゼを失活させた。これに BSA 0.05 mg および CHAPS 0.05 mg を含む蒸留水 2 ml を加えてから凍結乾燥した。プロナーゼそのものあるいは加熱および凍結乾燥の影響を調べるため、プロナーゼのみ、HPLC 分面のみおよびプロナーゼのみを加熱処理した後に HPLC 分面を加えたものについても同様に処理して凍結乾燥した。凍結乾燥した各試料を参考例 5 に示す方法によって GPR8 発現 CHO 細胞に添加して細胞内 cAMP 産生抑制活性を測定した。ブタ視床下部抽出物中の GPR8 発現 CHO 細胞に対する細胞内 cAMP 産生抑制活性を示す活性物質はプロ

ナーゼによって完全に失活したことからこの物質が蛋白もしくはペプチドであることが示された。

【0091】

参考例9 プタ視床下部からのGPR8発現CHO細胞膜画分に対して特異的にGTP γ S結合促進活性を示す活性物質の精製

GPR8に特異的なリガンド活性を示す物質をGPR8発現CHO細胞膜画分に対するGTP γ S結合促進活性を指標としてプタ視床下部から精製した代表例を以下に具体的に述べる。参考例7に述べた方法と全く同一の方法により、プタ視床下部500g(30頭分)を1.0M酢酸で抽出し、アセトン沈殿およびエーテル脱脂をした後、C18(ワイエムシー、YMC gel ODS-AM 120-S50)カラムに吸着させ、0.1%トリフルオロ酢酸を含む60%アセトニトリルで溶出した。溶出液を濃縮し、凍結乾燥した後、C18カラム(トソー、TSK gel ODS-80TS(21.5 ϕ x 300mm))を用いたHPLCによって活性分画を得た。活性は分画番号30に回収された。これを以下の方法によってさらに精製した。

この分画を10%アセトニトリルを含む10mMギ酸アンモニウム10mlに溶解し、陽イオン交換カラム(トソー、TSK gel SP-5PW(20mm ϕ x 150mm))に添加した後、10%アセトニトリルを含む10mMから2.0Mのギ酸アンモニウムの濃度勾配によってカラムを溶出した。活性はギ酸アンモニウム0.8M付近に回収された。活性分画を凍結乾燥し、0.1%トリフルオロ酢酸を含む10%アセトニトリル1.0mlに溶解し、CNカラム(野村化学、Develosil CN-UG-5(4.6mm ϕ x 250mm))に添加した後、0.1%トリフルオロ酢酸を含む21%から26%のアセトニトリルの濃度勾配によって溶出した。活性はアセトニトリル22.1%付近に出現した。活性分画を凍結乾燥し、0.1mlのDMSOで溶解し、さらに0.4mlの0.1%トリフルオロ酢酸を含む10%アセトニトリルを加えてODSカラム(和光純薬、Wakosil-II 3C18HG(2.0mm ϕ x 150mm))に添加した後、0.1%トリフルオロ酢酸を含む22.5%から32.5%のアセトニトリルの濃度勾配によって溶出した。活性はアセトニトリル26.5

%付近に単一ピークとして出現した(図1)。

【0092】

参考例10 プタ視床下部から精製されたGPR8発現CHO細胞膜画分に対して特異的にGTP γ S結合促進活性を示す活性物質のアミノ末端アミノ酸配列の解析およびGPR8リガンドのヒトおよびラットホモログペプチドの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されるEST配列

参考例9で精製されたGPR8発現CHO細胞膜画分に対して特異的にGTP γ S結合促進活性を示す活性物質のアミノ末端アミノ酸配列解析を行なった。本活性物質は参考例8に示すように蛋白またはペプチドであることが推定されていたので、活性ピークを含む溶出液を用いてパーキンエルマー社Proclise 494 Protein Sequencerによってアミノ末端アミノ酸配列分析を行なった。その結果、アミノ末端から17残基までに配列番号:6に示す配列が得られた。この配列はリガンドペプチドの一部であると考えられた。

【0093】

この配列に基づいて遺伝子データベースの検索を行なったところ、そのものもしくはその相補鎖がこのペプチドの前駆体蛋白の一部をコードしていると推定される幾つかのEST (Expressed Sequence Tag) 配列が見出された。それらのアクセッション番号、cDNAの由来、配列の長さおよび配列番号は次の通りである。AW007531 (anaplastic oligodendroglioma, 438 base, 配列番号:7)、AI500303 (anaplastic oligodendroglioma, 264 base, 配列番号:8)、AI990964 (colonic mucosa from patient of Crohn's disease, 424 base, 配列番号:9)、AA744804 (germinal center B cell, 375 base, 配列番号:10)、H31598 (PC12 cells, 260 base, 配列番号:11)。初めの4つはヒト由来であり、最後の1つはラット由来である。これらのESTのDNA配列はプタ視床下部より単離した活性ペプチドの配列に相当するアミノ酸配列をコードする領域では極めてよく一致してしており、また翻訳されたアミノ酸配列はプタ視床下部

より単離され明らかとなったペプチドの配列とは5残基目のThrがValであること以外はほぼ一致した。以上からこれらのESTはGPR8のリガンドペプチドのヒトおよびラットホモログの前駆体蛋白の一部をコードしているものと推定した。

【0094】

参考例11 GPR8リガンドペプチド前駆体の一部をコードするヒトcDNAの増幅と増幅cDNA配列の解読

参考例10に述べたGPR8リガンドペプチドの前駆体蛋白の一部をコードすると推定されたEST配列に基づいてプライマーを設計し、ヒト脳由来cDNAよりPCRによってGPR8リガンドペプチド前駆体の一部をコードするcDNAを増幅した。

ヒト脳由来poly(A)+RNA(クローンテック)を鋳型として、ランダムプライマーを用いて逆転写反応を行なった。逆転写反応には、RNase H活性を欠失させたMMLV由来の逆転写酵素であるReverTra Ace(東洋紡)を使用した。続いて参考例10に述べたEST配列に基づいて設計した配列番号:12および配列番号:13の合成DNAプライマーを用いてPCR法による増幅を行なった。反応液の組成は、cDNA鋳型2 μ l、合成DNAプライマー各0.5 μ M、1.6mM dNTPs、LA Taq(宝酒造)0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで、総反応量は20 μ lとした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー(PE Biosystems)を用い、96 $^{\circ}$ C・120秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・45秒のサイクルを4回、96 $^{\circ}$ C・30秒、70 $^{\circ}$ C・45秒のサイクルを4回、96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・45秒のサイクルを4回、96 $^{\circ}$ C・30秒、64 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・45秒のサイクルを5回、96 $^{\circ}$ C・30秒、60 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・45秒のサイクルを20回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。増幅産物の確認は、3%アガロースゲル電気泳動の後、エチジウムブロマイド染色によって行なった。

PCR反応液を3%の低融点アガロースゲル電気泳動により分離し、バンドの部分をかみそりで切り出した後、QIAquick Gel Extraction Kit(キアゲン)を用いてDNAを回収した。TOPO TAクローニ

ングキット（インビトロゲン）の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクターpCR2.1-TOPOへサブクローニングした。これを*Escherichia coli* TOP10（インビトロゲン）に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit（キアゲン）を用いてプラスミドDNAを調製した。塩基配列の決定のための反応はDye Deoxy Terminator Cycle Sequence Kit（PE Biosystems）を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：14に示すDNA配列を得た。このこの配列から翻訳されるGPR8リガンドペプチド前駆体蛋白の一部（配列番号：15）には予想どおりブタ視床下部より単離されて配列が明らかになった活性ペプチドに相当するペプチド配列が存在した。さらに、そのC末側には通常の生理活性ペプチドが切り出されと考えられるArg-Argの配列（Seidah, N. G. et al., Ann. N. Y. Acad. Sci., 839巻、9-24頁、1998年）が2ヶ所存在した。このことから、GPR8のリガンドペプチドのヒトホモログのアミノ酸配列は配列番号：16および17のいずれかもしくは両方であると推定された。

【0095】

参考例12 Fmoc化ヒトGPR8 ligand (1-23) : Fmoc-Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号：105) およびヒトGPR8 ligand (1-23) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号：16) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33 mmol/g) にFmoc-Leuを導入したFmoc-Leu-O-Cl

t resin (0.76 mmol/g) 0.25 mmolを出発原料とし、ペプチド合成機ABI 433Aを用いFmoc/DCC/HOBt法により、Fmoc-Gly, Fmoc-Met, Fmoc-Leu, Fmoc-Leu, Fmoc-Gly, Fmoc-Ala, Fmoc-Ala, Fmoc-Arg (Pbf), Fmoc-Gly, Fmoc-Val, Fmoc-Thr (Bu^t), Fmoc-His (Trt), Fmoc-Tyr (Bu^t), Fmoc-Arg (Pbf), Fmoc-Pro, Fmoc-Ser (Bu^t), Fmoc-Ala, Fmoc-Val, Fmoc-His (Trt), Fmoc-Lys (Boc), Fmoc-Tyr (Bu^t), Fmoc-Trp (Boc)の順に縮合を行い、Fmoc-Trp (Boc)-Tyr (Bu^t)-Lys (Boc)-His (Trt)-Val-Ala-Ser (Bu^t)-Pro-Arg (Pbf)-Tyr (Bu^t)-His (Trt)-Thr (Bu^t)-Val-Gly-Arg (Pbf)-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-O-Clt resin 830mgを得た。

この樹脂150mgにTFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) 5mlを加え、室温にて2時間振盪した後樹脂をろ去し、溶媒を濃縮後エーテルを加え、粗Fmoc-Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leuを沈殿として得た。これをYMC D-ODS-5-ST S-5 120Aカラム(20×150mm)を用いた分取HPLCで、A液:0.1% TFA-水、B液:0.1% TFA含有アセトニトリルによるA/B:72/28→52/48への直線型濃度勾配溶出(60分)を行い、目的物を含む分画を集め凍結乾燥し白色粉末9.7mgを得た。

【0096】

質量分析による(M+H)⁺ 2805.7 (計算値2805.4)

HPLC溶出時間 25.1分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)
 溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
 を用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)
 流速 1.0ml/分 得られたFmoc-Trp-Tyr-Lys-His-
 Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-
 Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-
 Leu 5mgに20% diethylamine/DMF 1mLを加え室
 温にて2時間攪拌した。溶媒を留去後YMC D-ODS-5-ST S-5
 120Aカラム (20x150mm) を用いた分取HPLCで、A液: 0.1%
 TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルによるA/B: 74/2
 6~64/36への直線型濃度勾配溶出 (60分) を行い、目的物を含む分画を
 集め凍結乾燥し白色粉末1.2mgを得た。

質量分析による (M+H)⁺ 2583.6 (計算値2583.4)

HPLC溶出時間 20.4分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)
 溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
 を用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)
 流速 1.0ml/分

【0097】

参考例13 ヒトGPR8 ligand (1-30): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyr-Leu-Trp (配列番号: 17) の製造

市販2-chlorotriethyl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Trp (Boc) を導入したFmoc-Trp (Boc)-O-Clt resin (0.64mmol/g) 0.25mmolを出発原料として参考例12と同様に配列順通りにアミノ酸を縮合、最後のT

rpを導入後樹脂から切り出す前にFmoc基を樹脂上で除去したのち、TFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) で処理し樹脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12と同様の方法で精製しTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyr-Leu-Trpを得た。

質量分析による $(M+H)^+$ 3543.4 (計算値3544.2)

HPLC溶出時間 21.5分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速 1.0ml/分

[0098]

参考例14 ヒトGPR8 ligand (1-29): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyr-Leu (配列番号: 20) の製造

参考例12の樹脂を用い参考例13と同様に配列順にアミノ酸を縮合したのち樹脂からの切り出しと精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyr-Leuを得る。

[0099]

参考例15 ヒトGPR8 ligand (1-28): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr

r-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyr (配列番号: 21) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Tyr (Bu^t) を導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro-Tyrを得る。

【0100】

参考例16 ヒトGPR8 ligand (1-27): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Pro (配列番号: 22) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Proを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser-Proを得る。

【0101】

参考例17 ヒトGPR8 ligand (1-26): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Ser (配列番号: 23) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Ser (Bu^t) を導入したのち参考例13と

同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg-Serを得る。

【0102】

参考例18 ヒトGPR8 ligand (1-25) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Arg (配列番号: 24) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Arg (Pbf) を導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg-Argを得る。

【0103】

参考例19 ヒトGPR8 ligand (1-24) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Arg (配列番号: 25) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Arg (Pbf) を導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行いTrp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu-Argを得る。

【0104】

参考例20 GPR8発現CHO細胞膜画分を用いて測定した23残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのGTPγS結合促進活性

参考例12で合成した23残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログ（以下、hGPR8L（1-23）と記載することがある）を種々の濃度で参考例6に記載した方法でGPR8発現CHO細胞膜画分に投与してGTP γ S結合促進活性を測定した。結果を図2に示した。明らかにhGPR8L（1-23）は濃度依存的にGPR8発現CHO細胞膜画分のGTP γ S結合を促進した。このことから配列番号：16の構造を有するペプチドがGPR8に対するリガンドであることが明らかとなった。

【0105】

参考例21 GPR8発現CHO細胞膜画分を用いて測定した30残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのGTP γ S結合促進活性

参考例13で合成した30残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログ（以下、hGPR8L（1-30）と記載することがある）を種々の濃度で参考例6に記載した方法でGPR8発現CHO細胞膜画分に投与してGTP γ S結合促進活性を測定した。結果を図3に示した。明らかにhGPR8L（1-30）は濃度依存的にGPR8発現CHO細胞膜画分のGTP γ S結合を促進した。このことから配列番号：17の構造を有するペプチドがGPR8に対するリガンドであることが明らかとなった。

【0106】

参考例22 GPR8発現CHO細胞を用いて測定した23残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログの細胞内cAMP産生抑制活性

参考例12で合成したhGPR8L（1-23）を種々の濃度で参考例5に記載した方法でGPR8発現CHO細胞に接触させて細胞内cAMP産生抑制活性を測定した。結果を図4に示した。明らかにhGPR8L（1-23）は濃度依存的にGPR8発現CHO細胞に対して細胞内cAMPの産生を抑制した。図中、cAMP合成抑制活性は、フォルスコリンを含む反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を100%として、hGPR8L（1-23）を加えたときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を%として表わした。

【0107】

参考例23 GPR8発現CHO細胞を用いて測定した30残基のGPR8リガ
ンドペプチドのヒトホモログの細胞内cAMP産生抑制活性

参考例13で合成したhGPR8L(1-30)を種々の濃度で参考例5に記
載した方法でGPR8発現CHO細胞に接触させて細胞内cAMP産生抑制活性
を測定した。結果を図5に示した。明らかにhGPR8L(1-30)は濃度依
存的にGPR8発現CHO細胞に対して細胞内cAMPの産生を抑制した。図5
中、cAMP合成抑制活性は、フォルスコリンを含む反応用バッファーを添加し
たときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAM
P量を減じた量を100%として、hGPR8L(1-30)を加えたときの細
胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じ
た量を%として表わした。

【0108】

参考例24 マウスTGR26をコードするcDNAのクローニング

マウス脳cDNAを鋳型として配列番号:135の合成プライマーと配列番号
:136の合成プライマーを用いたPCR法によりマウスTGR26 DNAの
増幅を行なった。

反応液の組成は、マウス脳cDNA 1 μ l、合成プライマー各0.2 μ M、
0.8mM dNTPs、Advantage cDNA Polymerase Mix (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで、
総反応量を20 μ lとした。サーマルサイクラー (Applied Biosy
stems社)を用い、96℃で2分の加熱した後、96℃で30秒、64℃で
30秒、72℃で1分の加熱サイクルを30回繰り返し、最後に72℃で10分
間保温した。PCR反応液中の約1100塩基長の増幅DNA断片を、TOPO
TA Cloning Kit (Invitrogen)のプロトコールに従
い、pCR2.1-TOPOへクローニングした。これをエシェリヒア・コリ (
Escherichia coli) TOP10 competent cel
l (Invitrogen)に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持
つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色

を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン)を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PEバイオシステムズ)を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号:137で表される塩基配列を得た。

配列番号:137で表される塩基配列をアミノ酸配列に翻訳したものをマウスTGR26アミノ酸配列とし、配列番号:138として示す。

配列番号:138をラット由来のTGR26のアミノ酸配列と比較したところ、96.0%のアミノ酸の一致が認められた。

配列番号:137で表される塩基配列を有するDNAを含むプラスミドで形質転換した大腸菌を、大腸菌 (*Escherichia coli*) TOP10/pCR2.1-TOPOマウスGPR7と命名した。

【0109】

参考例25 ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流端のクローニング

参考例11に記載したGPR8のリガンドペプチドのヒトホモログ(以下、ヒトGPR8リガンドと記載することがある)の前駆体蛋白の一部をコードするヒトcDNA配列(配列番号:14)を基に作製したプライマーでヒト視床下部cDNAを鋳型とした5' RACE PCRを行ない、ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を明らかにした。5' RACE

PCRクローニングは、ヒト視床下部Marathon-Ready cDNA (CLONTECH)を鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号:33の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号:34の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液はヒト視床下部cDNA 4 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号:33の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dN

TPs、LATaqポリメラーゼ（宝酒造）0.2 μ lおよび酵素に付属のGC（I）バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・240秒のサイクルを30回繰り返す、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したPCR反応液2 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号：34の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、LATaqポリメラーゼ（宝酒造）0.2 μ lおよび酵素に付属のGC（I）バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、72℃・180秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、70℃・180秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、68℃・180秒のサイクルを17回、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約1,200塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit（キアゲン）を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit（Invitrogen）のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ（*Escherichia coli*）TOP10 competent cell（Invitrogen）に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit（キアゲン）を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit（PE Biosystems）を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：35に示すDNA配列を得た。

[0110]

参考例26 ヒト脳cDNAの作製

ヒト脳cDNAは、MarathonTM cDNA Amplification Kit (CLONTECH) を用いてヒト脳poly A (+) RNA (CLONTECH) から作製した。RACE PCRに供されるcDNAは1st strand cDNA合成を除き、キットに添付のプロトコールに従って作製した。1st strand cDNAは、キットに添付の逆転写酵素AMVの代わりに逆転写酵素MMLV (-RNase H) (RevTraAce, 東洋紡) を用いて、1 μ gのヒト脳poly A (+) RNAから合成した。

【0111】

参考例27 ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流端のクローニング

参考例11に記載のヒトGPR8リガンド前駆体蛋白の一部をコードするヒトcDNA配列(配列番号: 14)を基に作製したプライマーでヒト脳cDNAを鋳型とした3' RACE PCRを行ない、ヒトGPR8リガンドをコードするcDNAの3' 下流塩基配列を明らかにした。3' RACE PCRクローニングは、ヒト脳cDNAを鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号: 36の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号: 37の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。

反応液はキットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したヒト脳cDNA 1 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号: 36の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、LATAqポリメラーゼ(宝酒造) 0.2 μ lおよび酵素に付属のGC(I)バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー(PE Biosystems)を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・240秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したPCR反応液1 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号: 37の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、LATAqポリメラーゼ(宝酒造) 0.2 μ lおよ

び酵素に付属のGC (I) バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、72℃・180秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、70℃・180秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、68℃・180秒のサイクルを17回、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約600塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。

これをエシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 38に示すDNA配列を得た。

【0112】

参考例28 ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAのクローニング

ヒト視床下部cDNAを鋳型として、ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を基に作製したプライマーとヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を基に作製したプライマーでPCR増幅を行なうことにより、ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAをクローニングした。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、ヒト視床下部Marathon-Ready cDN

A (CLONTECH) 1 μ l、配列番号：39の合成DNAプライマー0.5 μ M、配列番号：40の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、2.5 mM $MgCl_2$ 、5% DMSO、LATaqポリメラーゼ（宝酒造）0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・60秒の加熱の後、96℃・30秒、64℃・30秒、72℃・120秒のサイクルを35回、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約700塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit（キアゲン）を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit（Invitrogen）のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ（*Escherichia coli*）TOP10 competent cell（Invitrogen）に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit（キアゲン）を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit（PE Biosystems）を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：41に示すDNA配列を得た。

この配列（配列番号：41）はヒトGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするためこのDNAを含むプラスミドで形質転換した大腸菌をTOP10/pCR2.1-TOPOヒトGPR8リガンド前駆体（*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Human GPR8 Ligand Precursor）と命名した。

配列番号：41に示すDNA配列には、参考例11に記載したヒトGPR8リガンドペプチドのアミノ酸配列をコードするようなフレームが存在するが、その

5' 上流側には蛋白翻訳の開始コドンであると予想されるATGが存在しない。しかし、これまでに幾つかの蛋白でATG以外のコドンを開始コドンとすることが予想されている例が報告されている（ヒト塩基性線維芽細胞増殖因子（H. P rats et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 86巻、1836-1840頁、1989年、R. Z. FlorkiewiczおよびA. Sommer, Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 86巻、3978-3981頁、1989年）、マウスレチノイン酸受容体 $\beta 4$ （S. Nagpal et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89巻、2718頁、1992年）、ヒトホスホリボシルピロリン酸合成酵素（M. Taira et al., J. Biol. Chem., 265巻、16491-16497頁、1990年）、ショウジョウバエコリンアセチル転移酵素（H. Sugihara et al., J. Biol. Chem., 265巻、21714-21719頁、1990年））。

これらの例ではATGに代わりLeuをコードするCTGが開始コドンとして仮定されていることが多い。ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白においても同様であると考え、後述のブタあるいはラットのGPR8リガンドホモログの前駆体蛋白との比較からこれらの前駆体蛋白における開始コドンと予想されるATGにほぼ対応する位置に存在するCTGコドンを開始コドンと仮定し、前駆体蛋白の配列を推定した。この仮想的ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列を配列番号：42に示した。また、仮想的ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列およびDNA配列を図6に示した。

【0113】

参考例29 ブタ脊髄cDNAの作製

ブタ脊髄cDNAは、MarathonTM cDNA Amplification Kit (CLONTECH) を用いてブタ脊髄poly A (+) RNAから作製した。ブタ脊髄poly A (+) RNAは、ブタ脊髄から以下のように調製した。ブタ脊髄を、ISOGEN（日本ジーン）中にてポリトロンホモゲナイザーで完全に破砕し、この破砕溶液からISOGEN溶液を用いたtotal RNA調製法に従ってブタ脊髄total RNAを得た。次に、ブタ

脊髄total RNAからmRNA Purification Kit (Amersham Pharmacia Biotech) に添付の oligo dT cellulose カラムを用いたクロマトグラフィーを2回行なうことにより、7 μ g のブタ脊髄polyA (+) RNAを得た。RACE PCRに供したcDNAは1st strand cDNA合成を除き、キットに添付のプロトコールに従って作製した。1st strand cDNAは、キットに添付の逆転写酵素AMVの代わりに逆転写酵素MMLV (-RNAse H) (RevTra Ace, 東洋紡) を用いて、1 μ g のブタ脊髄polyA (+) RNAから合成した。

【0114】

参考例30 ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流端のクローニング

1回目の5' RACE PCRクローニングと、そのPCR増幅DNAの塩基配列を利用した2回目の5' RACE PCRクローニングにより、GPR8のリガンドペプチドのブタホモログ (以下、ブタGPR8リガンドと記載することがある) の前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を明らかにした。

1回目の5' RACE PCRクローニングは、上記ブタ脊髄cDNAを鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号: 43の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号: 44の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液はキットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したブタ脊髄cDNA 4 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号: 43の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、LATAqポリメラーゼ (宝酒造) 0.2 μ lおよび酵素に付属のGC (I) バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・180秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricin

e-EDTA Bufferで100倍希釈したPCR反応液1 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号：44の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTech) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・60秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを3回、次に96 $^{\circ}$ C・30秒、70 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを3回、次に96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを4回、次に96 $^{\circ}$ C・30秒、64 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを15回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約300塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコルに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10F' competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：45に示すDNA配列を得た。

2回目の5' RACE PCRクローニングは、ブタ脊髄cDNAを鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号：46の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号：47の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、キット

に添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したブタ脊髄cDNA 1 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号:46の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・60秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを5回、次に96 $^{\circ}$ C・30秒、70 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを5回、次に96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを20回繰り返す、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで100倍希釈したPCR反応液1 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号:47の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・60秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを31回繰り返す、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。増幅したDNAを2.0%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約200塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコルに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (Escherichia coli) TOP10F⁺ competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBig Dye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない

、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：48に示すDNA配列を得た。

【0115】

参考例31 ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流端のクローニング

ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流端の塩基配列を基に作製したプライマーを用いた3' RACE PCRクローニングにより、ブタGPR8リガンドペプチドの前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を明らかにした。3' RACE PCRクローニングは、ブタ脊髄cDNAを鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号：49の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号：50の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したブタ脊髄cDNA 1 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号：49の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を使い、96℃・60秒の加熱の後、96℃・30秒、72℃・120秒のサイクルを5回、次に96℃・30秒、70℃・120秒のサイクルを5回、次に96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを20回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで100倍希釈したPCR反応液1 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号：50の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を使い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを31回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを2.0%のアガロースゲル電気泳動

により分離した後、約650塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10.F' competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-gal、IPTGを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 51に示すDNA配列を得た。

【0116】

参考例32 ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAのクローニング

ブタ脊髄cDNAを鋳型として、ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を基に作製したプライマーとブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を基に作製したプライマーでPCR増幅を行なうことにより、ブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAをクローニングした。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したブタ脊髄cDNA1 μ l、配列番号: 52の合成DNAプライマー0.5 μ M、配列番号: 53の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・60秒の加熱の後、

96℃・30秒、72℃・75秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、70℃・75秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、68℃・75秒のサイクルを4回、次に96℃・30秒、64℃・30秒、72℃・45秒のサイクルを5回、次に96℃・30秒、60℃・30秒、72℃・45秒のサイクルを20回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約600塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 54に示すDNA配列を得た。この配列 (配列番号: 54) はブタGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするためこのDNAを含むプラスミドで形質転換した大腸菌をTOP10/pCR2.1-TOPOブタGPR8リガンド前駆体 (*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Porcine GPR8 Ligand Precursor) と命名した。

配列番号: 54のDNA配列がコードするブタGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列を配列番号: 55に示した。この前駆体蛋白のアミノ酸配列には参考例10に記載のGPR8発現細胞膜面分に対するGTP γ S結合活性を指標にブタ視床下部より単離されたGPR8リガンドペプチドのアミノ酸配列分析によって明らかにされたアミノ末端から17残基までの配列が存在した。さらにその

配列のカルボキシ末端側にはGPR8リガンドペプチドのヒトホモログ前駆体蛋白の場合と同様に、通常の生理活性ペプチドが切り出されると考えられるArg-Argの配列 (Seidah, N. G. et al., Ann. N. Y. Acad. Sci., 839巻、9-24頁、1998年) が2ヶ所存在した。このことから、GPR8リガンドペプチドのブタホモログのアミノ酸配列は配列番号: 56および57のいずれかもしくは両方であると推定された。ブタGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列およびDNA配列を図7に示した。

【0117】

参考例33 ラットGPR8リガンド前駆体蛋白の一部をコードするcDNA断片のクローニング

参考例10に記載したように、GPR8発現細胞膜画分に対するGTPγS結合活性を指標にブタ視床下部から精製したペプチドのアミノ末端から17アミノ酸配列 (配列番号: 6) に基づいてデータベース検索を行なったところ、配列番号: 11の塩基配列に合致するラットEST塩基配列 (アクセッション番号: H31598) が見出された。このDNA配列は15アミノ酸の配列がブタ視床下部から精製したペプチドのアミノ酸配列 (配列番号: 6) と同一となる翻訳枠を持っていた。このH31598は、ラットPC12細胞から作製したcDNAライブラリー由来のEST配列であり、未確定な7塩基を含む260塩基からなる。このH31598はGPR8リガンドのラットホモログペプチド (以下、ラットGPR8リガンドと記載することがある) の前駆体蛋白の一部をコードしていると推定されたのでその正確な塩基配列を決定するため、H31598の5'塩基配列と3'塩基配列を基に作製したそれぞれのプライマーでラット脳Marathon-Ready cDNA (CLONTECH) を鋳型としたPCRクローニングを行なった。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。ラット脳Marathon cDNA (CLONTECH) 2μl、配列番号: 60の合成DNAプライマー0.5μM、配列番号: 61の合成DNAプライマー0.5μM、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.2μlおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20μlとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、

96℃・60秒の加熱の後、次に96℃・30秒、60℃・30秒、72℃・60秒のサイクルを35回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを4.0%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約250塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒアコリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 62に示すDNA配列を得た。PCRクローニングしたDNAの塩基配列 (配列番号: 62) とH31598の塩基配列との比較により、1塩基欠失の読み誤りがH31598の塩基配列にあることが明らかになった。

【0118】

参考例34 ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流端のクローニング

5' RACE PCRクローニングによりラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流塩基配列を明らかにした。5' RACE PCRクローニングは、ラット脳Marathon-Ready cDNA (CLONTECH) を鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号: 63の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号: 64の合成プライマーでPCR反応を

行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液はラット脳Marathon cDNA 2 μ l、AP1プライマー 0.5 μ M、配列番号：63の合成DNAプライマー 0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、LATaqポリメラーゼ（宝酒造）0.2 μ lおよび酵素に付属のGC（I）バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・60秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで200倍希釈したPCR反応液2 μ l、AP2プライマー 0.5 μ M、配列番号：64の合成DNAプライマー 0.5 μ M、0.4 mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ（CLONTECH）0.2 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・60秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを31回、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約600塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit（キアゲン）を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit（Invitrogen）のプロトコールに従ってPCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ（*Escherichia coli*）TOP10 competent cell（Invitrogen）に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit（キアゲン）を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit（PE Biosystems）を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：65に示すDNA配列を得た。

【0119】

参考例35 ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流端のクローニング

ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流端の塩基配列を基に作製したプライマーおよびラットGPR8リガンド前駆体蛋白の一部をコードするcDNA断片配列を基に作製したプライマーを用いた3' RACE

PCRクローニングにより、ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を明らかにした。3' RACE PCRクローニングは、ラット脳Marathon-Ready cDNA (CLONTECH) を鋳型としてキットに添付のAP1プライマーと配列番号: 66の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のAP2プライマーと配列番号: 67の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、ラット脳Marathon-Ready cDNA 2 μ l、AP1プライマー0.5 μ M、配列番号: 66の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・60秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを30回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで200倍希釈したPCR反応液2 μ l、AP2プライマー0.5 μ M、配列番号: 67の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・60秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・180秒のサイクルを30回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。

増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約600塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel

Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシエリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：68に示すDNA配列を得た。

【0120】

参考例36 ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAのクローニング

ラット脳cDNAを鋳型として、ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を基にしたプライマーとラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を基にしたプライマーでPCR増幅を行なうことにより、ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAをクローニングした。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、ラット脳Marathon-Ready cDNA 1 μ l、配列番号：69の合成DNAプライマー0.5 μ M、配列番号：70の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、Advantage 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・60秒の加熱の後、96℃・30秒、60℃・30秒、72℃・60秒のサイクルを35回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.2%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約750

塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 71に示すDNA配列を得た。この配列(配列番号: 7.1)は、ラットGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするためこのDNAを含むプラスミドで形質転換した大腸菌をTOP10/pCR2.1-TOPOラットGPR8リガンド前駆体 (*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Rat GPR8 Ligand Precursor) と命名した。

配列番号: 71のDNA配列がコードするラットGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列を配列番号: 72に示した。この前駆体蛋白のアミノ酸配列には参考例10に記載のGPR8発現細胞膜面分に対するGTP γ S結合活性を指標にブタ視床下部より単離されたGPR8リガンドペプチドのアミノ酸配列分析によって明らかにされたアミノ末端から17残基までの配列と5残基目および17残基目のアミノ酸のみが異なる類似した配列が存在した。さらにその配列のカルボキシ末端側にはGPR8リガンドペプチドのヒトあるいはブタホモログ前駆体蛋白の場合と同様に、通常の生理活性ペプチドが切り出されると考えられるArg-Argの配列 (Seidah, N. G. et al., Ann. N. Y. Acad. Sci., 839巻, 9-24頁, 1998年) が2ヶ所存在した。こ

これらのことから、GPR8リガンドペプチドのラットホモログのアミノ酸配列は配列番号：73および74のいずれかもしくは両方であると推定された。ラットGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列およびDNA配列を図8に示した。

【0121】

参考例37 マウスGPR8リガンド前駆体蛋白の一部をコードするcDNA断片のクローニング

GPR8リガンドペプチドのマウスホモログ（以下、マウスGPR8リガンドと記載することがある）の前駆体蛋白を取得するため、マウス精巣cDNAを鋳型として、PCR増幅を行ない、増幅DNAの塩基配列を決定した。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。マウス精巣cDNA（CLONTECH）1 μ l、配列番号：78の合成DNAプライマー0.5 μ M、配列番号：79の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.4mM dNTPs、LATAaqポリメラーゼ（宝酒造）0.2 μ lおよび酵素に付属のGC（I）バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー（PE Biosystems）を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを10回繰り返し、次に96℃・30秒、64℃・30秒、72℃・120秒のサイクルを25回繰り返し、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約350塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit（キアゲン）を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit（Invitrogen）のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒアコリ（*Escherichia coli*）TOP10 competent cell（Invitrogen）に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit（キアゲン）を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator

Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読した(配列番号: 80)。

【0122】

参考例38 マウス脳cDNAの作製

マウス脳cDNAは、SMARTTM RACE cDNA Amplification Kit (CLONTECH) を用いてマウス脳poly A (+) RNA (CLONTECH) から、キットに添付のプロトコールに従って作製した。合成した1st strand cDNA溶液を、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで10倍に希釈し、この溶液をRACE-PCR反応に供した。

【0123】

参考例39 マウスGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5'上流端のクローニング

5' RACE PCRクローニングにより、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を明らかにした。5' RACE PCRクローニングは、マウス脳cDNAを鋳型としてSMARTTM RACE cDNA Amplification Kitに添付のUniversal Primer Mixと配列番号: 81の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のNested Universal Primerと配列番号: 82の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液はマウス脳cDNA 1 μ l、Universal Primer Mix 2 μ l、配列番号: 81の合成DNAプライマー0.2 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA

Bufferで50倍希釈したPCR反応液0.5 μ l、Nested Universal Primer 0.5 μ M、配列番号：82の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、60℃・30秒、72℃・120秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約300塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってPCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシエリヒア コリ (*Escherichia coli*) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号：83に示すDNA配列を得た。

【0124】

参考例40 マウスGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3'下流端のクローニング

3' RACE PCRクローニングにより、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を明らかにした。3' RACE PCR クローニングは、マウス脳cDNAを鋳型としてSMARTTM RACE cDNA Amplification Kitに添付のUniversa

1 Primer Mixと配列番号：84の合成プライマーでPCR反応を行ない、次にこのPCR反応液を鋳型としてキットに添付のNested Universal Primerと配列番号：85の合成プライマーでPCR反応を行なうことにより達成された。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、マウス脳cDNA 1 μ l、Universal Primer Mix 2 μ l、配列番号：84の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・120秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、68 $^{\circ}$ C・120秒のサイクルを30回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したPCR反応液0.5 μ l、Nested Universal Primer 0.5 μ M、配列番号：85の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96 $^{\circ}$ C・120秒の加熱の後、96 $^{\circ}$ C・30秒、64 $^{\circ}$ C・30秒、72 $^{\circ}$ C・120秒のサイクルを30回繰り返し、最後に72 $^{\circ}$ Cで10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約700塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコルに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (Escherichia coli) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミ

ドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 86に示すDNA配列を得た。

【0125】

参考例41 マウスGPR8リガンド前駆体蛋白質をコードするcDNAのクローニング

マウス脳cDNAを鋳型として、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白質をコードするcDNAの5' 上流塩基配列を基にしたプライマーとマウスGPR8リガンド前駆体蛋白質をコードするcDNAの3' 下流塩基配列を基にしたプライマーでPCR増幅を行なうことにより、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白質をコードするcDNAをクローニングした。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液は、マウス脳cDNA 0.5 μ l、配列番号: 87の合成DNAプライマー 0.5 μ M、配列番号: 88の合成DNAプライマー 0.5 μ M、1.6 mM dNTPs、LATAqポリメラーゼ (宝酒造) 0.2 μ lおよび酵素に付属のGC (I) バッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PE Biosystems) を用い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、64℃・30秒、72℃・120秒のサイクルを40回繰り返して、最後に72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約700塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAを、TOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア コリ (Escherichia coli) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid K

it (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequencing Ready Reaction Kit (PE Biosystems) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 89に示すDNA配列を得た。この配列 (配列番号: 89) は、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白をコードするため、このDNAを含むプラスミドで形質転換した大腸菌をTOP10/pCR2.1-TOPOマウスGPR8リガンド前駆体 (*Escherichia coli* TOP10/pCR2.1-TOPO Mouse GPR8 Ligand Precursor) と命名した。

配列番号: 89に示すDNA配列には、参考例10に記載のGPR8発現細胞膜面分に対するGTP γ S結合活性を指標にブタ視床下部より単離されたGPR8リガンドペプチドのアミノ酸配列分析によって明らかにされたアミノ末端から17残基までの配列と5残基目および17残基目のアミノ酸のみが異なる類似したアミノ酸配列をコードするようなフレームが存在する。しかし、ヒトGPR8リガンド前駆体の場合と同様に、その5'上流側には蛋白翻訳の開始コドンであると予想されるATGが存在しない。しかし、ヒトGPR8リガンド前駆体蛋白において推測されたように、ブタあるいはラットのGPR8リガンドホモログの前駆体蛋白との比較からこれらの前駆体蛋白における開始コドンと予想されるATGにほぼ対応する位置に存在するCTGコドンを開始コドンと仮定し、マウスGPR8リガンド前駆体蛋白の配列を推定した。この仮想的マウスGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列を配列番号: 90に示した。マウスGPR8リガンドのアミノ酸配列と予想される配列のカルボキシ末端側にはGPR8リガンドペプチドのヒト、ブタあるいはラットホモログ前駆体蛋白の場合と同様に、通常の生理活性ペプチドが切り出されると考えられるArg-Argの配列 (Seidah, N. G. et al., Ann. N. Y. Acad. Sci., 839巻, 9-24頁, 1998年) が2ヶ所存在した。これらのことから、GPR8リガンドペプチドのマウスホモログのアミノ酸配列は配列番号: 91および92のいずれかもしくは両方であると推定された。なお、配列番号: 91の23残基型マウスGPR8リガンドのアミノ酸配列は、23残基型ラットGPR8リガ

ドのアミノ酸配列（配列番号：73）と一致している。仮想的マウスGPR8リガンド前駆体蛋白のアミノ酸配列およびDNA配列を図9に示した。

【0126】

参考例42 ラクトパーオキシダーゼ法を用いた $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)および $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)の作製

DMSO 5 μ lに溶かしたhGPR8L(1-23)（配列番号：16で表されるアミノ酸配列からなるポリペプチド）1nmolを0.1M塩化ニッケル5 μ lと混合し、0.1M HEPES（pH7）に溶かした0.001%過酸化水素水10 μ l、0.1M HEPES（pH7）に溶かしたラクトパーオキシダーゼ（シグマ社）10 μ g/mlを10 μ lおよび $[^{125}\text{I}]$ NaI 37 MBq（NENライフサイエンスプロダクツ社）10 μ lを混合後、室温で60分反応し、以下の条件でHPLC分取した。

用いたカラムは、ODS-80TM（4.6mmx15cm）（トソー社）、溶出液Aとして10%アセトニトリル/0.1%TFA、溶出液Bとして60%アセトニトリル/0.1%TFAを用い、0-0（2min）、0-30（3min）、30-38（5min）、38-43（55min）%B/A+Bのグラディエント溶出法を行なった。流速は1mL/min、カラム温度は25℃、検出は220nmの吸光度を用いて行った。

hGPR8L(1-23)には、チロシン残基が2つ存在するので、ヨード化によって、 $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)および $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)が生成する。このHPLC条件では、hGPR8L(1-23)が24分、 $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)が30分、 $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)が32分付近に溶出した。

【0127】

参考例43 $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いた受容体結合実験

参考例42に記載したように作製した $[^{125}\text{I}]$ -標識hGPR8L(1-

23) および参考例6に記載した方法と同様にしてヒトGPR8発現CHO細胞から調製した細胞膜画分を用いて受容体結合実験を行なった。

ヒトGPR8発現CHO細胞から調製した細胞膜画分を、アッセイ用バッファ(2.5mM Tris-HCl, 5mM EDTA (エチレンジアミン四酢酸)、0.05%CHAPS (3-[(3-コラミドプロピル) ジメチルアンモニオ]-1-プロパン硫酸)、0.1%BSA (ウシ血清アルブミン)、0.25mM PMSF (フェニルメタンスルホニルフルオリド)、1μg/ml ペプスタチン、20μg/ml ロイペプチン、pH7.4)で各種濃度に希釈後、ポリプロピレン製試験管(Falcon 2053)に200μlずつ分注した。最大結合量(TB)を測定するために2μlのDMSOと7nMの $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)または $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)2μlを膜面分溶液に添加した。また、非特異的結合(NSB)を測定するために100μM hGPR8L(1-23)のDMSO溶液2μlと7nMの $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)または $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)2μlを膜面分溶液に添加した。25℃で60分間反応させた後、ポリエチレンイミン処理したワットマングラスフィルター(GF-F)を用いて反応液を吸引ろ過した。ろ過後、γカウンタを用いてろ紙上に残った放射活性を測定し、最大結合量から非特異的結合量を引いて特異的結合量(SB)を見積もった。 $[^{125}\text{I-Tyr}^2]$ -hGPR8L(1-23)を用いた場合に比べて $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いた方が、特異的結合量が2倍多かったので実際の結合実験には $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いた。膜画分の濃度を変化させると膜画分の濃度に依存した $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)の特異的な結合が認められた。また、膜画分濃度を5μg/mlに設定して阻害率(%)からhGPR8L(1-23)の50%阻害濃度(IC₅₀値)を算出したところ、IC₅₀値は0.25nMであった。図10に種々の濃度におけるhGPR8L(1-23)の結合阻害を示す。

[0128]

参考例44 ヒトGPR8 ligand(1-23)酸化体: Trp-Tyr

-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His
-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu
-Met (O) -Gly-Leu (配列番号: 95) の製造

参考例12の化合物0.45mgを50%酢酸水0.5mlに溶解後、0.3%過酸化水素水0.05mlを加え、室温にて8時間放置した。減圧濃縮後Sep Pakにより精製し、白色粉末0.443mgを得た。

質量分析による (M+H)⁺: 2599.2 (計算値2599.4)

HPLC溶出時間: 19.1分

溶出条件

カラム: Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液: A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速: 1.0ml/分

【0129】

参考例45 ヒトGPR8 ligand (1-22): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly (配列番号: 96) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Glyを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

【0130】

参考例46 ヒトGPR8 ligand (1-21): Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met (配列番号: 97) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Metを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

【0131】

参考例47 ヒトGPR8 ligand (1-20) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu (配列番号: 98) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Cltr resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Leuを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

質量分析による M^+ : 2282.8 (計算値2282.6).

HPLC溶出時間: 17.2分

溶出条件

カラム: Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液: A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速: 1.0ml/分

【0132】

参考例48 ヒトGPR8 ligand (1-19) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu (配列番号: 99) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Cltr resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Leuを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

質量分析による M^+ : 2169.6 (計算値2169.5)

HPLC溶出時間: 16.4分

溶出条件

カラム: Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液: A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速：1.0ml/分

【0133】

参考例49 ヒトGPR8 ligand (1-18) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly (配列番号：100) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Glyを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

質量分析による M^+ : 2056.8 (計算値2056.3)

HPLC溶出時間：14.2分

溶出条件

カラム：Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液：A液：0.1%TFA-水、B液：0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B：100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出(35分)

流速：1.0ml/分

【0134】

参考例50 ヒトGPR8 ligand (1-17) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala (配列番号：101) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Alaを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

【0135】

参考例51 ヒトGPR8 ligand (1-16) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala (配列番号：102) の製造

市販2-chlorotrityl resin (Clt resin, 1.33mmol/g) にFmoc-Alaを導入したのち参考例13と同様に配列

順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

【0136】

参考例52 ブタGPR8 ligand (1-23) : Trp-Tyr-Lys-His-Thr-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号: 56) の製造

市販2-chlorotriethyl resin (Clt resin, 1.33 mmol/g) にFmoc-Leuを導入したのち参考例13と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得た。

質量分析による (M+H)⁺: 2585.2 (計算値2585.4)

HPLC溶出時間: 20.2分

溶出条件

カラム: Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液: A液: 0.1% TFA-水、B液: 0.1% TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速: 1.0 ml/分

【0137】

参考例53 ラット/マウスGPR8 ligand (1-23) : Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ser-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leuの製造 (配列番号: 73および配列番号: 91)

参考例52と同様に配列順にアミノ酸の縮合と樹脂からの切り出し、精製を行ない目的物を得ることができる。

【0138】

参考例54 ブタGPR8 ligand (1-23) 酸化体: Trp-Tyr-Lys-His-Thr-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met(O)-Gly-Leu (配列番号: 103) の製造

参考例52の化合物を用い参考例44と同様に酸化して目的物を得た。

質量分析による $(M+H)^+$: 2601.3 (計算値2601.4)

HPLC溶出時間: 18.9分

溶出条件

カラム: Wakosil-II 5C18HG (4.6x100mm)

溶離液: A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B: 100/0~0/70へ直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速: 1.0ml/分

[0139]

参考例55 ラット/マウスGPR8 ligand (1-23) 酸化体: Trp
p-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr
r-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ser-Gly-Leu
u-Leu-Met (O)-Gly-Leu (配列番号: 104) の製造

参考例53の化合物を用い参考例44と同様に酸化して目的物を得ることができる。

[0140]

参考例56 $[N^{\alpha}$ -Acetyl-Trp¹]-ヒトGPR8 ligand
(1-23): Ac-Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser
r-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala
a-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号: 1
06) の製造

参考例12で調製した樹脂のFmoc基を除去、無水酢酸でアセチル化した後、
TFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) で処理し樹脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による $(M+H)^+$ 2626.12625.8 (計算値2627.12626.1)

HPLC溶出時間 21.4分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)
溶離液 A液:0.1%TFA-水、B液:0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B:100/0~30/70へ直線型濃度勾配溶出(35分)
流速 1.0ml/分

【0141】

参考例57 ヒトGPR8 ligand (2-23): Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号:107) の製造

参考例12と同様に所望のアミノ酸配列を樹脂に導入した。最後のTyrを導入後樹脂から切り出す前にFmoc基を樹脂上で除去したのち、TFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5)で処理し樹脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による(M+H)⁺ 2397.1 (計算値2397.3)

HPLC溶出時間 19.9分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)
溶離液 A液:0.1%TFA-水、B液:0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B:100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出(35分)
流速 1.0ml/分

【0142】

参考例58 ヒトGPR8 ligand (4-23): His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号:108) の製造

参考例12と同様に所望のアミノ酸配列を樹脂に導入した。最後のHisを導入後樹脂から切り出す前にFmoc基を樹脂上で除去したのち、TFA/thi

oanisole/m-cresol/triisopropylsilane
/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) で処理し樹
脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12
と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による (M+H) + 2106.0 (計算値2106.1)

HPLC溶出時間 20.0分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速 1.0ml/分

【0143】

参考例59 ヒトGPR8 ligand (9-23): Arg-Tyr-His
s-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu
u-Met-Gly-Leu (配列番号: 109) の製造

参考例12と同様に所望のアミノ酸配列を樹脂に導入した。最後のArgを導
入後樹脂から切り出す前にFmoc基を樹脂上で除去したのち、TFA/thi
oanisole/m-cresol/triisopropylsilane
/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) で処理し樹
脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12
と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による (M+H) + 1615.0 (計算値1614.9)

HPLC溶出時間 20.2分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速 1.0ml/分

【0144】

参考例60 ヒトGPR8 ligand (15-23) : Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号: 110) の製造

参考例12と同様に所望のアミノ酸配列を樹脂に導入した。最後のArgを導入後樹脂から切り出す前にFmoc基を樹脂上で除去したのち、TFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol (85/5/5/2.5/2.5) で処理し樹脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による (M+H) + 901.4 (計算値901.5)

HPLC溶出時間 20.2分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出 (35分)

流速 1.0ml/分

[0145]

参考例61 [N-Acetyl-Tyr²]-ヒトGPR8 ligand (2-23) : Ac-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu (配列番号: 111) の製造

参考例57で調製した樹脂を無水酢酸でアセチル化した後、参考例57と同様に処理、精製し目的物を得た。

質量分析による (M+H) + 2439.3 (計算値2439.3)

HPLC溶出時間 20.2分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル

を用い、A/B:100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出(35分)

流速 1.0ml/分

【0146】

参考例62 [D-Trp¹]-ヒトGPR8 ligand(1-23):D-Trp-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu(配列番号:112)の製造

参考例12のFmoc-Trp(Boc)の代りにFmoc-D-Trp(Boc)を用い同様に目的物を得た。

質量分析による(M+H)⁺ 2583.4(計算値2583.4)

HPLC溶出時間 20.6分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液:0.1%TFA-水、B液:0.1%TFA含有アセトニトリルを用い、A/B:100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出(35分)

流速 1.0ml/分

【0147】

参考例63 [N-3-Indolepropanoyl-Tyr²]-ヒトGPR8 ligand(2-23):3-Indolepropanoyl-Tyr-Lys-His-Val-Ala-Ser-Pro-Arg-Tyr-His-Thr-Val-Gly-Arg-Ala-Ala-Gly-Leu-Leu-Met-Gly-Leu(配列番号:113)の製造

参考例12のFmoc-Trp(Boc)の代りに3-Indolepropanoic acidを用い所望の樹脂を得、これをTFA/thioanisole/m-cresol/triisopropylsilane/ethanedithiol(85/5/5/2.5/2.5)で処理し樹脂からの切り出しと側鎖保護基の除去を同時に行った。粗ペプチドを参考例12と同様の方法で精製し目的物を得た。

質量分析による(M+H)⁺ 2568.4(計算値2568.4)

HPLC溶出時間 21.7分

溶出条件

カラム Wakosil-II 5C18 HG (4.6x100mm)

溶離液 A液: 0.1%TFA-水、B液: 0.1%TFA含有アセトニトリル
を用い、A/B: 100/0~30/70へ 直線型濃度勾配溶出(35分)

流速 1.0ml/分

【0148】

参考例64 GPR8発現CHO細胞膜画分を用いて測定したGPR8リガンド
ペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体のGTP γ S結合促進活性

本明細書に合成法を記載したGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモ
ログの誘導体を種々の濃度で参考例6に記載した方法でGPR8発現CHO細胞
膜画分に投与してGTP γ S結合促進活性を測定した。測定した誘導体の配列番
号とGTP γ S結合促進活性を表1に示した。なお、活性は50%有効濃度(E
C₅₀値)で示した。また、参考例20および21に記載のhGPR8L(1-
23)およびhGPR8L(1-30)のGTP γ S結合促進活性も合わせて記
載した。

【0149】

参考例65 GPR8発現CHO細胞膜画分および [¹²⁵I-Tyr¹⁰]-
hGPR8L(1-23)を用いて測定したGPR8リガンドペプチドのヒトお
よびブタホモログの誘導体の受容体結合活性

本明細書に合成法を記載したGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモ
ログの誘導体の受容体結合活性を参考例43に記載した方法でGPR8発現CH
O細胞膜画分および [¹²⁵I-Tyr¹⁰]-hGPR8L(1-23)を用
いて測定した。測定した誘導体の配列番号と受容体結合活性を表1に示した。な
お、受容体結合活性は50%結合阻害濃度(IC₅₀値)で示した。また、参考
例43に記載のhGPR8L(1-23)の受容体結合活性も合わせて記載した

【0150】

【表1】

誘導体	配列番号	GTP γ S結合促進活性 (EC ₅₀ nM)	受容体結合活性 (IC ₅₀ nM)
hGPR8L (1-23)	16	1.6	0.25
hGPR8L (1-30)	17	0.57	0.025
[Met (0)]-hGPR8L (1-23)	95	1.4	0.31
Fmoc-hGPR8L (1-23)	105	240	0.20
Ac-hGPR8L (1-23)	106	14	2.4
[D-Trp']-hGPR8L (1-23)	112	7.1	0.82
hGPR8L (2-23)	107	3900	160
Ac-hGPR8L (2-23)	111	7200	420
IndPr-hGPR8L (2-23)	113	5.0	0.28
hGPR8L (4-23)	108	6700	1400
hGPR8L (9-23)	109	4200	1300
hGPR8L (1-20)	98	0.86	0.20
hGPR8L (1-19)	99	1000	100
hGPR8L (1-18)	100	>10000	2700
pGPR8L (1-23)	56	1.5	0.38
[Met (0)]-pGPR8L (1-23)	103	0.73	0.29

【0151】

参考例66 ラット全脳由来Gタンパク質共役型レセプタータンパク質をコードするcDNAのクローニングと塩基配列の決定

ラット全脳cDNA (CLONTECH) を鋳型とし、ヒトGPR8をコードするDNAの塩基配列を元に設計した2個のプライマー、プライマー1 (配列番号: 128) およびプライマー2 (配列番号: 129) を用いてPCR反応を行った。該反応における反応液の組成は、上記cDNAを10分の1量鋳型として使用し、Advantage-2 cDNA Polymerase Mix (CLONTECH) 1/50量、プライマー3 0.2 μ M、プライマー2 0

2 μ M、dNTPs 200 μ M、および酵素に添付のバッファーを加え、25 μ lの液量とした。PCR反応は、(i) 94℃・2分の後、(ii) 94℃・20秒、72℃・2分のサイクルを3回、(iii) 94℃・20秒、66℃・20秒、68℃・2分のサイクルを3回、(iv) 94℃・20秒、60℃・20秒、68℃・2分のサイクルを36回繰り返す、最後に68℃・7分の伸長反応を行った。該PCR反応後の反応産物を、TAクローニングキット (Invitrogen) の処方に従い、プラスミドベクターpCR2.1-TOPO (Invitrogen) へサブクローニングした。これを大腸菌DH5 α に導入し、アンピシリンを含むLB寒天培地中で、cDNAを持つクローンを選択した。個々のクローンの配列を解析した結果、新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質をコードするcDNAの塩基配列 (配列番号: 127) を得た。このDNAの塩基配列がコードするアミノ酸配列 (配列番号: 126) を含有する新規Gタンパク質共役型レセプタータンパク質をTGR26と命名した (本明細書中、ラットTGR26とも称する)。

配列番号: 126で表されるアミノ酸配列は、既知のヒトGタンパク質共役型レセプタータンパク質であるGPR7 [ゲノミクス (Genomics), 28巻, 84-91頁, 1995年] との間に84.8%の相同性を有していた。

TGR26をコードするDNAを挿入したプラスミドを有する前述した形質転換体から1クローンを選択し、アンピシリンを含むLB培地で振とう培養し、プラスミドを得た。これを制限酵素ClaIおよびSpeIで処理し、TGR26をコードするインサート部分を切り出した。同様に制限酵素ClaIおよびSpeIで処理したpAKKO-1.11HおよびLigation Express Kit (CLONTECH) を用いて連結し、大腸菌DH10Bにエレクトロポレーション法にて導入した。得られたクローンについては、有する発現細胞構築用プラスミドの構造を、制限酵素処理および配列解析で確認したうえ、大腸菌 (*Escherichia coli*) DH10B/pAK-rGPR7と命名した。

TGR26の疎水性プロット図を [図11] に示す。

[0152]

参考例67 TGR26発現CHO細胞の作製

参考例66に記載の発現プラスミドpAK-rGPR7で形質転換した*Escherichia coli* DH5 α (東洋紡)を培養後、Plasmid Midi Kit (キアゲン)を用いてpAK-rGPR7プラスミドDNAを調製した。これをCellPhect Transfection Kit (アマシャムファルマシアバイオテック)を用いて、添付のプロトコールに従ってCHO dhfr⁻細胞に導入した。5 μ gのDNAをリン酸カルシウムとの共沈懸濁液とし、48時間前に3 $\times 10^5$ 個のCHO dhfr⁻細胞を播種した直径6cmシャーレ2枚に添加した。10%ウシ胎児血清を含むMEM α 培地で1日間培養した後、継代し、選択培地である10%透析ウシ胎児血清を含む核酸不含MEM α 培地で培養した。選択培地中に増殖してくるTGR26発現CHO細胞である形質転換細胞のコロニー44クローンを選択した。

【0153】

参考例68 TaqMan PCR法を用いたTGR26発現CHO細胞株のTGR26発現量の定量

参考例67で得たTGR26発現CHO細胞株44クローンを、各25cm²フラスコに培養し、RNeasy Mini Kits (キアゲン)を用いてtotal RNAを調製した後、RNase-free DNase Set (キアゲン)を用いてDNase処理をした。得られたtotal RNA 4 μ gをランダムプライマー (宝酒造) 500pmolを含む溶液12 μ lとして70℃で10分間処理した後氷冷し、さらに1xFirst Strand Buffer、10 mM DTT、500 μ M dA/dC/dG/dTTPおよび200 units SUPERSCRIPT II (ギブコ)を添加し、混合液20 μ lを、30℃・10分、42℃・60分、51℃・30分、70℃・15分で処理することにより逆転写反応を行なった。得られたtotal RNA 5ng相当の逆転写産物、または後に述べるようにして作製した10から1 $\times 10^7$ コピーの標準cDNA、1xUniversal PCR Master Mix (PEバイオシステムズ)、配列番号:130で表されるプライマーおよび配列番号:131で表されるプライマー各100nM、および配列番号:

140 (Fam-tcctctgctg gacaccgtac cacctg
a-Tamra; 配列中、Famは6-carboxy-fluorescei
nを、Tamraは6-carboxy-tetramethyl-rhoda
mineを、それぞれ示す。)で表されるTaqManプローブ100nMを含
む反応混合液25 μ lについてABI PRISM 7700 Sequence
e Detector (PEバイオシステムズ)を用いてPCRを行なった。P
CRは、50℃・2分、95℃・10分で処理後、95℃・15秒、60℃・6
0秒のサイクルを40回繰り返すことにより行なった。

標準cDNAは、100pgのTGR26発現プラスミドDNA (pAK-r
GPR7)、配列番号:130で表されるプライマーおよび配列番号:131で
表されるプライマー各500nM、1xPCR Gold Buffer、2.
5mM MgCl₂、200 μ M dA/dC/dG/dTTPおよび20un
its AmpliTaq Gold (PEバイオシステムズ)を含む反応混合
液200 μ lを、GeneAmp PCR System 9700 (PEバイ
オシステムズ)を用いて、95℃・10分で処理後、95℃・10秒、63℃・
15秒、72℃・10秒のサイクルを40回繰り返す条件のPCRを行なって増
幅して調製した。QIAquick PCR Purification Kit
t (キアゲン)を用いて精製した合成cDNAの260nmの吸光度を測定して
濃度を算出し、さらに標準cDNAの正確なコピー数を算出した後、1mM
DTAを含む10mM Tris-HCl (pH8.0)溶液で希釈し、1x1
0⁸コピー/ μ lの濃度の標準cDNA溶液を調製した。また、TaqMan
PCR用プローブおよびプライマーはPrimer Express (Vers
ion1.0) (PEバイオシステムズ)により設計した。

発現量はABI PRISM 7700 SDSソフトウェアによって算出し
た。リポーターの蛍光強度が設定された値に達した瞬間のサイクル数を縦軸にと
り、標準cDNAの初期濃度の対数値を横軸にとり、標準曲線を作成した。標準
曲線より各逆転写産物の初期濃度を算出し、各クローンのtotal RNA当
たりのTGR26遺伝子発現量を求めた。その結果、TGR26発現CHO細胞
株クローン番号18および28が高い発現量を示すことがわかった。以後の実験

にはこれら2つのクローンの発現細胞を用いた。

【0154】

参考例69 TGR26発現CHO細胞を用いた細胞内cAMP産生量の測定

参考例68で作製したTGR26発現CHO細胞を24穴プレートに 5×10^4 cell/wellで播種し、48時間培養した。細胞を0.2mM 3-イソブチル-メチルキサンチン、0.05% BSA（ウシ血清アルブミン）および20mM HEPESを含むMEM α バッファー（pH7.4）で洗浄した。以下、0.2mM 3-イソブチル-メチルキサンチン、0.05% BSAおよび20mM HEPESを含むMEM α バッファー（pH7.4）を、反応用バッファーと呼ぶ。その後、0.5mlの反応用バッファーを加えて30分間培養器で保温した。反応用バッファーを除き、新たに0.25mlの反応用バッファーを細胞に加えた後、適当な濃度のDMSO溶液とした試料と2 μ Mフォルスコリンを含む0.25mlの反応用バッファーを細胞に加え、37℃で30分間反応させた。100 μ lの20%過塩素酸を加えて反応を停止させ、次に氷上で1時間置くことにより細胞内cAMPを抽出した。抽出液中のcAMP量は、cAMP EIAキット（アマシャムファルマシアバイオテック）を用いて測定した。

【0155】

参考例70 TGR26発現CHO細胞膜画分を用いて測定した23残基または30残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログの細胞内cAMP産生抑制活性

参考例で得られた23残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログ（以下、hGPR8L（1-23）と記載することがある）または参考例で得られた30残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログ（以下、hGPR8L（1-30）と記載することがある）を、種々の濃度で参考例69に記載した方法でTGR26発現CHO細胞膜画分に投与し、細胞内cAMP産生抑制活性を測定した。

結果を【図12】に示す。

これより明らかに、hGPR8L（1-23）およびhGPR8L（1-30）は濃度依存的にTGR26発現CHO細胞細胞内cAMPの産生を抑制した。

図中、cAMP合成抑制活性は、フォルスコリンを含む反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を100%として、hGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)を加えたときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を%として表わした。

これより、hGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)が、TGR26に対するリガンドであることが明らかとなった。

hGPR8L(1-23)のブタ、ラットおよびマウスのホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスのホモログを用いても、上記と同様に、濃度依存的にTGR26発現CHO細胞細胞内cAMPの産生抑制を確認できる。

【0156】

参考例71 TGR26発現CHO細胞の膜画分を用いたGTP γ S結合活性の測定

TGR26発現CHO細胞膜画分に対する $[^3\text{H}]\text{-guanosine } 5'-(\gamma\text{-thio})\text{triphosphate (GTP}\gamma\text{S)}$ の結合促進活性を以下の方法により測定した。

1) 膜画分の調整法

1×10^8 個のTGR26発現CHO細胞に10mlのホモジネートバッファー(10mM NaHCO_3 、5mM EDTA、0.5mM PMSF(フェニルメチルスルホニルフルオリド)、 $1 \mu\text{g/ml}$ ペプスタチン、 $4 \mu\text{g/ml}$ E-64、 $20 \mu\text{g/ml}$ ロイペプチン)を添加し、ポリトロン(12,000rpm、1分間)を用いて破碎した。細胞破碎液を遠心(1,000g、15分間)して上清を得た。次にこの上清を超遠心分離(Beckman type 30ローター、30,000rpm、1時間)し、得られた沈殿物をTGR26発現CHO細胞膜画分とした。

2) GTP γ S結合活性の測定

TGR26発現CHO細胞膜画分を膜希釈緩衝液(50mM トリス塩酸緩衝液(pH7.4)、5mM MgCl_2 、150mM NaCl 、 $1 \mu\text{M}$ G

DP、0.1% BSA)で希釈して、タンパク質濃度 $30\mu\text{g}/\text{ml}$ のアッセイ用細胞膜面分溶液を調製した。アッセイ用膜面分溶液 $200\mu\text{l}$ に、 50nM 濃度の $[\text{}^3\text{}^5\text{S}]\text{-guanosine } 5' \text{-(}\gamma\text{-thio) triphosphate}$ (NEN社)を $2\mu\text{l}$ と適当な濃度のDMSO溶液とした試料 $2\mu\text{l}$ とを添加し、この混合液を 25°C で一時間保温した。混合液をフィルター濾過し、さらにフィルターを洗浄用バッファー(50mM トリス塩酸緩衝液(pH 7.4)、 5mM MgCl_2 、 1mM EDTA、0.1% BSA) 1.5ml で2回洗浄した後、フィルターの放射活性を液体シンチレーションカウンターで測定した。

【0157】

参考例72 TGR26発現CHO細胞膜面分を用いて測定した23残基または30残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログのGTP γ S結合促進活性
hGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)を種々の濃度で、参考例71に記載した方法に従い、TGR26発現CHO細胞膜面分と混合し、GTP γ S結合促進活性を測定した。

結果を【図13】に示す。

これより明らかに、hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)は濃度依存的にTGR26発現CHO細胞膜面分のGTP γ S結合を促進した。

hGPR8L(1-23)のブタ、ラットおよびマウスのホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスのホモログを用いても、上記と同様に、濃度依存的にTGR26発現CHO細胞膜面分のGTP γ S結合促進を確認できる。

【0158】

参考例73 $[\text{}^{125}\text{I-Tyr}^{10}]\text{-hGPR8L(1-23)}$ を用いたレセプター結合実験

参考例に記載した方法により作製した $[\text{}^{125}\text{I-Tyr}^{10}]\text{-hGPR8L(1-23)}$ および参考例71に記載したTGR26発現CHO細胞から調製した細胞膜面分を用いて以下のようにしてレセプター結合実験を行なった。

TGR26発現CHO細胞から調製した細胞膜面分を、アッセイ用バッファー (25mM Tris-HCl, 5mM EDTA, 0.05% CHAPS (3-[(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ]-1-プロパン硫酸)、0.1% BSA, 0.5mM PMSF, 1 μ g/ml ペプスタチン, 20 μ g/ml ロイペプチン, 4 μ g/ml E-64, pH7.4) で各種濃度に希釈後、ポリプロピレン製試験管 (Falcon 2053) に200 μ lずつ分注した。最大結合量を測定するために2 μ lのDMSOと7nMの [125 I-Tyr 10]-hGPR8L (1-23) 2 μ lを膜面分溶液に添加した。また、非特異的結合を測定するために100 μ M hGPR8L (1-23) のDMSO溶液2 μ lと7nMの [125 I-Tyr 10]-hGPR8L (1-23) 2 μ lを膜面分溶液に添加した。

25 $^{\circ}$ Cで75分間反応させた後、ポリエチレングリコール処理したワットマングラスフィルター (GF-F) を用いて反応液を吸引し、さらにフィルターを洗浄用バッファー (25mM Tris-HCl, 5mM EDTA, 0.05% CHAPS, 0.1% BSA, pH7.4) で1.5mlで2回洗浄した。ろ過後、 γ -カウンターを用いて紙上に残った放射活性を測定し、最大結合量から非特異的結合量を引いて特異的結合量を見積もった。

膜面分の濃度を変化させると膜面分の濃度に依存した [125 I-Tyr 10]-hGPR8L (1-23) の特異的な結合が認められた。膜面分濃度を3 μ g/mlに設定してhGPR8L (1-23) およびhGPR8L (1-30) による [125 I-Tyr 10]-hGPR8L (1-23) のTGR26発現細胞膜面分への特異的結合に対する結合阻害を調べた。阻害率から50%阻害濃度 (IC $_{50}$ 値) を算出したところ、hGPR8L (1-23) のIC $_{50}$ 値は0.12nMであった。また、hGPR8L (1-30) のIC $_{50}$ 値は0.028nMであった。

これより、hGPR8L (1-23) およびhGPR8L (1-30) がTGR26発現細胞膜面分に対して高い親和性を有することが示された。このことは、hGPR8L (1-23) およびhGPR8L (1-30) がTGR26レセプターの高親和性リガンドであることを意味するものである。

〔図14〕に種々の濃度におけるhGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)の結合阻害を示す。

hGPR8L(1-23)のラットおよびマウスのホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスのホモログを用いても、上記と同様に、 $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)のTGR26発現細胞膜画分への特異的結合に対する結合阻害を確認できる。

【0159】

参考例74 TGR26発現CHO細胞膜画分および $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いて測定したGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体のレセプター結合活性

参考例で得られたGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体のレセプター結合活性を、参考例73に記載した方法でTGR26発現CHO細胞膜画分および $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いて測定した。測定した誘導体とレセプター結合活性を表2に示す。レセプター結合活性は、50%結合阻害濃度(IC_{50} 値)で示した。

【0160】

【表 2】

誘導体	受容体結合活性 (IC ₅₀ nM)
[Met (0)]-hGPR8L (1-23)	0.29
Fmoc-hGPR8L (1-23)	0.23
Ac-hGPR8L (1-23)	0.27
[D-Trp]-hGPR8L (1-23)	1.3
hGPR8L (2-23)	240
Ac-hGPR8L (2-23)	570
IndPr-hGPR8L (2-23)	0.12
hGPR8L (4-23)	2000
hGPR8L (9-23)	2500
hGPR8L (1-20)	0.17
hGPR8L (1-19)	9.9
hGPR8L (1-18)	760
pGPR8L (1-23)	0.12
[Met (0)]-pGPR8L (1-23)	0.28

【0161】

参考例 75 マウス TGR26 をコードする cDNA の 5' 上流端のクローニング

5' RACE PCR クローニングによりマウス TGR26 をコードする cDNA の 5' 上流塩基配列を明らかにした。

5' RACE PCR クローニングは、参考例に記載のマウス脳 cDNA を鋳型として SMARTTM RACE cDNA Amplification Kit に添付の Universal Primer Mix と配列番号：132 の合成プライマーで PCR 反応を行ない、次にこの PCR 反応液を鋳型としてキットに添付の Nested Universal Primer と配列番号：133 の合成プライマーで PCR 反応を行なうことにより達成された。配列番号：

132および配列番号:133のプライマーは、Genbankに登録のマウス GPR7 cDNA断片配列 (Accession:U23807) を基に設計した。PCRの反応液組成と反応条件は以下のとおりである。反応液はマウス脳 cDNA 1 μ l、Universal Primer Mix 2 μ l、配列番号:132の合成DNAプライマー0.2 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PEバイオシステムズ) を使い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、68℃・120秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。次に、キットに添付のTricine-EDTA Bufferで50倍希釈したPCR反応液0.5 μ l、Nested Universal Primer 0.5 μ M、配列番号:133の合成DNAプライマー0.5 μ M、0.8mM dNTPs、Advantage-GC 2ポリメラーゼ (CLONTECH) 0.4 μ lおよび酵素に付属のバッファーで総反応量を20 μ lとし、サーマルサイクラー (PEバイオシステムズ) を使い、96℃・120秒の加熱の後、96℃・30秒、60℃・30秒、72℃・60秒のサイクルを30回繰り返し、さらに72℃で10分間保温した。増幅したDNAを1.5%のアガロースゲル電気泳動により分離した後、約450塩基長のDNAをカミソリで切り出し、DNAをQIAquick Gel Extraction Kit (キアゲン) を用いて回収した。このDNAをTOPO TA Cloning Kit (Invitrogen) のプロトコールに従ってpCR2.1-TOPOベクターへクローニングした。これをエシェリヒア・コリ (Escherichia coli) TOP10 competent cell (Invitrogen) に導入して形質転換した後、cDNA挿入断片を持つクローンをアンピシリンおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。塩基配列の決定のための反応はBigDye Terminator Cycle Sequen

cing Ready Reaction Kit (PEバイオシステムズ) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読し、配列番号: 134 で表される塩基配列を得た。

【0162】

参考例76 ヒト染色体DNAを用いたPCR法によるヒトGPR7 DNAの増幅

ヒト染色体DNAを鋳型として、2種の合成プライマー（配列番号: 141 および配列番号: 142）を用いたPCR法によるDNA増幅を行なった。合成プライマーは受容体蛋白に翻訳される領域の遺伝子が増幅されるように構築したが、その際に遺伝子の5' 側に制限酵素C1a I の認識する塩基配列が付加され、3' 側に制限酵素Spe I の認識する塩基配列が付加されるように、5' 側および3' 側にそれぞれの制限酵素の認識配列を付加した。反応液の組成は、ヒト染色体DNA（タカラ）0.5 μ g、合成DNAプライマー各1 μ M、0.8 mM dNTPs、1 mM MgCl₂、KODポリメラーゼ（トーヨーボー）1 μ l および酵素に付属のバッファーで、総反応量は50 μ l とした。増幅のためのサイクルはサーマルサイクラー（タカラ）を用い、94℃・60秒の加熱の後、98℃・15秒、65℃・2秒、74℃・30秒のサイクルを35回繰り返した。増幅産物の確認は、0.8%アガロースゲル電気泳動の後、エチジウムブロマイド染色によって行なった。

【0163】

参考例77 PCR産物のプラスミドベクターへのサブクローニングおよび挿入DNA部分の塩基配列の解読による増幅DNA配列の確認

参考例76で行なったPCR反応液を0.8%の低融点アガロースゲル電気泳動により分離し、バンドの部分をかみそりで切り出した後、細片化、フェノール抽出、フェノール・クロロホルム抽出、エタノール沈殿の操作を行なってDNAを回収した。pCR-ScriptTM Amp SK (+) クローニングキット（ストラタジーン）の処方に従い、回収したDNAをプラスミドベクターpCR-Script Amp SK (+) へサブクローニングした。これをエシェリヒア コリ (Escherichia coli) DH5 α competent

t cell (トーヨーボー) に導入して形質転換した後、DNA挿入断片を持つクローンをアンピシリン、IPTGおよびX-galを含むLB寒天培地で選択し、白色を呈するクローンのみを滅菌したつま楊枝を用いて分離し、形質転換体E. coli DH5 α /GPR7を得た。個々のクローンをアンピシリンを含むLB培地で一晚培養し、QIAwell 8 Plasmid Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整した。調整したDNAの一部に対して制限酵素Cla IおよびSpe Iによる切断を行ない、挿入されている受容体DNA断片の大きさを確認した。塩基配列の決定のための反応はDye Deoxy Terminator Cycle Sequence Kit (Applied Biosystems社) を用いて行ない、蛍光式自動シーケンサーを用いて解読した(配列番号: 143)。配列番号: 143で表される塩基配列を有するDNAを保持するpCR-Script Amp SK (+) プラスミドを、pCR-ScriptヒトGPR7と命名した。配列番号: 143で表される塩基配列を有するDNAがコードするヒトGPR7のアミノ酸配列を配列番号: 144に示した。ここで配列を決定したヒトGPR7のDNA配列はO' Dowdらの報告(O' Dowd, B. F. et al., Genomics, 28巻、84-91頁、1995年)にあるDNA配列とは2塩基が異なっていた。これらは配列番号: 143の893番目および894番目に当たり、O' Dowdらの報告ではそれぞれCおよびGであるが、本参考例ではGおよびCであった。これにより、翻訳されるアミノ酸配列において配列番号: 144の296番目のアミノ酸が、O' Dowdらの報告のThrが本参考例ではSerとなる。

【0164】

参考例78 ヒトGPR7発現CHO細胞の作製

参考例77で配列が確認されたヒトGPR7の全長アミノ酸配列をコードし5'側にCla I認識配列を付加し、また3'側にSpe I認識配列を付加した遺伝子が導入されたプラスミドによって形質転換されたE. coliのクローンからPlasmid Midi Kit (キアゲン) を用いてプラスミドDNAを調整し、これを制限酵素Cla IおよびSpe Iで消化してインサートDNAを切り出した。インサートDNAは電気泳動後、アガロースゲルからカミソ

リで切り出し、次に細片化、フェノール抽出、フェノール・クロロホルム抽出、エタノール沈殿の操作により回収された。このインサートDNAをClaIおよびSpeIで切断した動物細胞発現用ベクタープラスミドpAKKO-111H (Hinuma, S. et al. Biochim. Biophys. Acta, 1219巻、251-259頁、1994年、記載のpAKKO1.11Hと同一のベクタープラスミド)に加え、T4ライゲース(タカラ)を用いてライゲーションを行ない、蛋白発現用プラスミドpAKKO-Human GPR7を構築した。このプラスミドpAKKO-Human GPR7で形質転換した大腸菌をDH5 α /pAKKO-Human GPR7と命名した。

pAKKO-Human GPR7で形質転換したE. coli DH5 α (トヨーボー)を培養後、Plasmid Midi Kit (キアゲン)を用いてpAKKO-Human GPR7プラスミドDNAを調整した。これをCellPfect Transfection Kit (アマシャムファルマシアバイオテック)を用いて、添付のプロトコールに従ってCHO dhfr⁻細胞に導入した。3 μ gのDNAをリン酸カルシウムとの共沈懸濁液とし、24時間前に 5×10^5 または 1×10^6 個のCHO dhfr⁻細胞を播種した直径6cmシャーレに添加した。10%ウシ胎児血清を含むMEM α 培地で1日間培養した後、継代し、選択培地である10%透析ウシ胎児血清を含む核酸不含MEM α 培地で培養した。選択培地中に増殖してくるGPR8発現CHO細胞である形質転換細胞のコロニー24クローンを選択した。

【0165】

参考例79 TaqMan PCR法を用いたヒトGPR7発現CHO細胞株のヒトGPR7遺伝子発現量の測定

参考例78に従って作製したヒトGPR7発現CHO細胞株24クローンを各25cm²フラスコに培養し、増殖した細胞からISOGEN (ニッポンジーン社)を用いてtotal RNA画分を調製した。このtotal RNA画分に対してMessageClean (Gen Hunter社)キットを用いたDNase I処理を行ない、DNAを含まないtotal RNAを得た。

Total RNAを鋳型としたcDNA合成は、TaqMan Rever

se Transcription Reagents (Applied Biosystems社) キットを用いて行なった。反応液の組成は、DNase I 処理した total RNA 4 μ g、ランダムプライマー 1 μ l、25 mM $MgCl_2$ 溶液 4.4 μ l、10 mM dNTP mix 2 μ l、RNase Inhibitor 0.4 μ l、逆転写酵素 0.5 μ l およびキットに付属の反応バッファーで、総反応量を 20 μ l とした。逆転写反応はサーマルサイクラー (タカラ) を用いて、25℃・10分、48℃・30分、95℃・5分の条件で行なった。

標準ヒト GPR7 DNA は、全長ヒト GPR7 DNA を鋳型とした PCR 増幅 DNA を精製することにより調製された。PCR 反応液の組成は、参考例 7-7 に記載の pCR-Script ヒト GPR7 5 pg、合成 DNA プライマー (配列番号: 145) 0.5 μ M、合成 DNA プライマー (配列番号: 146) 0.5 μ M、1.6 mM dNTPs、2.5 mM $MgCl_2$ 、LATaq ポリメラーゼ (タカラ) 0.5 μ l および酵素に付属のバッファーで、総反応量は 50 μ l とした。増幅のための反応はサーマルサイクラー (Applied Biosystems 社) を用い、94℃・120秒の加熱の後、94℃・30秒、60℃・30秒、72℃・60秒のサイクルを 25 回繰り返す、最後に 72℃・10分間保温した。PCR 反応液を 0.8% のアガロースゲル電気泳動により分離し、バンドの部分をかみそりで切り出した後、QIAquick PCR Purification Kit (キアゲン) を用いて PCR 増幅 DNA を回収した。この PCR 増幅 DNA 溶液に混入しているプライマー DNA および dNTPs を取り除くため、この DNA 溶液をクロモスピンカラム 400 (CLONTECH 社) ゲルクロマトグラフィーに供し、増幅ヒト GPR7 DNA 溶出画分を得た。この増幅ヒト GPR7 DNA 溶液の 260 nm の吸収から計算された DNA 量と増幅ヒト GPR7 DNA 塩基組成から、本増幅ヒト GPR7 DNA 溶液に含まれる DNA のコピー数が算出された。この DNA コピー数が明らかとなった増幅ヒト GPR7 DNA を標準ヒト GPR7 DNA として、定量を目的とした TaqMan PCR に用いることにした。

【0166】

ヒトGPR7 CHO細胞株の発現ヒトGPR7遺伝子コピー数は、TaqMan PCR法により決定された。TaqMan PCR反応液の組成は、蒸留水で100倍希釈した逆転写cDNA溶液1 μ lまたは種々のコピー数の標準ヒトGPR7 DNA溶液1 μ l、合成DNAプライマー（配列番号：147）0.2 μ M、合成DNAプライマー（配列番号：148）0.2 μ M、ヒトGPR7 TaqManプローブ〔配列番号：77（Fam-TTCATCCTCA CCTGGCCAT CGC-Tamra；配列中、Famは6-carboxy-fluoresceinを、Tamraは6-carboxy-tetramethyl-rhodamineを、それぞれ示す。）で表される塩基配列を有するプローブ〕0.2 μ MおよびTaqMan Universal PCR Master Mix（Applied Biosystems社）で、総反応量を25 μ lとした。PCR反応は、ABI PRISM 7700 Sequence Detector System（Applied Biosystems社）を用い、50℃・2分、95℃・10分で保温し、次に95℃・15秒、60℃・60秒のサイクルを40回繰り返すことにより行なった。ヒトGPR7遺伝子発現量はABI PRISM 7700 SDSソフトウェアによって算出した。リポーターの蛍光強度が、設定された値に達した瞬間のサイクル数を縦軸にとり、種々の標準ヒトGPR7 DNAのコピー数の対数値を横軸にとって標準曲線を作成した。標準曲線より逆転写cDNAに含まれるヒトGPR7 cDNAのコピー数を算出し、total RNA 1ng当たりのヒトGPR7遺伝子発現量を決定した。ヒトGPR7遺伝子発現量の高いクローンNo. 7, 8および14を、ヒトGPR7遺伝子高発現細胞株として選択した。

【0167】

参考例80 ヒトGPR7発現CHO細胞を用いた細胞内cAMP産生量の測定

参考例78で作製し、参考例79に記載したようにして選択したヒトGPR7発現CHO細胞を24穴プレートに 5×10^4 cell/wellで播種し、48時間培養した。細胞を0.2 mM 3-イソブチル-メチルキサンチン、0.05% BSA（ウシ血清アルブミン）および20 mM HEPESを含むMEM α バッファー（pH7.4）で洗浄した（以下、0.2 mM 3-イソブチル

ーメチルキサンチン、0.05% BSAおよび20mM HEPESを含むMEMαバッファー(pH7.4)を、反応用バッファーと呼ぶ)。その後0.5mlの反応用バッファーを加えて30分間培養器で保温した。反応用バッファーを除き、新たに0.25mlの反応用バッファーを細胞に加えた後、適当な濃度のDMSO溶液とした試料と2μMフォルスコリンを含む0.25mlの反応用バッファーを細胞に加え、37℃で30分間反応させた。100μlの20%過塩素酸を加えて反応を停止させ、次に氷上で1時間置くことにより細胞内cAMPを抽出した。抽出液中のcAMP量は、cAMP EIAキット(アマシャムファルマシアバイオテック)を用いて測定した。

【0168】

参考例81 ヒトGPR7発現CHO細胞を用いて測定した23残基または30残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログの細胞内cAMP産生抑制活性

hGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)を種々の濃度で、参考例80に記載した方法に従い、ヒトGPR7発現CHO細胞に投与して細胞内cAMP産生抑制活性を測定した。結果を図16に示す。図中、cAMP合成抑制活性は、フォルスコリンを含む反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を100%として、hGPR8L(1-23) またはhGPR8L(1-30)を加えたときの細胞内cAMP量から反応用バッファーを添加したときの細胞内cAMP量を減じた量を%として表わした。

明らかにhGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)は濃度依存的にヒトGPR7発現CHO細胞細胞内cAMPの産生を抑制した。このことからhGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)が、ヒトGPR7に対するリガンドであることが明らかとなった。cAMP産生量から50%阻害濃度(IC₅₀値)を算出したところ、hGPR8L(1-23)のIC₅₀値は0.025 nMであった。また、hGPR8L(1-30)のIC₅₀値は0.13 nMであった。

hGPR8L(1-23)のブタ、ラットおよびマウスのホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスのホモログを用いても、上記

と同様にヒトGPR7発現CHO細胞の反応を確認できる。

【0169】

参考例82 $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23)を用いた受容体結合実験

参考例に記載した方法により作製した $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23) およびヒトGPR7発現CHO細胞から調製した細胞膜面分を用いて受容体結合実験を行なった。

最初に膜面分の調整法を以下に記載する。

1×10^8 個のヒトGPR7発現CHO細胞に10mlのホモジネートバッファ (10mM NaHCO_3 、5mM EDTA (エチレンジアミン四酢酸)、0.5mM PMSF (フェニルメタンスルホニルフルオリド)、 $1 \mu\text{g/ml}$ ペプスタチン、 $4 \mu\text{g/ml}$ E64、 $20 \mu\text{g/ml}$ ロイペプチン) 添加し、ポリトロン(12,000rpm、1分間)を用いて破碎した。細胞破碎液を遠心(1,000g、15分間)して上清を得た。次にこの上清を超遠心分離(Beckman type 30ローター、30,000rpm、1時間)し、得られた沈殿物をヒトGPR7発現CHO細胞膜面分とした。

かくして調製された細胞膜面分を、アッセイ用バッファ (25mM Tris-HCl、5mM EDTA、0.05% CHAPS (3-[(3-コラミドプロピル)ジメチルアンモニオ]-1-プロパン硫酸)、0.1% BSA、0.5mM PMSF、 $1 \mu\text{g/ml}$ ペプスタチン、 $20 \mu\text{g/ml}$ ロイペプチン、 $4 \mu\text{g/ml}$ E-64、pH7.4)で各種濃度に希釈後、ポリプロピレン製試験管(Falcon 2053)に200 μl ずつ分注した。最大結合量を測定するために2 μl のDMSOと8 nMの $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23) 2 μl を膜面分溶液に添加した。また、非特異的結合を測定するために1mM hGPR8L(1-23)のDMSO溶液2 μl と8 nMの $[^{125}\text{I-Tyr}^{10}]$ -hGPR8L(1-23) 2 μl を膜面分溶液に添加した。25℃で75分間反応させた後、ポリエチレンイミン処理したワットマングラスフィルター(GF-F)を用いて反応液を吸引ろ過しさらにフィルターを洗浄用バッファ (25mM Tris-HCl、5mM E

DTA、0.05% CHAPS、0.1% BSA、pH7.4) 1.5mlで2回洗浄した。その後、 γ -カウンターを用いて紙上に残った放射活性を測定し、最大結合量から非特異的結合量を引いて特異的結合量を見積もった。

膜面分の濃度を変化させると膜面分の濃度に依存した [^{125}I -Tyr 10]-hGPR8L(1-23)の特異的な結合が認められた。膜面分濃度を10 $\mu\text{g}/\text{ml}$ に設定してhGPR8L(1-23)および hGPR8L(1-30)による [^{125}I -Tyr 10]-hGPR8L(1-23)のヒトGPR7発現細胞膜面分への特異的結合に対する結合阻害を調べた。阻害率から50%阻害濃度(IC_{50} 値)を算出したところ、hGPR8L(1-23)の IC_{50} 値は0.099 nMであった。また、hGPR8L(1-30)の IC_{50} 値は0.025 nMであった。

これより、hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)がヒトGPR7発現細胞膜面分に対して高い親和性を有することが示された。このことは、hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)がヒトGPR7受容体の高親和性リガンドであることを意味するものである。図16に、種々の濃度におけるhGPR8L(1-23)および hGPR8L(1-30)の結合阻害を示す。

hGPR8L(1-23)のラットおよびマウスのホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスのホモログを用いても、上記と同様に [^{125}I -Tyr 10]-hGPR8L(1-23)のヒトGPR7発現細胞膜面分への特異的結合に対する結合阻害を確認できる。

【0170】

参考例83

1) GPR7発現CHO細胞の膜面分を用いたGTP γ S結合活性の測定
GPR7発現CHO細胞膜面分に対する [^{35}S]-guanosine 5'-(γ -thio) triphosphate (GTPTS)の結合促進活性を以下の方法により測定した。

参考例82に記載の方法により調製したGPR7発現CHO細胞膜面分を膜希釈緩衝液(50 mM トリス塩酸緩衝液(pH7.4)、5 mM MgCl_2 、

150 mM NaCl、1 μ M GDP、0.1% BSA)で希釈して、タンパク質濃度30 μ g/mlのアッセイ用細胞膜画分溶液を調製した。アッセイ用膜画分溶液200 μ lに、50 nM濃度の [3 S]-guanosine 5'-(γ -thio) triphosphate (NEN社)を2 μ lと適当な濃度のDMSO溶液とした試料2 μ lとを添加し、この混合液を25℃で一時間保温した。混合液をフィルター濾過し、さらにフィルターを洗浄用バッファー(50 mM トリス塩酸緩衝液(pH 7.4)、5 mM MgCl₂、1 mM EDTA、0.1% BSA) 1.5 mlで2回洗浄した後、フィルターの放射活性を液体シンチレーションカウンターで測定した。

2) GPR7発現CHO細胞膜画分を用いて測定したhGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)のGTP γ S結合促進活性

hGPR8L(1-23)またはhGPR8L(1-30)を種々の濃度で、上記1)に記載した方法に従い、GPR7発現CHO細胞膜画分に投与し、GTP γ S結合促進活性を測定した。

結果を図17に示す。

これより明らかに、hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)は濃度依存的にGPR7発現CHO細胞膜画分のGTP γ S結合を促進した。

GTP γ S結合促進活性から50%有効濃度(EC₅₀値)を算出したところ、hGPR8L(1-23)のEC₅₀値は0.74 nMであった。また、hGPR8L(1-30)のEC₅₀値は0.67 nMであった(表3)。

hGPR8L(1-23)のラットおよびマウスホモログおよびhGPR8L(1-30)のブタ、ラットおよびマウスホモログを用いても、上記と同様にヒトGPR7発現CHO細胞の反応を確認できる。

【0171】

参考例84 GPR7発現CHO細胞膜画分を用いて測定したGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体のGTP γ S結合促進活性

参考例で得られたGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体を、種々の濃度で、参考例83に記載した方法でGPR7発現CHO細胞膜画分に投与し、GTP γ S結合促進活性を測定した。

測定した誘導体およびGTP γ S結合促進活性を表3に示す。活性は、50%有効濃度(EC₅₀値)で示した。

【0172】

【表3】

誘導体	GTP γ S結合促進活性 (EC ₅₀ nM)	受容体結合活性 (IC ₅₀ nM)
hGPR8L(1-23)	0.74	0.072
hGPR8L(1-30)	0.67	0.025
[Met(0)]-hGPR8L(1-23)	1.6	0.17
Fmoc-hGPR8L(1-23)	6.6	0.14
Ac-hGPR8L(1-23)	1.5	0.077
[D-Trp]-hGPR8L(1-23)	2.3	0.63
hGPR8L(2-23)	7410	140
Ac-hGPR8L(2-23)	7000	570
IndPr-hGPR8L(2-23)	0.85	0.044
hGPR8L(4-23)	>10000	1200
hGPR8L(9-23)	>10000	2200
hGPR8L(1-20)	0.88	0.094
hGPR8L(1-19)	84	1.7
hGPR8L(1-18)	6200	2400
pGPR8L(1-23)	0.35	0.066
[Met(0)]-pGPR8L(1-23)	1.2	0.22

【0173】

参考例85 GPR7発現CHO細胞膜画分および [¹²⁵I-Tyr¹⁰]-hGPR8L(1-23)を用いて測定したGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体の受容体結合活性

参考例で得られたGPR8リガンドペプチドのヒトおよびブタホモログの誘導体の受容体結合活性を、参考例82に記載した方法でGPR7発現CHO細胞膜画分および [¹²⁵I-Tyr¹⁰]-hGPR8L(1-23)を用いて測定

した。

測定した誘導体のおよび受容体結合活性を表3に示す。受容体結合活性は50%結合阻害濃度(IC_{50} 値)で示した。

【0174】

実施例1 hGPR8L(1-23)の皮下への持続投与によるラット摂餌量および体重増加に対する作用

Wistar雄性ラット(8週齢、日本チャールズリバー)を1週間ほどMF粉末食(オリエンタル酵母(株))で馴化した。生理食塩水に1mM濃度で溶解したhGPR8L(1-23)〔ヒトGPR8リガンド(1-23)〕またはvehicle群として生理食塩水を200 μ l充填した浸透圧ポンプ(alzet, MINI-OSMOTIC PUMP Model 2001, 放出速度; 24 μ l/day)をペントバルビタール麻酔下の上記ラットの皮下(背中中央)に装着した(各n=6)。装着日の翌日を0日目とし、MF粉末食を自由摂食下8日目まで毎日8時と20時に餌の量と体重を測定した。8時から20時を明期、20時から翌朝8時を暗期とした。8日目の8時に測定後断頭屠殺し、肝臓、腎臓、心臓、脾臓、精巣、腎臓周囲の脂肪、性器周囲の脂肪および褐色脂肪の重量を測定した。動物は全て明期周期12時間(明:8時から20時)で飼育した。

摂餌量は、明期では両群での差が見られなかったが、暗期ではhGPR8L(1-23)投与群はvehicle群に比較していずれの測定時点においても減少傾向が見られ(図18および19)、1日の摂餌量の総量で減少が見られた(図20)。体重(平均値 \pm 標準誤差)は、投与2日目以降から徐々に差が広がり投与7日目においてvehicle群 378.4 \pm 5.8gに対してhGPR8L(1-23)投与群は364.6 \pm 6.0gであった(図21)。また、0日目から7日目までの体重の増加量はvehicle群 39.6 \pm 4.1gに対してhGPR8L(1-23)投与群は28.9 \pm 3.2gであり、hGPR8L(1-23)の1週間の皮下の持続投与により体重の増加が約10.7g抑制された。

投与8日目の臓器重量を比較すると、vehicle群と比較してhGPR8

L (1-23) 投与群では、肝臓 (1.6 g の減少) ならびに白色脂肪組織である腎臓周囲脂肪 (1.2 g の減少) および性器周囲脂肪 (0.7 g の減少) においてそれぞれ 0.5 g 以上の減少がみられた (表 4)。

【表 4】

	Vehicle 群 (g)	GPR8 リガンド (1-23) 群 (g)
肝臓	15.8 ± 0.2	14.2 ± 0.7
腎臓	2.8 ± 0.09	2.6 ± 0.09
心臓	1.2 ± 0.03	1.1 ± 0.04
脾臓	1.0 ± 0.02	1.0 ± 0.06
精巣	3.7 ± 0.14	3.4 ± 0.12
腎臓周囲脂肪	5.0 ± 0.29	3.8 ± 0.53
性器周囲脂肪	6.2 ± 0.26	5.5 ± 0.38
褐色脂肪	0.32 ± 0.03	0.45 ± 0.05

(平均値 ± 標準誤差、n=6)

以上の結果から hGPR8L (1-23) の皮下投与によって摂餌量の減少および脂肪重量の低下を伴う体重増加抑制効果が認められた。

【0175】

【発明の効果】

本発明の DNA または本発明のポリペプチドは、例えば体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬、摂食抑制薬または体重増加薬などのスクリーニングに、あるいは、体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制剤、体重増加剤として有用である。本発明のポリペプチドと本発明の受容体を用いるスクリーニングで得られる体重増加抑制薬、体重減少薬、脂肪量増加抑制薬、摂食抑制薬は、安全で優れた体重増加抑制剤、体重減少剤、脂肪量増加抑制剤、摂食抑制作用剤としてとして用いられる。

【配列表】

[Sequence Listing]

<110> Takeda Chemical Industries, Ltd.

<120> Inhibitor of body weight gain

<130> B01515

<160> 148

<210> 1

<211> 32

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 1

atcgattaca atgcaggccg ctgggcaccc ag 32

<210> 2

<211> 32

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 2

actagtgcc ttacgaccc caatatgctg cg 32

<210> 3

<211> 1023

<212> DNA

<213> Human

<400> 3

```

atcgattaca atgcaggccg ctgggcaccc agagccccit gacagcaggg gctccttctc 60
cctccccacg atgggtgcc aagtctctca ggacaatggc actggccaca atgccacctt 120
ctccgagcca ctgcegttcc tctatgtgct cctgccgcc ggtgtacctg ggaictgtgc 180
tgtggggctg actggcaaca cggccgtcat ccttctaacc ctaaggcgc cpaagatgaa 240
gacggtgacc aacgtgttca tctgaacct ggccgtgcc gacgggtctt tcacgttgtt 300
actgccgttc aacatcgcg agcacctgct gcagtactgg ccttcgggg agctgtcttg 360
caagctgggt ctggccgtcg accactacaa caicttctcc agcatctact tcttagccgt 420
gatgagcgtg gaccgatacc tgggtgtgct ggccaccgtg aggtcccgcc acatgccctg 480
gcgacacctc cggggggcga aggtcgccag cctgtgtgtc tggctgggcg tcacgttctt 540
ggttctgccc ttcttctctt tgcgtggcgt ctacagcaac gagctgcagg tcccaagctg 600
tgggtgagc ttccgtggc cggagcaggt ctggttcaag gccagccgtg tctacacgtt 660
ggtcctgggc ttctgtctgc cgtgtgtcac caictgtgtg ctctacacag acctcttgg 720
caggctgcgg gccgtgcggc tccgtcttgg agccaaggct ctaggcaagg ccaggcggaa 780
ggtgaccgtc ctggtctctg tctgtctggc cgtgtgcctc ctctgtcggg cgccttcca 840
cctggcctct gtcgtggccc tgaccacgga cctgccccag acccactgg tcatcagiat 900
gtcctacgtc atcaccagcc tcagctacgc caactcgtgc ctgaacctt tctctacgc 960
ctttctagat gacaacttcc ggaagaactt ccgcagcata ttgcgggtgt gaagggcact 1020
agt 1023

```

<210> 4

<211> 333

<212> PRT

<213> Human

特2001-403260

<400> 4

Met Gln Ala Ala Gly His Pro Glu Pro Leu Asp Ser Arg Gly Ser Phe
1 5 10 15
Ser Leu Pro Thr Met Gly Ala Asn Val Ser Gln Asp Asn Gly Thr Gly
 20 25 30
His Asn Ala Thr Phe Ser Glu Pro Leu Pro Phe Leu Tyr Val Leu Leu
 35 40 45
Pro Ala Val Tyr Ser Gly Ile Cys Ala Val Gly Leu Thr Gly Asn Thr
 50 55 60
Ala Val Ile Leu Val Ile Leu Arg Ala Pro Lys Met Lys Thr Val Thr
65 70 75 80
Asn Val Phe Ile Leu Asn Leu Ala Val Ala Asp Gly Leu Phe Thr Leu
 85 90 95
Val Leu Pro Val Asn Ile Ala Glu His Leu Leu Gln Tyr Trp Pro Phe
 100 105 110
Gly Glu Leu Leu Cys Lys Leu Val Leu Ala Val Asp His Tyr Asn Ile
 115 120 125
Phe Ser Ser Ile Tyr Phe Leu Ala Val Met Ser Val Asp Arg Tyr Leu
 130 135 140
Val Val Leu Ala Thr Val Arg Ser Arg His Met Pro Trp Arg Thr Tyr
145 150 155 160
Arg Gly Ala Lys Val Ala Ser Leu Cys Val Trp Leu Gly Val Thr Val
 165 170 175
Leu Val Leu Pro Phe Phe Ser Phe Ala Gly Val Tyr Ser Asn Glu Leu
 180 185 190
Gln Val Pro Ser Cys Gly Leu Ser Phe Pro Trp Pro Glu Gln Val Trp
 195 200 205
Phe Lys Ala Ser Arg Val Tyr Thr Leu Val Leu Gly Phe Val Leu Pro

210	215	220
Val Cys Thr Ile Cys Val Leu Tyr Thr Asp Leu Leu Arg Arg Leu Arg		
225	230	235
Ala Val Arg Leu Arg Ser Gly Ala Lys Ala Leu Gly Lys Ala Arg Arg		
245	250	255
Lys Val Thr Val Leu Val Leu Val Val Leu Ala Val Cys Leu Leu Cys		
260	265	270
Trp Thr Pro Phe His Leu Ala Ser Val Val Ala Leu Thr Thr Asp Leu		
275	280	285
Pro Gln Thr Pro Leu Val Ile Ser Met Ser Tyr Val Ile Thr Ser Leu		
290	295	300
Ser Tyr Ala Asn Ser Cys Leu Asn Pro Phe Leu Tyr Ala Phe Leu Asp		
305	310	315
Asp Asn Phe Arg Lys Asn Phe Arg Ser Ile Leu Arg Cys		
325	330	333

<210> 5

<211> 687

<212> RNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Riboprobe

<400> 5

caaaagcugg agcuccaccg cgguggcggc cgcucuagcc cacuagugcc cuucagcacc	60
gcaauaugcu gcggaaguuc uuccggaagu ugucaucuag aaaggcguag aggaaggggu	120
ucaggcacga guuggcguag cugaggcugg ngaugacgua ggacauacug augaccagug	180
gggucugggg cagguccgug gucagggcca cgacagaggc cagguggaag ggcguccagc	240

特 2001-403260

agaggaggca caccggcagc acgacagga ccaggacggu caccuucgc cuggccuugc 300
cuagagccnu ggcuccagag cggagccgca cggcccgcag ccugcgagg aggucugugu 360
agagcacaca gauggugcac acgggtagca cgaagcccag gaccaacgug uagacacggc 420
uggccuugaa ccagaccugc ucggggccag ggaagcucag cccacagcuu gggaccugca 480
gcucguugcu guagacgcca gcgaaagaga agaaggcag aaccaggacc gugacgcca 540
gccagacaca caggcuggcg accuucgccc cccgguaggu gcgccagggc auguggcggg 600
accucacggu ggccagcacc accagguauc gguccacgcu caucacggcu aggaaguaga 660
ugcuggagaa gauguuguag uggucga 687

<210> 6

<211> 17

<212> PRT

<223> Porcine

<400> 6

Trp Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala

17

<210> 7

<211> 438

<212> DNA

<213> Human

<400> 7

gccccatgag caggccagcg gcgcggctca ccgtgtggtg gcggggactc gccacgtgct 60
tgtaccacgc gccggagggc agcggcagca ggagcagaag cagcagcagt gccagccgcg 120

gccggctcgc gggagcccc cgctccctcg ggcgccacgc cagggtcgtc gcgtcgacgg 180
ccgcccggcg gggcgggcca cgaaccggct cggctggggt lgggcgcgca gttgagttgg 240
gacgcccagg taccggagcg caggaggctg gaggcgagcc ggggtcccc tgcaggccca 300
gctataaccg ctcggtggcc ccgcctcgtt ccgcccctc agtaccgcig ggtccccag 360
atggggggag ggacggaggg aggagaggga accctggcag ctggcgNgg acgtgggtac 420
ttgagcacct cactgagt 438

<210> 8

<211> 264

<212> DNA

<213> Human

<400> 8

gatagggtga ggcacgcagc cccatgagca ggccagcggc gcggcccacc gtgtggtagc 60
ggggactcgc cacgtgcttg taccacgcgc cggagggcag cggcagcagg agcagaagca 120
gcagcagtcg cagccgcggc cggctcgcgg gagcccccg ctcccttggg cggcacgcca 180
gggcgctcgc gtcgacggcc gcccggcggg gcgggccacg aaccggctcg gctgggtttg 240
ggcgcgtagt ggagtggga cgcc 264

<210> 9

<211> 424

<212> DNA

<213> Human

<400> 9

gatagggtga ggcacgcagc cccatgagca ggccagcggc gcggcccacc gtgtggtagc 60
ggggactcgc cacgtgcttg taccacgcgc cggagggcag cggcagcagg agcagaagca 120
gcagcagtcg cagccgcggc cggctcgcgg gagcccccg ctcccttggg cggcacgcca 180
gggcgctcgc gtcgacggcc gcccggcggg gcgggccacg aaccggctcg gctgggtttg 240

ggcgcgcagt ggagltggga cggccaggta cgggagcgca ggaggctgga ggcgagccgt 300
 gggicccctg caggcccagc tataaccgci cggtagggccc gccctcgttc gccccctcag 360
 taccgctggg ctcccagat ggggggagg acggaggag gagagggaac cctggcagct 420
 ggcg 424

<210> 10

<211> 375

<212> DNA

<213> Human

<400> 10

gcgcctcacc gtggtgtagc ggggactcgc cactgcttg taccacgcgc cggaggcagc 60
 ggcacgagga gcagaagcag cagcagtgcc agcgcgggcc ggctcgggg agccccccgc 120
 tccccctggc gctacgcagg gctacagct cgacggccgc ccgcggggcc atcgcaaccg 180
 gctcggctgg gttagggcgc gcaglggagl lgggacgcc aggtaccgga gcgcaggagg 240
 ctggaggcga gccgtgggtc cctgcaggc ccagctataa ccgctcggig gccccgcctc 300
 gticcgcgcc ctacgtaccg ctgggctccc cagaatggg gagggacgga gggaggagag 360
 ggaaccctgg cagct 375

<210> 11

<211> 260

<212> DNA

<213> Human

<400> 11

cnacgttcctc ggggacataa accctgttct tgcctaac ccgaaggcg ccatggactt 60
 nagecgcctg gcgtcgagca gagaagtagc gggccctggg ccggggctcc ggtgaaccgg 120
 cccctgctac cgctacgtct gcttcctc ttgtacctc tgcccgccag cgcctgggtac 180
 aagcacgtag cgagccctcg ctatcacaca gtaggtcgtg cctccgggt gctcatnggg 240

特2001-403260

ctgcgccgnt cgtcctacct

<210> 12

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 12

aactccactg cgcgccaaa ccca 24

<210> 13

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 13

tctccacag cctctgaacc cacc 24

<210> 14

<211> 375

<212> DNA

<213> Human

<400> 14

aaciccactg cgcgcccaaa cccagccgag ccggttcgig gcccgccccg ccgggcggcc 60
gtcgacgcga gcgccctggc gtggcgccca ggggagcggg gggctcccg gagccggccg 120
cggctggcac igctgctgct tcigctcctg ctgcgcigc cctccggcgc gtggtacaag 180
eacgtggcga gtccccgcta ccacacggtg gcccgcgccg ctggcctgct catggggctg 240
cgtcgctcac cctatcigtg gcgccgcgcg ctgcgcgcgg ccgccgggcc cctggccagg 300
gacacctctt cccccaacc cgcagccgcg gaggtcctc tctgctgcc ctctgggtt 360
caggagcigt gggag 375

<210> 15

<211> 125

<212> PRT

<213> Human

<400> 15

Asn Ser Thr Ala Arg Pro Asn Pro Ala Glu Pro Val Arg Gly Pro Pro
1 5 10 15
Arg Arg Ala Ala Val Asp Ala Ser Ala Leu Ala Trp Arg Pro Gly Glu
20 25 30
Arg Gly Ala Pro Ala Ser Arg Pro Arg Leu Ala Leu Leu Leu Leu
35 40 45
Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ser Gly Ala Trp Tyr Lys His Val Ala Ser
50 55 60
Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu
65 70 75 80
Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp Arg Arg Ala Leu Arg Ala Ala Ala Gly
85 90 95
Pro Leu Ala Arg Asp Thr Leu Ser Pro Glu Pro Ala Ala Arg Glu Ala
100 105 110

Pro Leu Leu Leu Pro Ser Trp Val Gln Glu Leu Trp Glu

115

120

125

<210> 16

<211> 23

<212> PRT

<213> Human

<400> 16

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1

5

10

15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

20

23

<210> 17

<211> 30

<212> PRT

<213> Human

<400> 17

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1

5

10

15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp

20

25

30

<210> 18

<211> 69

<212> DNA

<213> Human

<400> 18

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60
atggggctg 69

<210> 19

<211> 90

<212> DNA

<213> Human

<400> 19

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60
atggggctgc gtcgtcacc ctatctgtgg 90

<210> 20

<211> 29

<212> PRT

<213> Human

<400> 20

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Leu

20 25 29

<210> 21

<211> 28

<212> PRT

<213> Human

<400> 21

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr

20 25 28

<210> 22

<211> 27

<212> PRT

<213> Human

<400> 22

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro

20 25 27

<210> 23

<211> 26

<212> PRT

<213> Human

<400> 23

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser

20 25 26

<210> 24

<211> 25

<212> PRT

<213> Human

<400> 24

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg

20 25

<210> 25

<211> 24

<212> PRT

<213> Human

<400> 25

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg

20 24

<210> 26

<211> 87

<212> DNA

<213> Human

<400> 26

tggtaacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atggggctgc gtcgtcacc ctatctg

87

<210> 27

<211> 84

<212> DNA

<213> Human

<400> 27

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggigg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atggggctgc gtcgtcacc ctat 84

<210> 28

<211> 81

<212> DNA

<213> Human

<400> 28

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggigg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atggggctgc gtcgtcacc c 81

<210> 29

<211> 78

<212> DNA

<213> Human

<400> 29

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggigg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atggggctgc gtcgtca 78

<210> 30

<211> 75

<212> DNA

<213> Human

<400> 30

tggtacaagc acgiggcgag tccccgtac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60
atggggctgc gtgcg 75

<210> 31

<211> 72

<212> DNA

<213> Human

<400> 31

tggtacaagc acgiggcgag tccccgtac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60
atggggctgc gt 72

<210> 32

<211> 999

<212> DNA

<213> Human

<400> 32

atgcaggccg ctgggcaccc agagccctt gacagcagg gctccttctc cctccccacg 60
atgggigcca acgtctctca ggacaatggc actggccaca atgccacctt ctccgagcca 120
ctgccgttcc tctatgtgt cctgcccgcc gigtactccg ggaatctgtc tgtggggctg 180
actggcaaca cggccgical cctlgtaat ctaaggcgcc ccaagatgaa gacggtgacc 240
aacgigtcca tctgaacct ggccgtcgcc gacgggctct tcacgttgtt actgcccgtc 300

aacatcgagg agcacctgct gcagctcagg cccctcgagg agctgctctg caagctgggtg 360
 ctggcgctcg accactacaa catctctcc agcatctact tcttagccgt gatgagcgtg 420
 gaccgatacc tgggtgtgct ggccatcgtg aggtcccgcc acatgccctg gcgcacctac 480
 cggggggcga aggtcgccag cctgtgtgtc tggctggggcgc tcacggctct ggtctgccc 540
 ttcttctctt tgcctggcgt ctacagcaac gagctgcagg tcccaagctg tgggtgagc 600
 ttcccgctggc ccgagcgggt ctggttcaag gccagccgtg tctacacttt ggtcctgggc 660
 ttctgtctgc ccgtgtgcac catctgtgtg ctctacacag acctcctgcg caggctgcgg 720
 gccgtgcggc tccgctctgg agccaaggct ctaggcaagg ccaggcggaa ggtgaccgtc 780
 ctggtcctcg tctgtctggc cgtgtgcctc ctctgtgga cggccttcca cctggcctct 840
 gtcgtggccc tgaccacgga cctgccccag accccactgg tcatcagiat gtcctacgtc 900
 atcaccagcc tcacgtacgc caactcgtgc ctgaacccct tctctacgc ctctctagat 960
 gacaacttcc ggaagaactt ccgcagcata ttgcggtgc 999

<210> 33

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 33

tctccacag ctctgaacc cagc 24

<210> 34

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 34

acagataggg tgagcgacgc agcc 24

<210> 35

<211> i102

<212> DNA

<213> Human

<400> 35

gccatttaag tggagtcttg aaggatgag aggtgttagg cacagacgca cagaggcagg 60
 caaagccaca ggctgttggg ttaggcaaaa attgagacig gctggataaa gttgtcttgg 120
 gggaccatca ccagagagga ggcgtggag gcttgaagg ccttctccg cccctccagg 180
 ggtagagggt ccaggagggg ctgacitit ctcctggaag cctcacagaa ctgcagacc 240
 cacggtatgc ttgtgttgc caaatgagg ctcttaagg tctgcgggg agatgggttg 300
 gtggggagaa gctgggggtg gcagtggaca ggacagggtg tggggacagc ttgggagct 360
 atgctaggca aggacaagg acaacicttg gggggacica cccagagggg tcttgaatgg 420
 tgctgaaggc ccccgacagc cctcctgcaa tagccactgt agctctgcct gcacctgggc 480
 cttcgtcttg ctgtctccc accggcagga gtcgtgctaa aggggcatcc ctgagcccta 540
 ctccctcctc agtgttccca gtaccactc cctggcactt ccactcctag agggaggagg 600
 ctgagcaggc agagaatggg acgtgtcccc tcagaggagc ctgagccca gticcagcca 660
 gcggccact cagtgagggt ctcaagtacc caagtcccc gccagctgcc agggttccct 720
 ctctccctc cgtccctccc cccatctggg gageccagcg glactgaggg ggcggaacga 780
 ggcggggcca ccgagcgggt atagctgggc ctgcaggga cccacggcic gcctccagcc 840
 tcttgcgtc cgttacctgg gcgtcccaac tccactgcgc gcccaaacc agccgagccg 900
 gttcgtggcc cgtcccgccg ggcggccgtc gacgcgagcg ccttggcgtg gcgcccaggg 960
 gagcgggggg ctcccgcgag ccggccgcgg ctggcactgc tgcgtcttct gctcctctg 1020

cgcctgccct ccggcgctg gtacaagcac gtggcgagtc ccgctacca cacgggggc 1080
cgcgccgttg gcctgtcat gg 1102

<210> 36

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 36

aattccactg cgcgcccaaa ccca 24

<210> 37

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 37

ctggcactgc tgcgtctct gctc 24

<210> 38

<211> 609

<212> DNA

<213> Human

<400> 38

ctgctgccgc tgcctccgg cgcgtggtag aagcacagg cgagtcctcg ctaccacacg 60
 gtgggccggc ccgtggcct gctcatgggg ctgctcgtct caccctatct gttggccgcg 120
 gcgctggcgc cggccggcgg gcccctggcc agggacaccc tctccccga acccgagcc 180
 cgcgaggctc ctctctgtct gccctcgtgg gttcaggagc tgtgggagac gcgacgcagg 240
 agctcccagg cagggatccc cgtccgtgcg ccccgagacc cgcgcgccc agagcctgcg 300
 ctggaaccgg agtccctggc cticagcggc gctggccaga gacttcggag agacgtctcc 360
 cggccagcgg tggaccccg cgcgaaccgc ctggccctgc cctgcctggc ccccgagccg 420
 ttctgacagc gtcctccgct cgcctggcgc gctcgcgc ctgaccagc aggagtgcc 480
 gcgcgctcc aggagccgc catagacccc gccctggcgc cggtaataa aatccgctg 540
 actcctgcgc ccccgcatgc gtaaaaaaaaa aaaaaaaaaa aaaaaaaaaa agcggccgct 600
 gaattctag 609

<210> 39

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 39

agcgttactg agggggcgga acga 24

<210> 40

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 40

gggtctatga gcggctcctg gaag 24

<210> 41

<211> 719

<212> DNA

<213> Human

<400> 41

```

ggcggggcca ccgagcggtt atagctgggc ctgcagggga cccacggctc gcctccagcc 60
tcttgcgtc cggtacctgg ggcicccaac tccacigcgc gcccacccc agccgagccg 120
gttcgtggcc cggcctgccg ggcgggcgtc gacgcgagcg ccttggcgtg gcgcccaggg 180
gagcgggggg ctcccgcgag ccggcccgcg ctggcactgc tgcgtctct gctccgtctg 240
ccgtgccct cggcgcggtg gtacaagcac gggcgagtc cccgtacca caccgtgggc 300
cgcgccgtg gcctgtcat ggggctggt cgtcacctt atctgtggcg ccgcgcgtg 360
cgcgcgccg ccgggcccc ctggcaggac accctctccc ccgaaccgc agcccgcgag 420
gtcctctcc tgcgtccctc gtgggttcag gagctgtgg agacgcgacg caggagctcc 480
caggcagga tcccgtcg tgcgccccg agccgcgcg cccagagcc tgcgtggaa 540
ccggagtccc tggacttcag cggagctggc cagagacttc ggagagacgt ctcccgcca 600
gcggtggacc ccgcagcaa ccgcttggc ctgccctgcc tggccccgg accgttctga 660
cagcgtcccc cgccgcccc tggcgctcc gcgctgacc caggaggagt ggccgcgcg 719

```

<210> 42

<211> 165

<212> PRT

<213> Human

<400> 42.

Leu Ala Trp Arg Pro Gly Glu Arg Gly Ala Pro Ala Ser Arg Pro Arg
 1 5 10 15
 Leu Ala Leu Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ser Gly Ala
 20 25 30
 Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala
 35 40 45
 Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp Arg Arg
 50 55 60
 Ala Leu Arg Ala Ala Ala Gly Pro Leu Ala Arg Asp Thr Leu Ser Pro
 65 70 75 80
 Glu Pro Ala Ala Arg Glu Ala Pro Leu Leu Leu Pro Ser Trp Val Gln
 85 90 95
 Glu Leu Trp Glu Thr Arg Arg Arg Ser Ser Gln Ala Gly Ile Pro Val
 100 105 110
 Arg Ala Pro Arg Ser Pro Arg Ala Pro Glu Pro Ala Leu Glu Pro Glu
 115 120 125
 Ser Leu Asp Phe Ser Gly Ala Gly Gln Arg Leu Arg Arg Asp Val Ser
 130 135 140
 Arg Pro Ala Val Asp Pro Ala Ala Asn Arg Leu Gly Leu Pro Cys Leu
 145 150 155 160
 Ala Pro Gly Pro Phe
 165

<210> 43

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 43

acagataggg tgagcgatgc agcc 24

<210> 44

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 44

tgagcgacgc agcccatga gcag 24

<210> 45

<211> 235

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 45

cgacaccct gcgccagac cctccggagc cagttcctgg tccgcccgcc cgggagccgt 60
cagcatgaac ccccgggcac gcggcatggg agcgcggggc ccgggacggg gggccactgc 120
gaggcgccgg ctgctggcat tgcgtgtact gtgctgtctg ctgcccgtgc ccgccgtgc 180
ctggtacaag cacacggga gtcccgcia ccacacggig ggccgcgcc cgggc 235

<210> 46.

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 46

cagcggcagc agcagcagca gtaa 24

<210> 47

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 47

cagcagtaac agcaatgccg gcag 24

<210> 48.

<211> 156

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 48

cgttagccctc ccgctcgcg gcttccgac accctcgcg ccagaccctc cggagccagt 60
tcctggctcg ccccgccggg agccgtcagc atgaaccccc gggcacgcgg catgggagcg 120
cggggcccg gaccgggggc cactgcgagg cgccgg 156

<210> 49

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 49

cggctgctgg cattgctgtt actg 24

<210> 50

<211> 23

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 50

cgcccgtgcc tggtaacaagc aca 23

<210> 51

<211> 588

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 51

```

cggcgagtc cgcctaccac acggtgggcc ggcgcgggg ccgtctcatg gggctgcgc 60
gctcgcccta catggggcgc cgcgcgtgc gcccggggc cgggccccig gccigggaca 120
cttcggcca ggacgtgcc cctcggggac cctccggcag gaacgcccic tctcggggc 180
cggccctcg cgacgtccg cgtctcccc cgggggtica gacactgtg caggctgcac 240
gcggaagctt ccgtcgggg atcccggtca gtgcgcccc cagcccgcgc gcccggggt 300
ccgagccga accggaattg ggcgccctt cctggacctc ggcgagtag accagacct 360
tcggagagtc ttcagctcag cgttggtctg cgcagggaac cgccttcgcc agccccgcc 420
tcgccccagc gtcagagccg acctgatcg gcccccggcg gcgcggcccc gcgcctggcc 480
cccgcgagtc ctcttcgcgc cccagggcg gccgtctgt caataaaacc cgcctagtic 540
ctcgaaaaa aaaaaaaaaa aaaaaaaaaa aaaaaaaaaa aaaaaaaa 588
    
```

<210> 52

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 52

```

ttcccgacac cctgcgccc agac 24
    
```

<210> 53

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 53

gggctggcga aggcgggtcc ctgc 24

<210> 54

<211> 565

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 54

cctccggagc cagttccigg tccgccccgc cgggagccgt cagcatgaac ccccgggcac 60
 gcggcatggg agcgcggggc ccgggaccgg gggccacigc gaggcgccgg ctgctggcat 120
 tgcgttact gctgctgtg ctgccgtgc ccgccgtgc ctggtacaag cacacggcga 180
 gtccccgcta ccacacggig ggccgcgccg cgggccctgt catggggctg cgcgcctcgc 240
 cctacatgig gcgcgcgcg ctgcgcccg cggccgggcc cctggccigg gacacittcg 300
 gccaggacgt gcccctcgg ggacctccg ccaggaacgc cctctctccg gggcccgccc 360
 ctgcgcagc tccgtgctt cccccgggg ttcagaçact gtggcaggig cgacgcggaa 420
 gcttccgctc cgggatcccg gtcagtcgc cccgcagccc gcgcgcccg ggtccgagc 480
 cgcaaccgga attgggcgcc tcttctigga cctcggcgga gtagaccaga gccttcggag 540
 agtcttcagc tcagcggtig tctgc 565

<210> 55

<211> 159

<212> PRT

<213> Porcine

特2001-403260

<400> 55

Met Asn Pro Arg Ala Arg Gly Met Gly Ala Arg Gly Pro Gly Pro Gly
1 5 10 15
Ala Thr Ala Arg Arg Arg Leu Leu Ala Leu Leu Leu Leu Leu Leu
20 25 30
Leu Pro Leu Pro Ala Arg Ala Trp Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg
35 40 45
Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg
50 55 60
Ser Pro Tyr Met Trp Arg Arg Ala Leu Arg Pro Ala Ala Gly Pro Leu
65 70 75 80
Ala Trp Asp Thr Phe Gly Gln Asp Val Pro Pro Arg Gly Pro Ser Ala
85 90 95
Arg Asn Ala Leu Ser Pro Gly Pro Ala Pro Arg Asp Ala Pro Leu Leu
100 105 110
Pro Pro Gly Val Gln Thr Leu Trp Gln Val Arg Arg Gly Ser Phe Arg
115 120 125
Ser Gly Ile Pro Val Ser Ala Pro Arg Ser Pro Arg Ala Arg Gly Ser
130 135 140
Glu Pro Gln Pro Glu Leu Gly Ala Ser Ser Trp Thr Ser Ala Glu
145 150 155 159

<210> 56

<211> 23

<212> PRT

<213> Porcine

<400> 56

Trp Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

特2001-403260

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

20 23

<210> 57

<211> 30

<212> PRT

<213> Porcine

<400> 57

Trp Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Met Trp

20 25 30

<210> 58

<211> 69

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 58

tggtacaagc acacggcgag tccccgtac cacacggtgg gccgcgccgc ggccctgctc 60

atggggctg 69

<210> 59

<211> 90

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 59

tggtacaagc acacggcgag tccccgtac cacacggtag gccgcgccg gggcctgctc 60

atggggctgc gccgctcgcc ctacatgttg 90

<210> 60

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 60

cgttctcggg gacataaac ccig 24

<210> 61

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 61

atgagcagc ccggaggcac gacc 24

<210> 62

<211> 188

<212> DNA

<213> Rat

<400> 62

ttcttgcct aaccgcca gggccatgg actttagcgc gctggcgtc agcagagaag 60
 tacggggccc tgggccggg gctccggiga accggccct gctaccgta ctgcgcttc 120
 tgccttgcct acctcgcgc gccagcgctt ggtacaagca cgtggcgagc cctcgctatc 180
 acacagtg 188

<210> 63

<211> 23

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 63

atgagcagcc cggaggcacg acc 23

<210> 64

<211> 23

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 64

actgtgtgat agcgaggct cgc 23

<210> 65

<211> 615

<212> DNA

<213> Rat

<400> 65

```

ctcagagctg tactaggcag gaagaggac ggccctcagg gaagggtggc cctatgctta 60
aaactttcct gtctcctctc cataagtgct ccactgttag caactccctac caagggggca 120
tctttttgcc cctggcagcc catccttgta ttctgagacc atgcatggtt ccagaactcc 180
ctccctgaca gtcccttcc tggggcgag gaaagggtaa gcaaggagat cccccactaa 240
agcttcaagc gcagtcagc ttgcgacta ctcattggga ggcctctagc taccgggtt 300
ccctctctc cctcctctc catctctctc tcccttgggc atgtgcgcgc gggcgagcc 360
ggggcggggc catlgagaag ctgtatgcgc accaactgac tagtctctc catctccgg 420
agctccgagc ttctcgggga cataaacct gtcttctgct taaccgcca aggggccaig 480
gacttgagcg cgcggcgct gagcagagaa gtacggggcc ctgggcccgg ggciccgig 540
aaccggcccc tgcaccgt actgtgctt ctgtcttgc tacctctgcc cgccagcgcc 600
tggtacaagc acgtg 615
    
```

<210> 66

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 66

```

cgttctcgg ggacataaac cctg 24
    
```

<210> 67

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 67.

cgagccctcg clatcacaca gtgg 24

<210> 68

<211> 497

<212> DNA

<213> Rat

<400> 68

```

gtcgtgcttc cgggcigctc atggggctgc gccgcicgcc ctacctgtgg cgccgtgcct 60
tgggtggggc cgciggaacc ctcgtggggc tcccgggaca gatggccgcg agcgctctcc 120
tgcctcttc ccccgggcag gagcigtggg aggtacgaag caggagtica ccggcaggac 180
ttcccggtca tgaacccgg agtctgcggg acctggaggg agccggccaa cctgagcagt 240
cgctaagctt tcagtcctgg acttcagcag agcccgctgc tagagccttc ggtgagagcg 300
ttcgtgccca gccatggltc ctgcagcaa tcatctttgc cgatcctgtc aggcctgcag 360
accgtctcaa gaaccgatgg cggcccgig cttgacctaa gcaggagcac agcttgtagc 420
tcagtcagg tctcgtgtc tggtaataa aatcaetctg attcccaaaa aaaaaaaaaa 480
aaaaaaaaa aaaaaaa
497
    
```

<210> 69

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 69

ggggcggggc cattgagaag c 21

<210> 70

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 70

tgaccagaca acgagacctg a 21

<210> 71

<211> 684

<212> DNA

<213> Rat

<400> 71

tgtagtcgca ccaacigact agtcctctcc atcctccgga gctccgacgt tctcggggac 60

ataaacctcg ttcttgtcct aaccgcgcaa ggggccatgg acttgagcgc gctggcgctg 120

agcagagaag tacggggccc tgggcccggg gctccggiga accggccctt gctaccgcta 180

cctcctgctc tgcctctgct accctgccc gccagcgcc ggacaagca cglggcgagc 240

特2001-403260

ccctcgctatc acacagtgagg tcgtgccicc gggctgctca tggggctgcg ccgctcgccc 300
taccctgggc gccgtgccct gggggggccc gctggaccgc tcgtggggct cccgggacag 360
atggcccgca gcgtctcctt gcttcttcc cccgggcagg agctgtggga ggtacgaagc 420
aggagtlcac cggcaggact tcccgtgcal gcaaccgga gtcgcggga cctggaggga 480
gccggccaac ctgagcagtc gctaagcttt cagtcctgga ctacagcaga gcccgctgct 540
agagccctcg gtgagacgct tcgtgccag ccaatgttcc tgcagcaaat catctttgcc 600
gatactgta ggctcgacga cgtctcaag aaccgatggc gccccgicg ttgacctag 660
caggagcaca gcttgtagct ccag 684

<210> 72

<211> 185

<212> PRT

<213> Rat

<400> 72

Met Asp Leu Ser Ala Leu Ala Ser Ser Arg Glu Val Arg Gly Pro Gly

1 5 10 15

Pro Gly Ala Pro Val Asn Arg Pro Leu Leu Pro Leu Leu Leu Leu

20 25 30

Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ala Ser Ala Trp Tyr Lys His Val Ala Ser

35 40 45

Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu

50 55 60

Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp Arg Arg Ala Leu Gly Gly Ala Ala Gly

65 70 75 80

Pro Leu Val Gly Leu Pro Gly Gln Met Ala Arg Ser Ala Leu Leu Leu

85 90 95

Pro Ser Pro Gly Gln Glu Leu Trp Glu Val Arg Ser Arg Ser Ser Pro

100 105 110

特2001-403260

Ala Gly Leu Pro Val His Ala Thr Arg Ser Leu Arg Asp Leu Glu Gly
115 120 125
Ala Glu Gln Pro Glu Gln Ser Leu Ser Phe Gln Ser Trp Thr Ser Ala
130 135 140
Glu Pro Ala Ala Arg Ala Phe Gly Glu Thr Leu Arg Ala Gln Pro Trp
145 150 155 160
Phe Leu Gln Gln Ile Ile Phe Ala Asp Pro Val Arg Leu Asp Asp Arg
165 170 175
Leu Lys Asn Arg Trp Arg Pro Arg Ala
180 185

<210> 73

<211> 23

<212> PRT

<213> Rat

<400> 73

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala
1 5 10 15
Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu
20 23

<210> 74

<211> 30

<212> PRT

<213> Rat

<400> 74

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala
1 5 10 15

Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp

20

25

30

<210> 75

<211> 69

<212> DNA

<213> Rat

<400> 75

tggtacaagc acgtggcgag ccctcgctat cacacagtgg gtcgtgccctc cgggctgctc 60
atggggctg 69

<210> 76

<211> 90

<212> DNA

<213> Rat

<400> 76

tggtacaagc acgtggcgag ccctcgctat cacacagtgg gtcgtgccctc cgggctgctc 60
atggggctgc gccgtcgcg ctaacctgtgg 90

<210> 77

<211> 23

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Probe

<400> 77

ttcattctca accaggccat cgc 23

<210> 78

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 78

accagttct tgcctaacc ctcc 24

<210> 79

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 79

cctgtctcgt acctcccaca gctc 24

<210> 80

<211> 311

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 80

aaggggcaat tgacgtgagc gcgctggcgt ctaacagaga agtacggggc cctgggcccg 60
 ggactcccag gaaccggccc ctgctgccc tgetgtgt tctgtcttg ctaccgtgc 120
 ccgccagcgc ctggtataag cacgtggcga giccccgtc tcacacagt ggicgtgcct 180
 ccgggctgt catggggctg cgcgctcgc cctaccagtg gcgccgtgcc ctgggcgggg 240
 ctgctggacc cctcctccgg ctcccaggac cggtcgccc cggcgctctc ctgttccit 300
 cctcagggca g 311

<210> 81

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 81

catgagcagc ccggaggcac gacc 24

<210> 82

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 82

gtgatagcgg ggactcgcca cgtg 24

<210> 83

<211> 237

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 83

```

aaaggcigta gicgcaccaa ctgactggic tccatcctct ggagciccga cgtgctcggt 60
ctcggagaca taaacccagt tcctgtccia accciccaag gggcaattga cgtgagcgcg 120
ctggcgctca acagagaagt acggggccct gggcccggga ctcccaggaa ccggccccctg 180
ctgccccctgc tctgtctct gcctctgcta ccgctgcccg ccagcgccctg gtataag 237
    
```

<210> 84

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 84

```

accagttct tgccttaacc ctcc 24
    
```

<210> 85

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 85

gggcaaitga cgtagcgcg ctgg 24

<210> 86

<211> 598

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 86

cgcttaacag agaagtacgg ggccctgggc cggggactcc caggaaccgg cccctgctgc 60
 cctgctgct gcttcgctc ttgctaccgc tggccgccag cgccgggtat aagcacgtgg 120
 cgagtcctccg ctatcacaca gtgggtcgtg cctccgggct gctcatgggg ctgcgccgt 180
 cgccctacca gtggcgccgt gccctgggcg gggctgcigg accctctcc cggtctccag 240
 gaccggctgc ccgcgccgt ctctgcttc ctcttcagg gcaggagctg tgggaggtac 300
 gaagcaggag ctacactgca gggtctccg tccatgcacc ctggagtcg cgggacctgg 360
 agggagtcg ccaaccggag cagtcgctaa gcttcactc ctggatctca gaggagcccg 420
 ctgctagagc ctccggagag acgcttcgtg cccagccatg gtcttcgag caagtcatct 480
 ttgccgatcc tgcaggccc aagaaccgat ggcgccccca tgcctgacct aggcaggagc 540
 acagcttgaa gctccagta ggcctcgtg ttctgggtcaa taaaaccaac ctgattcc 598

<210> 87

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 87

aaaggctgta gtcgcaccaa c 21

<210> 88

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 88

accagaaaca cgaggcctga c 21

<210> 89

<211> 659

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 89

tgactgggtc ccatcctcig gagtcctgac gtgctcgttc tcggagacat aaaccagtt 60
ctgttcctaa ccttccaagg ggcaattgac gtgagcgcgc tggcgtctaa cagagaagta 120
cggggccctg ggcccgggac tcccaggaac cggccctcgc tgcctctgtc gctgtctctg 180
ctcttctac cgtgccccgc cagcgcctgg tataagcag tggcgagtc ccgtatcac 240
acagtggtc gtgcctccgg gctgtcatg gggctgcgcc gctcgccca ccagtggcgc 300
cgtgccctgg ggggggtgct tggacccctc tccggcctc caggaccggt cgcccgcggc 360
gtctcctctc ttcttctc agggcaggag ctgtgggagg tacgaagcag gagtcacct 420
gcagggttc ccgtccatgc accctggagt ccgcgggacc tggaggaggt ccgccaaccg 480
gagcagtcgc taagcttca ctctggatc tcagaggagc ccgtgctag agccttcgga 540

特2001-403260

gagacgttc ggtccagcc atgttccg cagcaagica tctttgcga tctgtcagg 600
ccaagaacc gatggcgccc ccatgttga cctaggcagg agcacagctt gaagctcca 659

<210> 90

<211> 176

<212> PRT

<213> Mouse

<400> 90

Leu Ala Ser Asn Arg Glu Val Arg Gly Pro Gly Pro Gly Thr Pro Arg
1 5 10 15
Asn Arg Pro Leu Leu Pro Leu Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu
20 25 30
Pro Ala Ser Ala Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr
35 40 45
Val Gly Arg Ala Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr
50 55 60
Gln Trp Arg Arg Ala Leu Gly Gly Ala Ala Gly Pro Leu Ser Arg Leu
65 70 75 80
Pro Gly Pro Val Ala Arg Gly Ala Leu Leu Leu Pro Ser Ser Gly Gln
85 90 95
Glu Leu Trp Glu Val Arg Ser Arg Ser Ser Pro Ala Gly Leu Pro Val
100 105 110
His Ala Pro Trp Ser Pro Arg Asp Leu Glu Gly Val Arg Gln Pro Glu
115 120 125
Gln Ser Leu Ser Leu His Ser Trp Ile Ser Glu Glu Pro Ala Ala Arg
130 135 140
Ala Phe Gly Glu Thr Leu Arg Ala Gln Pro Trp Phe Leu Gln Gln Val
145 150 155 160

Ile Phe Ala Asp Pro Val Arg Pro Lys Asn Arg-Trp Arg Pro His Ala
 165 170 175 176

<210> 91
 <211> 23
 <212> PRT
 <213> Mouse

<400> 91
 Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala
 1 5 10 15
 Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu
 20 23

<210> 92
 <211> 30
 <212> PRT
 <213> Mouse

<400> 92
 Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala
 1 5 10 15
 Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Gln Trp
 20 25 30

<210> 93
 <211> 69
 <212> DNA
 <213> Mouse

<400> 93.

tggtataagc acgtggcgag tccccgctat cacacagtgg gtcgtgccctc cgggctgctc 60
atggggctg 69

<210> 94

<211> 90

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 94

tggtataagc acgtggcgag tccccgctat cacacagtgg gtcgtgccctc cgggctgctc 60
atggggctgc gccgtcgcc ctaccagtgg 90

<210> 95

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 21st position means Met(0)

<223>

<400> 95

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Xaa Gly Leu

20 23

<210> 96

特2001-403260

<211> 22

<212> PRT

<213> Human

<400> 96

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly

20 22

<210> 97

<211> 21

<212> PRT

<213> Human

<400> 97

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met

20 21

<210> 98

<211> 20

<212> PRT

<213> Human

<400> 98

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu

20

<210> 99

<211> 19

<212> PRT

<213> Human

<400> 99

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1

5

10

15

Ala Gly Leu

19

<210> 100

<211> 18

<212> PRT

<213> Human

<400> 100

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1

5

10

15

Ala Gly

18

<210> 101

<211> 17

<212> PRT

<213> Human

<400> 101

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala

17

<210> 102

<211> 16

<212> PRT

<213> Human

<400> 102

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15 16

<210> 103

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 21st position means Met(0)

<223>

<400> 103

Trp Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Xaa Gly Leu

20

23

特2001-403260

<210> 104

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 21st position means Met(0)

<223>

<400> 104

Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ser Gly Leu Leu Xaa Gly Leu

20 23

<210> 105

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 1st position means Fmoc Trp

<223>

<400> 105

Xaa Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

20 23

<210> 106

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 1st position means Ac Trp

<223>

<400> 106

Xaa Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1

5

10

15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

20

23

<210> 107

<211> 22

<212> PRT

<213> Human

<400> 107

Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala

1

5

10

15

Gly Leu Leu Met Gly Leu

20

22

<210> 108

<211> 20

<212> PRT

<213> Human

<400> 108

His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu

1 5 10 15

Leu Met Gly Leu

20

<210> 109

<211> 15

<212> PRT

<213> Human

<400> 109

Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

1 5 10 15

<210> 110

<211> 9

<212> PRT

<213> Human

<400> 110

Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

1 5 9

<210> 111

<211> 22

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 1st position means Ac Tyr

<223>

<400> 111

Xaa Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala

1 5 10 15

Gly Leu Leu Met Gly Leu

20 22

<210> 112

<211> 23

<212> PRT

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 1st position means DTrp

<223>

<400> 112

Xaa Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala

1 5 10 15

Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu

20 23

<210> 113

<211> 22

<212> PRT

<213> Human

<213> Artificial Sequence

<220> Xaa on the 1st position means 3-Indolepropanoyl Tyr

<223>

<400> 113

Xaa Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala

1

5

10

15

Gly Leu Leu Met Gly Leu

20

22

<210> 114

<211> 66

<212> DNA

<213> Human

<400> 114

tggtacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atgggg

66

<210> 115

<211> 63

<212> DNA

<213> Human

<400> 115

tggtacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggtgg gccgcgccgc tggcctgctc 60

atg

63

<210> 116

<211> 60

<212> DNA

<213> Human

<400> 116

tggtacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggagg gccgcgccgc tggcctgctc 60

<210> 117

<211> 57

<212> DNA

<213> Human

<400> 117

tggtacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggagg gccgcgccgc tggcctg 57

<210> 118

<211> 54

<212> DNA

<213> Human

<400> 118

tggtacaagc acgtggcgag tccccgctac cacacggagg gccgcgccgc tggc 54

<210> 119

<211> 51

<212> DNA

<213> Human

<400> 119

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggtag gccgcgcc t 61

<210> 120

<211> 48

<212> DNA

<213> Human

<400> 120

tggtacaagc acgtggcgag tccccgtac cacacggtag gccgcgcc 48

<210> 121

<211> 66

<212> DNA

<213> Human

<400> 121

tacaagcagc iggcgagtc ccgctaccac acggtgggcc gcgccgtag ccgtctcag 60

ggcctg 66

<210> 122

<211> 60

<212> DNA

<213> Human

<400> 122

cacgtggcga gtccccgcta ccacacggtag gccgcgccg ctggcctgct catggggctg 60

<210> 123

<211> 45

<212> DNA

<213> Human

<400> 123

cgctaccaca cggiggccg cgcgcctggc cgcgcctgg ggctg

45

<210> 124

<211> 27

<212> DNA

<213> Human

<400> 124

cgcgcgcctg gcctgcctat ggggctg

27

<210> 125

<211> 51

<212> DNA

<213> Porcine

<400> 125

tggtacaagc acacggcgag tcccgcctac cacacggcgg gccgcgcgc g

51

<210> 126

<211> 329

<212> PRT

<213> Rat

<400> 126

Met His Asn Leu Ser Leu Phe Glu Pro Gly Arg Gly Asn Val Ser Cys

特2001-403260

5 10 15
Gly Gly Pro Phe Leu Gly Cys Pro Asn Glu Ser Asn Pro Ala Pro Leu
20 25 30
Pro Leu Pro Gln Pro Leu Ala Val Ala Val Pro Val Val Tyr Gly Val
35 40 45
Ile Cys Ala Val Gly Leu Ala Gly Asn Ser Ala Val Leu Tyr Val Leu
50 55 60
Leu Arg Thr Pro Arg Met Lys Thr Val Thr Asn Val Phe Ile Leu Asn
65 70 75 80
Leu Ala Ile Ala Asp Glu Leu Phe Thr Leu Val Leu Pro Ile Asn Ile
85 90 95
Ala Asp Phe Leu Leu Arg Arg Trp Pro Phe Gly Glu Val Met Cys Lys
100 105 110
Leu Ile Val Ala Val Asp Gln Tyr Asn Thr Phe Ser Ser Leu Tyr Phe
115 120 125
Leu Ala Val Met Ser Ala Asp Arg Tyr Leu Val Val Leu Ala Thr Ala
130 135 140
Glu Ser Arg Arg Val Ser Gly Arg Thr Tyr Gly Ala Ala Arg Ala Val
145 150 155 160
Ser Leu Ala Val Trp Ala Leu Val Thr Leu Val Val Leu Pro Phe Ala
165 170 175
Val Phe Ala Arg Leu Asp Glu Glu Gln Gly Arg Arg Gln Cys Val Leu
180 185 190
Val Phe Pro Gln Pro Glu Ala Phe Trp Trp Arg Ala Ser Arg Leu Tyr
195 200 205
Thr Leu Val Leu Gly Phe Ala Ile Pro Val Ser Thr Ile Cys Ala Leu
210 215 220
Tyr Ile Thr Leu Leu Cys Arg Leu Arg Ala Ile Gln Leu Asp Ser His
225 230 235 240

Ala Lys Ala Leu Asp Arg Ala Lys Lys Arg Val Thr Leu Leu Val Val
 245 250 255
 Ala Ile Leu Ala Val Cys Leu Leu Cys Trp Thr Pro Tyr His Leu Ser
 260 265 270
 Thr Ile Val Ala Leu Thr Thr Asp Leu Pro Gln Thr Pro Leu Val Ile
 275 280 285
 Gly Ile Ser Tyr Phe Ile Thr Ser Leu Ser Tyr Ala Asn Ser Cys Leu
 290 295 300
 Asn Pro Phe Leu Tyr Ala Phe Leu Asp Asp Ser Phe Arg Arg Ser Leu
 305 310 315 320
 Arg Gln Leu Val Ser Cys Arg Thr Ala
 325 329

<210> 127

<211> 987

<212> DNA

<213> Rat

<400> 127

aigcacaact igtcgtcttt cgagcciggg aggggcaalg lgttgcgg cggccattt 60
 ttgggcgtgc ctaacgagtc gaaccagcg ccctgccac tggcgagcc tctggcggtg 120
 gcagtgcctg tggctacgg ggtgatctgc gcggtgggac tggcgggcaa ctcgcggg 180
 ctgtacgtac tgcgtgcgcac gccgcgatg aagactgta ccaacgtgt cattctaac 240
 ctggttatcg cggacgagct ctacaccctc gtgctgcca tcaacatcg ggacttctg 300
 ctgaggcgct ggcccctcgg ggaagtcag tgaagctca tctggcgtg cgaccgtac 360
 aacactttct ctacgtctta ctctctgcc gcatgagcg cagaccgca cctggilgc 420
 ctggccacag ccgagtcgg ccgggtgicc gggcgactt atggtgcagc gcgggcgtg 480
 agtctggcgg tctggcgct ggtgacattg gtctgtctgc ctttgcggt attcgccgg 540
 ctggacgaag agcagggtcg ggcacagtc gtcgtggtt tcccgagcc tgaggcttc 600

tggiggcgcg ccagccgici glacacicia gllggggci tcgccatccc ggtgtccacc 660
 atcigcgccc tctatatac ccigtigtgc cgactgctg ctatceagci agacagccac 720
 gccaaagccc tggaccgtgc caagaagcgc gtagcttgt tggiggggc gatctggci 780
 gigtgcctcc tctgtggac accgtaccac ctagcacca tagtggcgci caccaccgac 840
 ctcrcgaaa caccgttgt catcggaic tctactica tcaccagcti gagctatgcc 900
 aacagctgcc tcaacccitt cctctatgcc ttcctggaag acagcttcg caggagccig 960
 cggcagctgg tctcatgcc cacagcc 987

<210> 128

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 128

actgatatgc acaacttgtc gctcttcg 28

<210> 129

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 129

actagttcag gctgtcggc atgacacc 28

<210> 130

<211> 19

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 130

gttggtggtg gcgattctg 19

<210> 131

<211> 19

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 131

tggtgagcgc cactatggt 19

<210> 132

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 132

gtccgcgatg ttgatgggca gcac 24

<210> 133

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 133

gaagagctca tcggcgatag ccag 24

<210> 134

<211> 440

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 134

taagcagtgg taacaacgca gagiaccggg gggcgcataa gcagtggtaa caacgcagag 60
tcaacgcgggg agtgcctggg tgcagatccc tgtaaacgtg ggcgcataaa cctcgagitt 120
cgcggggctg ctgagiggaa tccctggigt cgcctgcctt ccagccctct ccaagatgca 180
taacttaacg cttttcgagt ctggaggaga caacgtgtct tgcggcggct catctttggg 240
ctgtcccaac gggiccagcc tggctcctct gccgtgccg cagccactgg cggtagcagt 300
gccigtctg tacggggtaa tttgcgccgt gggactggct ggcaacictg cggigtctga 360
cgtactgtg cgcagccgc gcatgaagac tgtcaccaac gtgtcatcc tcaacctggc 420

tatcgccgat gagctcttca

440

<210> 135

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 135

tttcgcgggg ctgctgagtg gaat 24

<210> 136

<211> 24

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 136

agtgcigcct gcggtggaaa gagg 24

<210> 137

<211> 1083

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 137

```

tttcgcgggg ctgctgagtg gaatcctggg gglegccigc tctccagccc tctccaagat 60
gcataactta aegcttttcg agtctggagg ggacaacglg lcttgcggcg gctcatcttt 120
gggctgtccc aacgggtcca gectggctcc tctgccgtcg cgcagccac tggcggtagc 180
agtgcctgtc gctacgggg taatttgcgc cgtgggactg gctggcaact ctgcggtgct 240
gtacgtactg ctgcgcacgc cgcgcatgaa gactgtcacc aacgtgtica tcttcaacct 300
ggctatgcc gatgagctct tcacctcgt gctgccatc aacatcgcg acttctctgt 360
gaggcgctgg ccttcgggg aggtcatgig caagctcatt gtgcccgtcg accagtacaa 420
cacttctct agccttact tctcgccgt catgagcgcc gaccgatacc tgggtgttct 480
ggccacagca gactgcgcc ggtgtccgg gcgcacitac ggtgcagcgc gtgctgtcag 540
tctggcggtg tgggcgcgg tgacgtggt cgtgtgcce ttgcggtat tgcctcggt 600
ggacgaggag cagggtcgg gccagtgcgt gctggtctt cgcagcccg aggccttctg 660
gtggcgigcc agcgtctct acacactagt attgggttt gccatcccg tgaccaccat 720
ctgtctctc tataccactc tgcctgcgc actgcgigt atccagctag atagccacgc 780
caagccctg gatcgigcca agaagcgct gacctgttg gtggcgga tctggctgt 840
gtgcccttc tgcggacgc ctatcacct gactaccata gtggccctca ccaccacct 900
cccgaacg ccgtgtgtc tggcatctc ttacttcat accagcctga gctatgtaa 960
cagctgcctc aacctttcc tctatgcct cctggacgac agcttcgca gaagcctccg 1020
gcaattggtg tcatgcggt cagcctgaig cctttccac ctctttccac cgcaggcagc 1080
act 1083

```

<210> 138

<211> 329

<212> PRT

<213> Mouse

<400> 138

Met His Asn Leu Thr Leu Phe Glu Ser Gly Gly Asp Asn Val Ser Cys

5

10

15

特 2 0 0 1 - 4 0 3 2 6 0

Gly Gly Ser Ser Leu Gly Cys Pro Asn Gly Ser Ser Leu Ala Pro Leu
20 25 30
Pro Leu Pro Gln Pro Leu Ala Val Ala Val Pro Val Val Tyr Gly Val
35 40 45
Ile Cys Ala Val Gly Leu Ala Gly Asn Ser Ala Val Leu Tyr Val Leu
50 55 60
Leu Arg Thr Pro Arg Met Lys Thr Val Thr Asn Val Phe Ile Leu Asn
65 70 75 80
Leu Ala Ile Ala Asp Glu Leu Phe Thr Leu Val Leu Pro Ile Asn Ile
85 90 95
Ala Asp Phe Leu Leu Arg Arg Trp Pro Phe Gly Glu Val Met Cys Lys
100 105 110
Leu Ile Val Ala Val Asp Gln Tyr Asn Thr Phe Ser Ser Leu Tyr Phe
115 120 125
Leu Ala Val Met Ser Ala Asp Arg Tyr Leu Val Val Leu Ala Thr Ala
130 135 140
Glu Ser Arg Arg Val Ser Gly Arg Thr Tyr Gly Ala Ala Arg Ala Val
145 150 155 160
Ser Leu Ala Val Trp Ala Leu Val Thr Leu Val Val Leu Pro Phe Ala
165 170 175
Val Phe Ala Arg Leu Asp Glu Glu Gln Gly Arg Arg Gln Cys Val Leu
180 185 190
Val Phe Pro Gln Pro Glu Ala Phe Trp Trp Arg Ala Ser Arg Leu Tyr
195 200 205
Thr Leu Val Leu Gly Phe Ala Ile Pro Val Thr Thr Ile Cys Ala Leu
210 215 220
Tyr Thr Thr Leu Leu Cys Arg Leu Arg Ala Ile Gln Leu Asp Ser His
225 230 235 240
Ala Lys Ala Leu Asp Arg Ala Lys Lys Arg Val Thr Leu Leu Val Ala

特2001-403260

245 250 255
Ala Ile Leu Ala Val Cys Leu Leu Cys Trp Thr Pro Tyr His Leu Ser
260 265 270
Thr Ile Val Ala Leu Thr Thr Asp Leu Pro Gln Thr Pro Leu Val Ile
275 280 285
Gly Ile Ser Tyr Phe Ile Thr Ser Leu Ser Tyr Ala Asn Ser Cys Leu
290 295 300
Asn Pro Phe Leu Tyr Ala Phe Leu Asp Asp Ser Phe Arg Arg Ser Leu
305 310 315 320
Arg Gln Leu Val Ser Cys Arg Ser Ala
325 329

<210> 139

<211> 987

<212> DNA

<213> Mouse

<400> 139

aigcataact taacgctttt cgagctctgga ggggacaacg tgtcttgcgg cggctcaict 60
tigggtctgc ccaacgggtc cagcctggct cctctgccgc tgcgcagcc actggcggta 120
gcagtgccgt tctctacgg ggttaattgc gccggggac tggctggcaa ctctgcggtg 180
ctgtacgtac tgcctgcac gccggcatg aagacigtca ccaacgigt catctcaac 240
ctggctatcg ccgatgagct ctacccctc gtctgccc tcaacatgc ggacttctg 300
ctgaggcgct ggccttcgg ggaggcatg tgcaagctca ttgtagccgt cgaccagiac 360
aacatttct ctagcctcta ctctctgcc gtcatgagcg ccgaccgata cctggtggtt 420
ctggccacag cagagtcgc ccgggtgtcc gggcgactt acggtgcagc gcgtgcigtc 480
agtctggcgg tggggcgct ggtagcgtg gtctgtctgc ccttgcggt attcgtcgg 540
ctggacgagg agcagggtcg gccccagtc gtcttggtct tccgcagcc cgaggccctc 600
tggtagcggt ccagccgtct ctacacacta gtattgggt ttgccatccc ggtgaccacc 660

atctgtgtc tctataccac tctgtctgc cgactgcgtg ctatccagct agatagccac 720
 gccaaagccc tggatcgtgc caagaagcgc glgaccilgl tgglggcggc gattciggct 780
 gtgtgectcc tctgtcggac gccttatcac ctgagtacca tagiggecct caccaccgac 840
 ctcccgcaaa cgccgtggt catoggcatc tcttacttca tcaccagcct gagctatgct 900
 aacagctgcc tcaacccttt cctctatgcc ttctggacg acagcttccg cagaagcctc 960
 cggcaallgg tgtcatgccg ttcagcc 987

<210> 140

<211> 27

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Probe

<400> 140

ttctctgtc gacacgtac cacciga 27

<210> 141

<211> 32

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 141

atcgatatgg acaacgccic gtctcggag cc 32

<210> 142

<211> 32

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 142

actagigica ggctgccgcg cggcaagtta tc 32

<210> 143

<211> 1000

<212> DNA

<213> Human

<400> 143

atcgatatgg acaacgcctc gtctcggag ccttggcccg ccaacgcac gggcccgga 60
ccggcgctga gctgtccaa cggctgact ctggcgccgc tggcgcgcc gctggcggg 120
gctgtaccag ttgtctacgc ggtagctgc gccgtgggc tggcgggcaa ctccgccgtg 180
ctgtacgtgt tgcgtgggc gccccgaig aagaccgtca ccaacctgtt catcccaac 240
ctggccatcg ccgacgagct ctacacgtg gtgtgcccc tcaacatgc cgacttctg 300
ctgcggcagt ggccttcgg ggagctcatg tgcaagcica tctggctat cgaccagtac 360
aacacctct ccagcctcta ctcttcacc gtcatgagcg ccgaccgta ccgtgtgtg 420
ttggccactg cggagtcgc cgggtggcc ggccgcacct acagcgccgc gcgcgcggg 480
agcctggccg tgtggggat cgtcacactc gtctgtctc ccttcgcagt ctccgccgg 540
ctagacgacg agcagggccg gcgccagtgc gtgctagct ttcgcagcc cgaggcctt 600
tggtggcgcg cgagccgct ctacacgtc gtgtgggt tcgccatcc cgtgtccacc 660
atctgtgtc tctataccac cctgtgtgc cggctgatg ccatgcggt ggacagccac 720
gccaaggccc tggagcggc caagaagcgg gtgaccttc tgggtgggc aatcctggc 780
gtgtgcctc tctgtggac gccctaccac ctgagaccg tgggtggct caccaccga 840
ctccgcaga cgcgctgtt catcgtatc tctacttca tcaccagct gagctacgc 900
aacagctgc tcaaccctt cctctacgc ttcctggac ccagcttcc caggaacct 960
cgccagctga taacttgcg cgcggcagcc tgacactagt 1000

<210> 144

<211> 328

<212> PRT

<213> Human

<400> 144

Met Asp Asn Ala Ser Phe Ser Glu Pro Trp Pro Ala Asn Ala Ser Gly
 1 5 10 15
 Pro Asp Pro Ala Leu Ser Cys Ser Asn Ala Ser Thr Leu Ala Pro Leu
 20 25 30
 Pro Ala Pro Leu Ala Val Ala Val Pro Val Val Tyr Ala Val Ile Cys
 35 40 45
 Ala Val Gly Leu Ala Gly Asn Ser Ala Val Leu Tyr Val Leu Leu Arg
 50 55 60
 Ala Pro Arg Met Lys Thr Val Thr Asn Leu Phe Ile Leu Asn Leu Ala
 65 70 75 80
 Ile Ala Asp Glu Leu Phe Thr Leu Val Leu Pro Ile Asn Ile Ala Asp
 85 90 95
 Phe Leu Leu Arg Gln Trp Pro Phe Gly Glu Leu Met Cys Lys Leu Ile
 100 105 110
 Val Ala Ile Asp Gln Tyr Asn Thr Phe Ser Ser Leu Tyr Phe Leu Thr
 115 120 125
 Val Met Ser Ala Asp Arg Tyr Leu Val Val Leu Ala Thr Ala Glu Ser
 130 135 140
 Arg Arg Val Ala Gly Arg Thr Tyr Ser Ala Ala Arg Ala Val Ser Leu
 145 150 155 160
 Ala Val Trp Gly Ile Val Thr Leu Val Val Leu Pro Phe Ala Val Phe
 165 170 175
 Ala Arg Leu Asp Asp Glu Gln Gly Arg Arg Gln Cys Val Leu Val Phe
 180 185 190

特 2 0 0 1 - 4 0 3 2 6 0

Pro Gln Pro Glu Ala Phe Trp Trp Arg Ala Ser Arg Leu Tyr Thr Leu
195 200 205
Val Leu Gly Phe Ala Ile Pro Val Ser Thr Ile Cys Val Leu Tyr Thr
210 215 220
Thr Leu Leu Cys Arg Leu His Ala Met Arg Leu Asp Ser His Ala Lys
225 230 235 240
Ala Leu Glu Arg Ala Lys Lys Arg Val Thr Phe Leu Val Val Ala Ile
245 250 255
Leu Ala Val Cys Leu Leu Cys Trp Thr Pro Tyr His Leu Ser Thr Val
260 265 270
Val Ala Leu Thr Thr Asp Leu Pro Gln Thr Pro Leu Val Ile Ala Ile
275 280 285
Ser Tyr Phe Ile Thr Ser Leu Ser Tyr Ala Asn Ser Cys Leu Asn Pro
290 295 300
Phe Leu Tyr Ala Phe Leu Asp Ala Ser Phe Arg Arg Asn Leu Arg Gln
305 310 315 320
Leu Ile Thr Cys Arg Ala Ala Ala
325 328

<210> 145

<211> 32

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 145

atcgataatgg acaacgccctc gtctcggag cc 32

<210> 146

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 146

tagaggctgg agaaggtgtt g 21

<210> 147

<211> 21

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 147

catgaagacc gtcaccaacc t 21

<210> 148

<211> 19

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Primer

<400> 148

ccagcgtgaa gagctcgtc 19

<210> 149

<211> 23

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Probe

<400> 149

ttcatccctca acciggccat cgc 23

【図面の簡単な説明】

【図1】 Wakosil-II 3C18HGカラムを用いたGPR8リガンドの最終段階の精製におけるHPLCのUV吸収と各ピークのGTP γ S活性を示す。活性は矢印に示すピークに回収された。

【図2】 種々の濃度の23残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのCHO/GPR8細胞膜面分に対するGTP γ S結合促進活性を示す。

【図3】 種々の濃度の30残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのCHO/GPR8細胞膜面分に対するGTP γ S結合促進活性を示す。

【図4】 種々の濃度の23残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのCHO/GPR8細胞に対するcAMP産生抑制活性を示す。

【図5】 種々の濃度の30残基のGPR8リガンドペプチドのヒトホモログのCHO/GPR8細胞に対するcAMP産生抑制活性を示す。

【図6】 GPR8リガンドペプチドのヒトホモログ前駆体蛋白質cDNAの全塩基配列およびそれから翻訳されるGPR8リガンドペプチドのヒトホモログ前駆体受容体蛋白質の全アミノ酸配列を示す。予想される23残基のGPR8リガンドのヒトホモログペプチドの配列を四角で示す。

【図7】 GPR8リガンドペプチドのブタホモログ前駆体蛋白質cDNAの全塩基配列およびそれから翻訳されるGPR8リガンドペプチドのブタホモログ前駆体受容体蛋白質の全アミノ酸配列を示す。予想される23残基のGPR8リガンドのブタホモログペプチドの配列を四角で示す。

【図8】 GPR8リガンドペプチドのラットホモログ前駆体蛋白質cDNAの全塩基配列およびそれから翻訳されるGPR8リガンドペプチドのラットホモログ前駆体受容体蛋白質の全アミノ酸配列を示す。予想される23残基のGPR8リガンドのラットホモログペプチドの配列を四角で示す。

【図9】 GPR8リガンドペプチドのマウスホモログ前駆体蛋白質cDNAの全塩基配列およびそれから翻訳されるGPR8リガンドペプチドのマウスホモログ前駆体受容体蛋白質の全アミノ酸配列を示す。予想される23残基のGPR8リガンドのマウスホモログペプチドの配列を四角で示す。

【図10】 ヒトGPR8発現CHO細胞から調製した細胞膜画分を用いた、 $[^{125}\text{I}]$ で標識した23残基のヒトGPR8リガンドに対する23残基のヒトGPR8リガンドの結合阻害活性を示す図を示す。

【図11】 TGR26の疎水性プロット図である。

【図12】 hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)のCHO/TGR26細胞に対するcAMP産生抑制活性を示す図である。図中、-○-は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、-△-は、hGPR8L(1-30)を投与した場合を示す。

【図13】 hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)のCHO/TGR26細胞膜画分に対するGTP γ S結合促進活性を示す図である。図中、-○-は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、-△-は、hGPR8L(1-30)を混合した場合を示す。

【図14】 $[^{125}\text{I}]$ で標識した23残基のヒトGPR8リガンドのTGR26発現CHO細胞から調製した細胞膜画分への結合に対する種々の濃度のhGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)の結合阻害活性を示す図を示す。図中、-○-は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、-△-は、hGPR8L(1-30)を投与した場合を示す。

【図15】 種々の濃度の23残基および30残基のGPR8リガンドペプチドヒトホモログのCHO/GPR7細胞に対するcAMP産生抑制活性を示す。図中、-●-は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、-■-は、hGPR8L(1-30)を投与した場合を示す。

【図16】 $[^{125}\text{I}]$ で標識した23残基のヒトGPR8リガンドのヒトGPR7発現CHO細胞から調製した細胞膜画分への結合に対する種々の濃度のhGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)の結合阻害活性を示す図を示す。図中、-●-は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、-■

—は、hGPR8L(1-30)を投与した場合を示す。

【図17】 hGPR8L(1-23)およびhGPR8L(1-30)のCHO/GPR7細胞膜面分に対するGTP γ S結合促進活性を示す図である。図中、—●—は、hGPR8L(1-23)を投与した場合を、—■—は、hGPR8L(1-30)を投与した場合を示す。

【図18】 皮下に持続投与したhGPR8L(1-23)のラットの明期での摂餌量に対する作用を示す。図中、□はvehicle群を、■は、hGPR8L(1-23)群を示す。

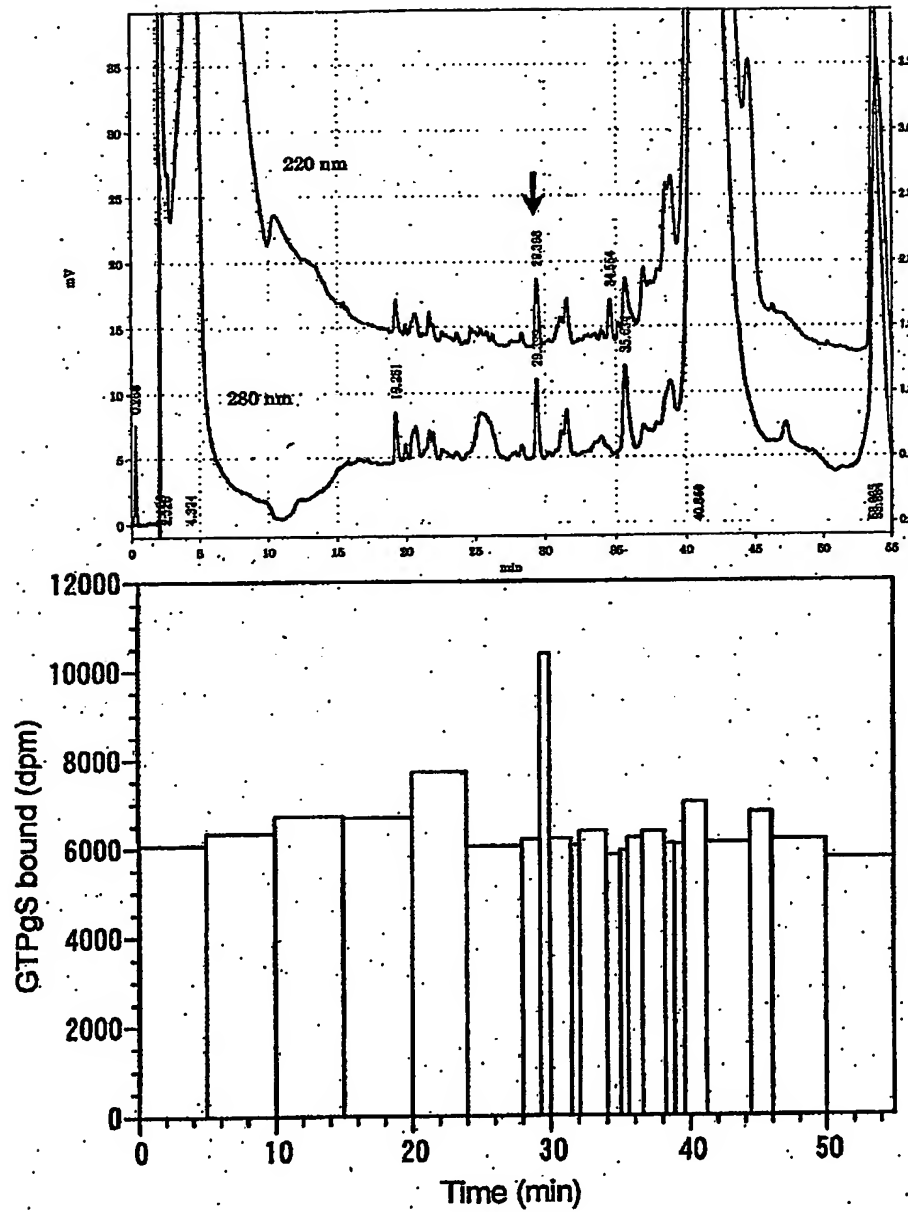
【図19】 皮下に持続投与したhGPR8L(1-23)のラットの暗期での摂餌量に対する作用を示す。図中、□はvehicle群を、■は、hGPR8L(1-23)群を示す。

【図20】 皮下に持続投与したhGPR8L(1-23)のラットの1日の摂餌量に対する作用を示す。図中、□はvehicle群を、■はhGPR8L(1-23)群を示す。

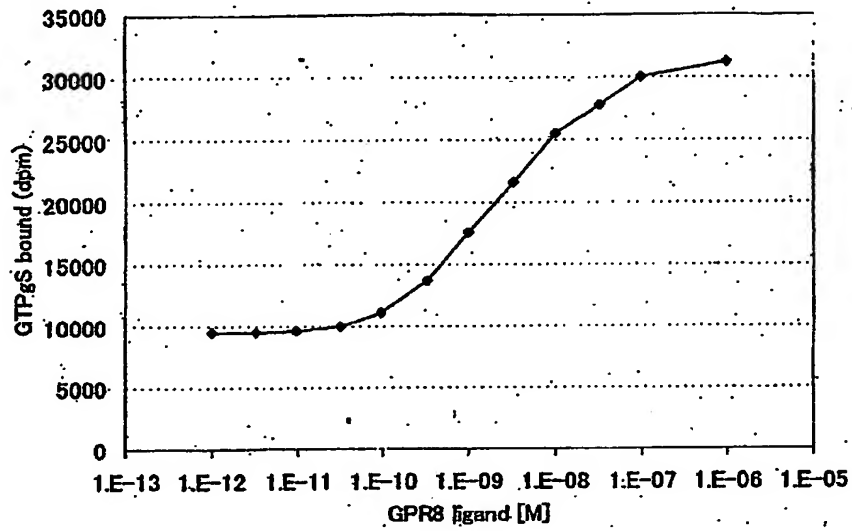
【図21】 皮下に持続投与したhGPR8L(1-23)のラットの体重増加に対する作用を示す。図中、—○—はvehicle群を、—□—はhGPR8L(1-23)群を示す。

【書類名】 図面

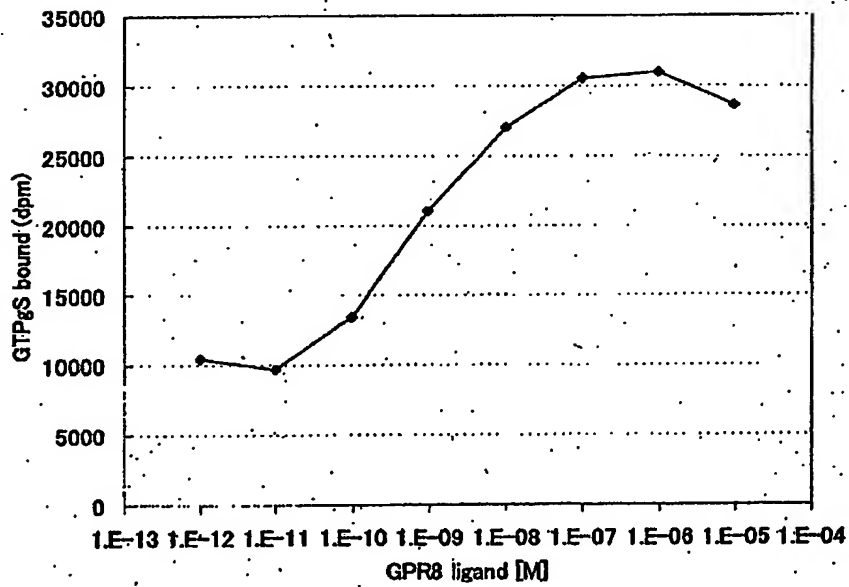
【図1】



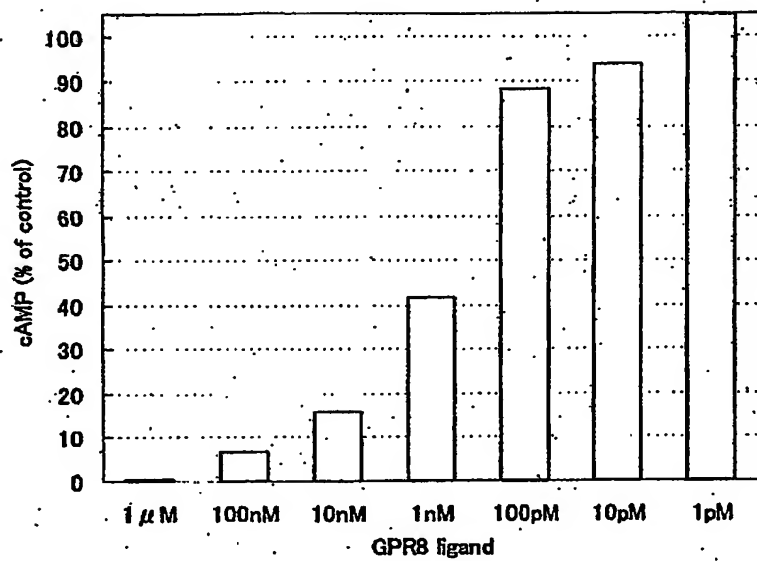
【図 2】



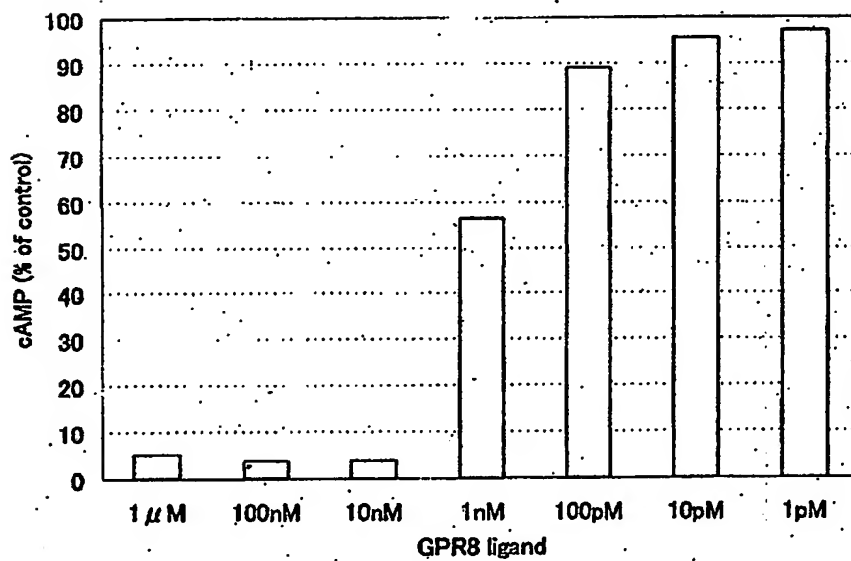
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図6】

GGC GGG GGC ACC GAG CGG TTA TAG CTG GGC CTG CAG GGG ACC	42
CAC GGC TCG CCT CCA GCC TCC TGC GCT CCG GTA CCT GGG CGT CCC AAC TCC ACT GCG CGC	102
CCA AAC CCA GGC GAG CCG GTT CGT GGC CCG CCC CGC GCG GCC GTC GAC GCG AGC GCC	162
CTG GCG TGG CCG CCA GGG GAG CCG GGG GCT CCC GCG AGC CCG CCG CCG CTG GCA CTG CTG	222
Leu Ala Trp Arg Pro Gly Glu Arg Gly Ala Pro Ala Ser Arg Pro Arg Leu Ala Leu Leu	20
CTG CTT CTG CTC CTG CTG CCG CTG CCC TCC GGC GCG TGG TAC AAG CAC GTG GCG AGT CCC	282
Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ser Gly Ala Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro	40
CGC TAC CAC ACG GTG GGC CCG GCC GCT GGC CTG CTC ATG GGG CTG CGT CCG TCA CCC TAT	342
Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr	60
CTG TGG CCG CCG GCG CTG CCG GCG GCC GCC GGG CCC CTG GCC AGG GAC ACC CTC TCC CCC	402
Leu Trp Arg Arg Ala Leu Arg Ala Ala Ala Gly Pro Leu Ala Arg Asp Thr Leu Ser Pro	80
GAA CCC GCA GCC CCG GAG GCT CCT CTC CTG CTG CCC TCG TGG GTT CAG GAG CTG TGG GAG	462
Glu Pro Ala Ala Arg Glu Ala Pro Leu Leu Leu Pro Ser Trp Val Gln Glu Leu Trp Glu	100
ACG CGA CCG AGG AGC TCC CAG GCA GGG ATC CCC GTC CGT GCG CCC CCG AGC CCG CCG GCC	522
Thr Arg Arg Arg Ser Ser Gln Ala Gly Ile Pro Val Arg Ala Pro Arg Ser Pro Arg Ala	120
CCA GAG CTT GCG CTG GAA CCG GAG TCC CTG GAC TTC AGC GGA GCT GGC CAG AGA CTT CCG	582
Pro Glu Pro Ala Leu Glu Pro Glu Ser Leu Asp Phe Ser Gly Ala Gly Gln Arg Leu Arg	140
AGA GAC GTC TCC CCG CCA GCG GTG GAC CCC GCA GCA AAC CCG CTT GGC CTG CCC TGC CTG	642
Arg Asp Val Ser Arg Pro Ala Val Asp Pro Ala Ala Asn Arg Leu Gly Leu Pro Cys Leu	160
GCC CCC GGA CCG TTC TGA CAG CGT CCC CCG CCC GCG CGT GGC GCC TCC GCG CCT GAC CCA	702
Ala Pro Gly Pro Phe ***	165
GGA GGA GTG GCC GCG CG	719

【図7】

CC TCC GGA GCC AGT TCC TGG TCC GCC CCG CCG GGA GCC GTC AGC	44
ATG AAC CCC CCG GCA CCG GGC ATG GGA GCG CCG GGC CCG GGA CCG GGG GCC ACT GCG AGG	104
Met Asn Pro Arg Ala Arg Gly Met Gly Ala Arg Gly Pro Gly Pro Gly Ala Thr Ala Arg	20
CGC CCG CTG CTG GCA TTG CTG TTA CTG CTG CTG CTG CCG CTG CCC GCC CGT GCC TGG	164
Arg Arg Leu Leu Ala Leu Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ala Arg Ala Trp	40
TAC AAG CAC ACG GCG AGT CCC CCG TAC CAC ACG GTG GGC CCG GCC GCG GGC CTG CTC ATG	224
Tyr Lys His Thr Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ala Gly Leu Leu Met	60
GGG CTG CCG CCG TCG CCG TAC ATG TGG CCG CCG CCG CTG CCG CCG GCG GCC GGG CCC CTG	284
Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Met Trp Arg Arg Ala Leu Arg Pro Ala Ala Gly Pro Leu	80
GCC TGG GAC ACT TTC GGC CAG GAC GTG CCG CCT CCG GGA CCG TCC GCC AGG AAC GCC CTC	344
Ala Trp Asp Thr Phe Gly Gln Asp Val Pro Pro Arg Gly Pro Ser Ala Arg Asn Ala Leu	100
TCT CCG GGG CCC GCC CCT CCG GAC GCT CCG CTG CTT CCC CCC GGG GTT CAG ACA CTG TGG	404
Ser Pro Gly Pro Ala Pro Arg Asp Ala Pro Leu Leu Pro Pro Gly Val Gln Thr Leu Trp	120
CAG GTG CGA CCG GGA AGC TTC CCG TCC GGG ATC CCG GTC AGT GCG CCC CCG AGC CCG CCG	464
Gln Val Arg Arg Gly Ser Phe Arg Ser Gly Ile Pro Val Ser Aal Pro Arg Ser Pro Arg	140
GCC CCG GGG TCC GAG CCG CAA CCG GAA TTG GGC GCC TCT TCC TGG ACC TCG GCG GAG TAG	524
Ala Arg Gly Ser Gln Pro Gln Pro Glu Leu Gly Ala Ser Ser Trp Thr Ser Ala Glu ***	160
ACC AGA GCC TTC GGA GAG TCT TCA GCT CAG CCG TGG TCT GC	565

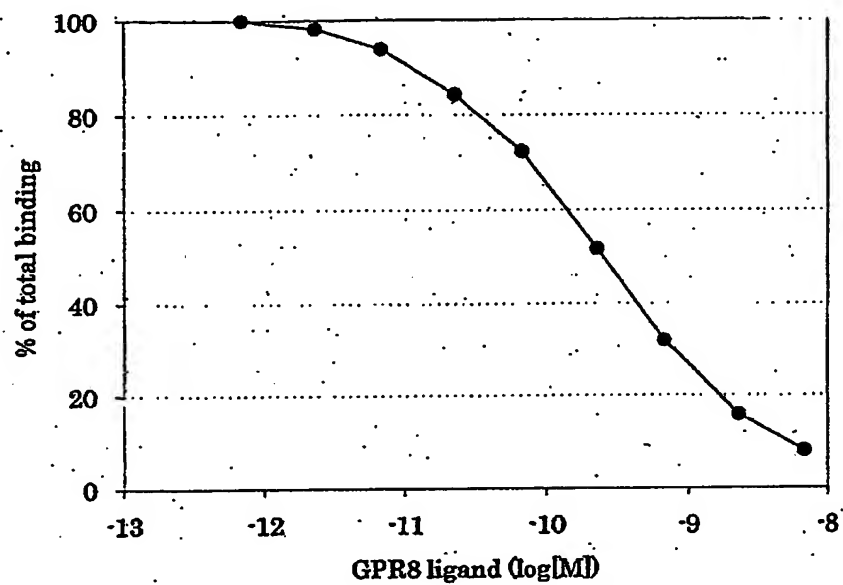
【图 8】

TGT AGT CGC ACC AAC TGA CTA GTC TCT TCC ATC CTC	36
CGG AGC TCC GAC GTT CTC GGG GAC ATA AAC CCT GTT CTT GTC CTA ACC CGC CAA GGG GCC	96
ATG GAC TTG AGC GCG CTG GCG TCG AGC AGA GAA GTA CGG GGC CCT GGG CCC GGG GCT CCG	156
Met Asp Leu Ser Ala Leu Ala Ser Ser Arg Glu Val Arg Gly Pro Gly Pro Gly Ala Pro	20
GTG AAC CGG CCC CTG CTA CCG GTA CTG CTG CTT CTG CTC TTG CTA CCT CTG CCC GCC AGC	216
Val Asn Arg Pro Leu Leu Pro Leu Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ala Ser	40
CGC TGG TAC AAG CAC GTG GCG AGC CCT CGC TAT CAC ACA GTG GGT CGT GCC TCC GGG CTG	276
Ala Trp Tyr Lys His Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ser Gly Leu	60
CTC ATG GGG CTG CGC CGC TCG CCC TAC CTG TGG CGC CGT GCC TTG GGT GGG GCC GCT GGA	336
Leu Met Gly Leu Arg Arg Ser Pro Tyr Leu Trp Arg Arg Ala Leu Gly Gly Ala Ala Gly	80
CCG CTC GTG GGG CTC CCG GGA CAG ATG GCC CGC AGC GCT CTC CTG CTT CCT TCC CCC GGG	396
Pro Leu Val Gly Leu Pro Gly Gln Met Ala Arg Ser Ala Leu Leu Leu Pro Ser Pro Gly	100
CAG GAG CTG TGG GAG GTA CGA AGC AGG AGT TCA CCG GCA GGA CTT CCC GTG CAT GCA ACC	456
Gln Glu Leu Trp Glu Val Arg Ser Arg Ser Ser Pro Ala Gly Leu Pro Val His Ala Thr	120
CGG AGT CTG CGG GAC CTG GAG GGA GCC GGC CAA CCT GAG CAG TCG CTA AGC TTT CAG TCC	516
Arg Ser Leu Arg Asp Leu Glu Gly Ala Gln Gln Pro Glu Gln Ser Leu Ser Phe Gln Ser	140
TGG ACT TCA GCA GAG CCC GCT GCT AGA GCC TTC GGT GAG ACG CTT CGT GCC CAG CCA TGG	576
Trp Thr Ser Ala Glu Pro Ala Ala Arg Ala Phe Gly Glu Thr Leu Arg Ala Gln Pro Trp	160
TTC CTG CAG CAA ATC ATC TTT GCC GAT CCT GTC AGG CTC GAC GAC CGT CTC AAG AAC CGA	636
Phe Leu Gln Gln Ile Ile Phe Ala Asp Pro Val Arg Leu Asp Asp Arg Leu Lys Asn Arg	180
TGG CGC CCC CGT GCT TGA CCT AAG CAG GAG CAC AGC TTG TAG CTC CAG	684
Trp Arg Pro Arg Ala ***	185

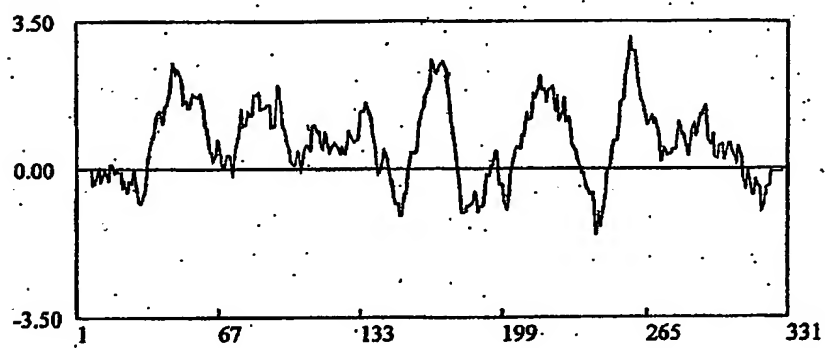
【図9】

TGA CTG GTC TCC ATC CTC TGG AGC TCC GAC GTG CTC GTT	39
CTC GGA GAC ATA AAC CCA GTT CTT GTC CTA ACC CTC CAA GGG GCA ATT GAC GTG AGC GCG	99
CTG GCG TCT AAC AGA GAA GTA CGG GGC CCT GGG CCC GGG ACT CCC AGG AAC CGG CCC CTG	159
Leu Ala Ser Asn Arg Glu Val Arg Gly Pro Gly Pro Gly Thr Pro Arg Asn Arg Pro Leu	20
CTG CCC CTG CTG CTG CTT CTG CTC TTG CTA CCG CTG CCC GCC AGC GCG TGG TAT AAG CAC	219
Leu Pro Leu Leu Leu Leu Leu Leu Leu Pro Leu Pro Ala Ser Ala Trp Tyr Lys His	40
GTG GCG AGT CCC CGC TAT CAC ACA GTG GGT CGT GCC TCC GGG CTG CTC ATG GCG CTG CGC	279
Val Ala Ser Pro Arg Tyr His Thr Val Gly Arg Ala Ser Gly Leu Leu Met Gly Leu Arg	60
CGC TCG CCC TAC CAG TGG CGC CGT GCC CTG GGC GGG GCT GCT GGA CCC CTC TCC CGG CTC	339
Arg Ser Pro Tyr Gln Trp Arg Arg Ala Leu Gly Gly Ala Ala Gly Pro Leu Ser Arg Leu	80
CCA GGA CGG GTC GCC CGC GGC GCT CTC CTG CTT CCT TCC TCA GGG CAG GAG CTG TGG GAG	399
Pro Gly Pro Val Ala Arg Gly Ala Leu Leu Leu Pro Ser Ser Gly Gln Glu Leu Trp Glu	100
GTA CGA AGC AGG AGC TCA CCT GCA GGG CTT CCC GTC CAT GCA CCC TGG AGT CCG CGG GAC	459
Val Arg Ser Arg Ser Ser Pro Ala Gly Leu Pro Val His Ala Pro Trp Ser Pro Arg Asp	120
CTG GAG GGA GTC CGC CAA CCG GAG CAG TCG CTA AGC CTT CAC TCC TGG ATC TCA GAG GAG	519
Leu Glu Gly Val Arg Gln Pro Glu Gln Ser Leu Ser Leu His Ser Trp Ile Ser Glu Glu	140
CCC GCT GCT AGA GCC TTC GGA GAG ACG CTT CGT GCC CAG CCA TGG TTC CTG CAG CAA GTC	579
Pro Ala Ala Arg Ala Phe Gly Glu Thr Leu Arg Ala Gln Pro Trp Phe Leu Glu Gln Val	180
ATC TTT GCC GAT CCT GTC AGG CCC AAG AAC CGA TGG CGC CCC CAT GCT TGA CCT AGG CAG	639
Ile Phe Ala Asp Pro Val Arg Pro Lys Asn Arg Trp Arg Pro His Ala ***	176
GAG CAC AGC TTG AAG CTC CA	659

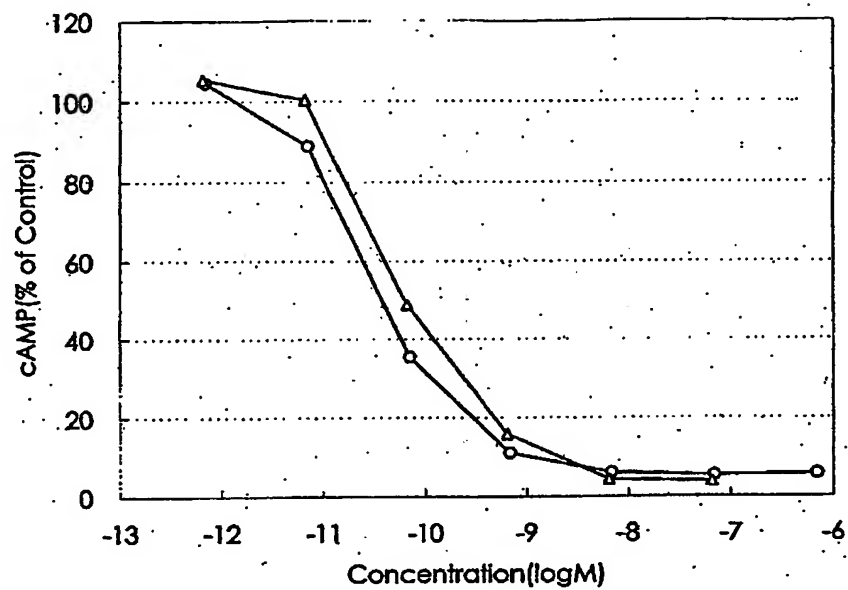
【図 10】



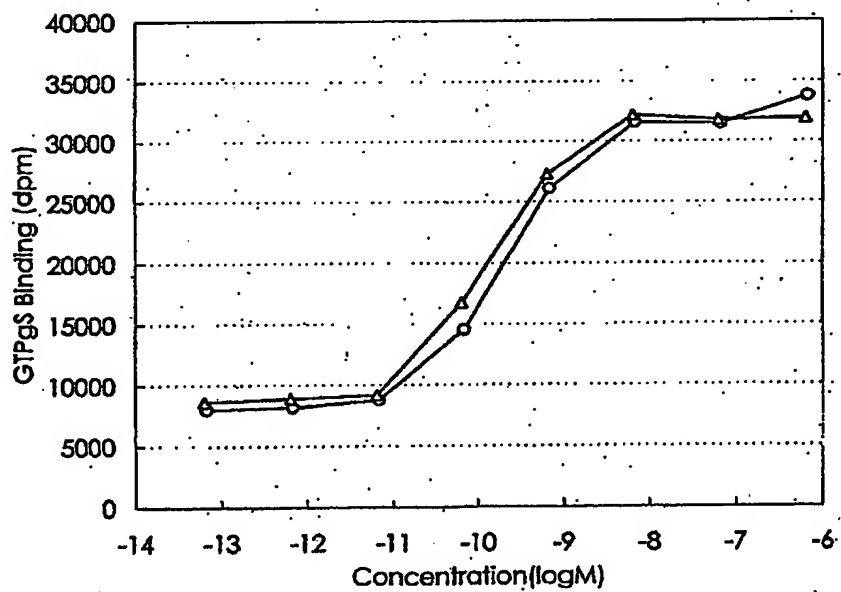
【図 11】



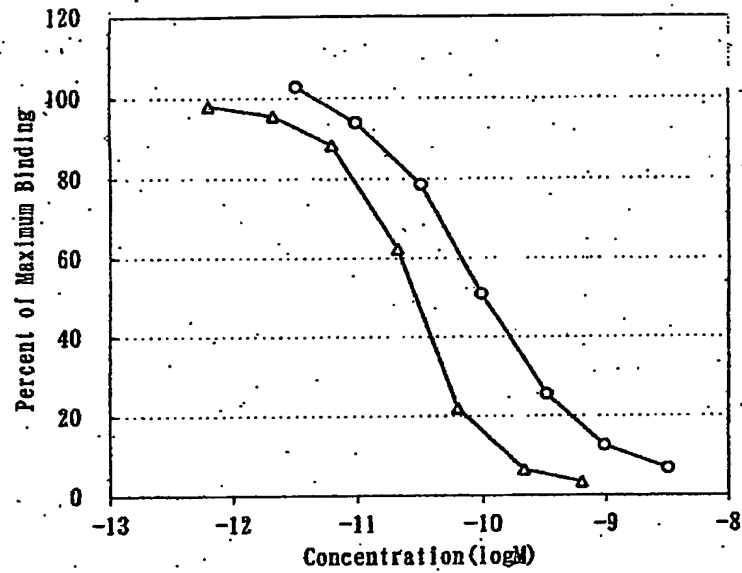
【図12】



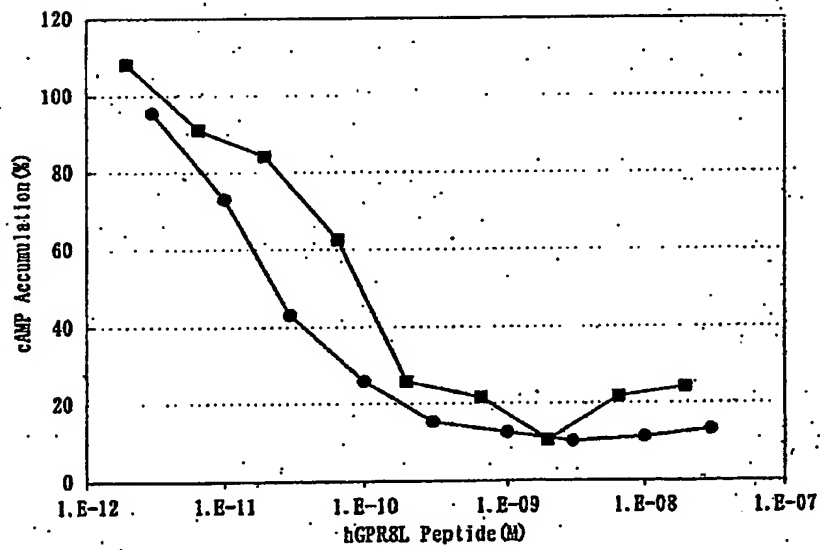
【図13】



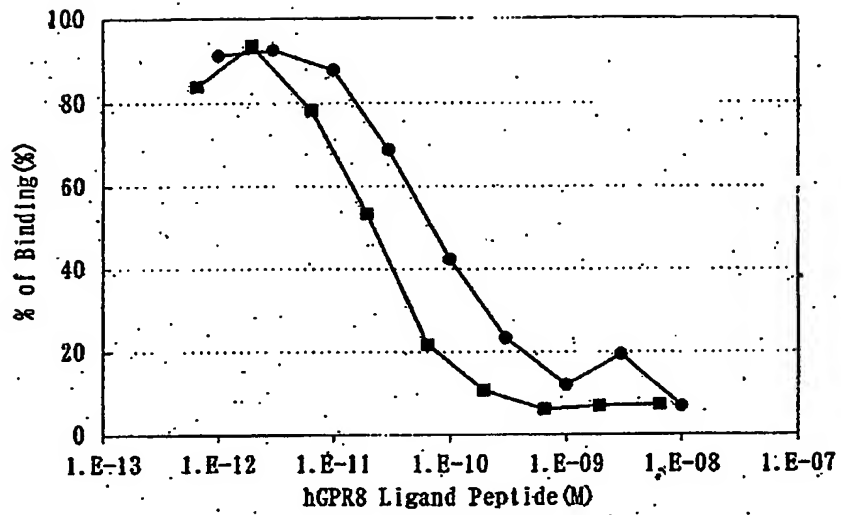
【図14】



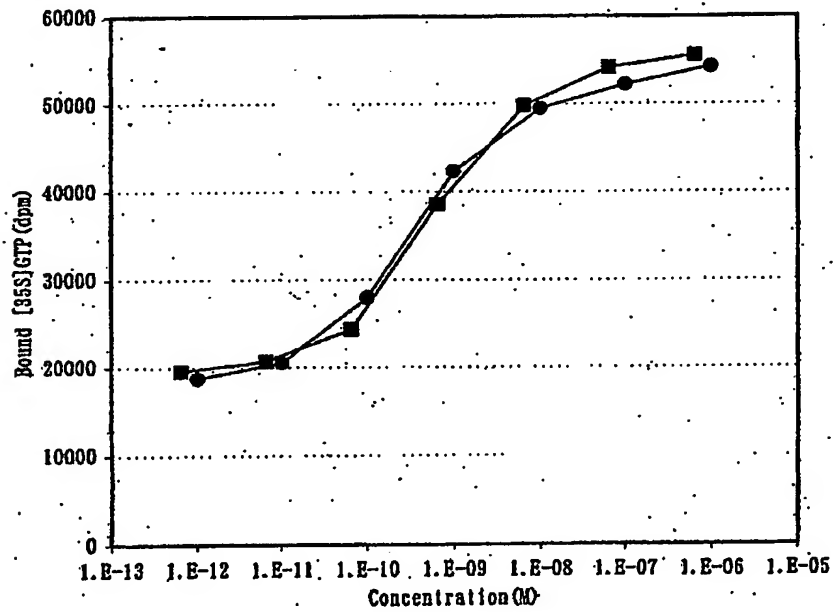
【図15】



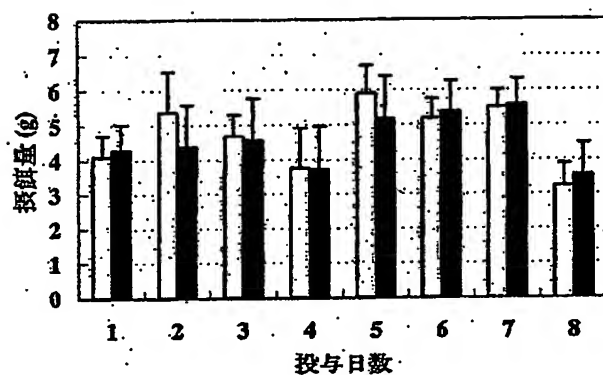
【図16】



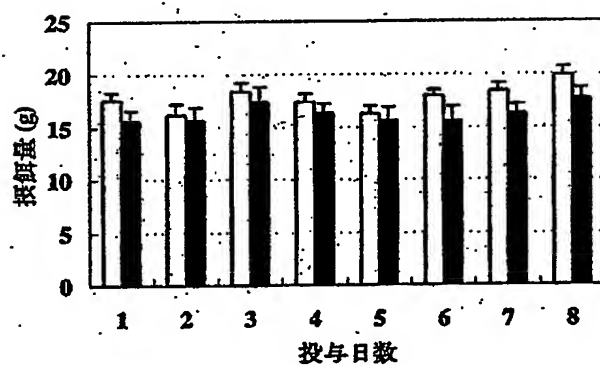
【図17】



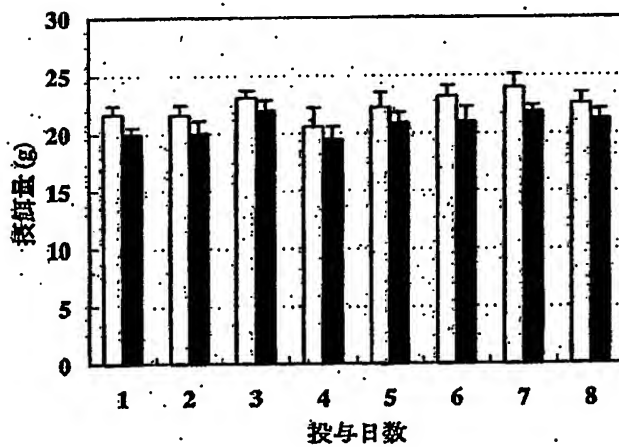
【図18】



【図19】

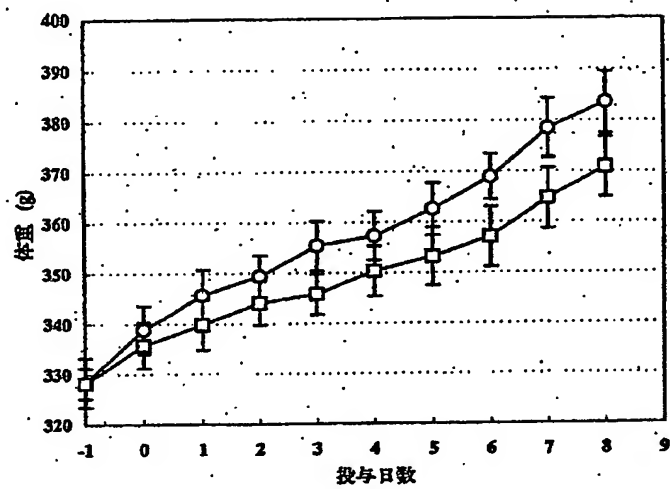


【図20】



特2001-403260

【図21】



特 2 0 0 1 - 4 0 3 2 6 0

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 体重増加抑制剤などの提供。

【解決手段】 本発明のリガンドは、優れた体重増加抑制剤などとして、あるいは優れた体重増加抑制薬などのスクリーニングなどに有用である。

【選択図】 なし

特2001-403260

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-403260
受付番号	20200010132
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0094
作成日	平成14年 3月 5日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年12月28日
-------	-------------

次頁無

特2001-403260

出願人履歴情報

識別番号 [000002934]

1. 変更年月日	1992年 1月22日
[変更理由]	住所変更
住 所	大阪府大阪市中央区道修町四丁目1番1号
氏 名	武田薬品工業株式会社